

創立25周年記念小史

—5年間のあゆみ—

1985年4月～1989年9月

京都私立病院協会

5年間を振りかえって

会長 清水 幸太郎



1985年12月、「改定医療法」が可決、成立した。前年8月に公布された健康保険法の改定に引き続き、需要と供給の両面から医療費の「適正化」、医療費抑制をおこなうための法律的整備がなされたことになる。

改定医療法は、医療法人の管理強化と地域医療計画作成の名のもとにベッド規制をおこない、医療供給体制の再編を目指している。1986年2月には、各都道府県における医療計画策定作業のマニュアルとして“医療計画策定指針”が出された。翌1987年2月には全国で最初の神奈川県地域保健医療計画が作成され、1989年3月の富山県での成立を以って、2年1ヵ月費して全都道府県で完了、病床過剰地域での増床は認められないことになった。

京都においては、1987年京都府地域医療計画検討委員会が設置され、当協会からも2名の委員を出し、検討に加わったが、府当局の思惑通りに進行し、1988年4月京都府医療計画が策定された。この時点で、6つの2次医療圏のうち、京都・乙訓医療圏を除いて残りは病床不足地域であったが、中部医療圏において230床の不足に対して約3倍の新設を含む増床希望が出された。これにどう対応するのか、地域医療計画策定後の最初のケースとして注目を集めた。当協会としては、畿つかの会員病院が増床を希望しており、これら会員の権益擁護のため全力をあげて取り組み、1989年2月の京都府医療審議会にお

いて当協会の主張通りの結論を引き出すことが出来た。

看護婦確保対策は当協会創設当初からの重要課題である。そのために京都保健衛生専門学校、京都中央看護専門学校を設立し、運営に力を注いできた。しかし、医療技術の高度化、病院の新設増床、特3類の新設等に見られる国の基準看護対策、労働基準法改正による労働時間の短縮、訪問看護等看護業務の拡大といずれを見ても看護婦を今まで以上に必要とし、これへの対応が緊急課題となってきた。

1987年5月、第13回通常総会において“京都保健衛生専門学校を改築し、定員増をはかる”ことが、満場一致で採択された。総会終了後直ちに学舎建設委員会が設置され、定員を増やす学科の検討、建物および資金調達の見直しに入った。9月には、京都府、京都市および日本自転車振興会へ補助金の申請をおこなうところまで漕ぎつけた。詳しくは別記に委ね省略するが、1987年、1988年の2年間に亘る苦労の甲斐があり、1989年4月、新校舎で定員増となった新入生を迎えることが出来た。これは一重に、関係官庁、厚生省当局、国会および府・市議会の方々の並々ならぬご理解と会員各位のご支援の賜物と深く感謝申し上げたい。

看護婦確保対策については、養成をおこなう一方、潜在する看護婦の掘りおこしや他府県への流出防止のため、職業紹介活動を本格的にお

こなうことを決め、1988年1月、労働大臣の認可を得て、職業安定法に基づく“医療従事者無料職業紹介事業所”を開設した。これは看護婦を中心に9業種の有資格医療従事者を対象とし、少しずつ実績をあげていっている。

病院経営の要である診療報酬は、1981年のいわゆる“6.1改定”以降、薬価引き下げとセットでほぼ2年に1回のペースで改定されているが、毎年の物価、人件費の上昇にも見合わず、病院経営は年々悪化してきている。1985年11月、全国の病院人が一堂に会し、「国民医療を守る全国病院大会」を開催、約1,000人が集い、診療報酬の適正化と病院経営の健全化を求めた。1987年にも「病院診療報酬改定要求・国民医療危機突破全国病院大会」が開かれたが、病院経営改善の兆しは一向に表われてこない。

厚生省は、あらゆる方面から医療費削減をおこなう手段を講じ、次々にアドバルーンを挙げ着々と実行に移してきているが、当協会では病院医療制度検討委員会を設置し、情報の収集と情勢判断、会員への情報提供などに力を注いでいる。また、“私病協情報サービス”を月2回発行し、年1回開催される地区会議において情勢報告をおこなうなど、出来るだけタイムリーな情報提供を心掛けている。

設立20年を経て、組織内部の見直しをすべきという声もあがり、まず定款の検討をおこなった。1985年11月定款検討委員会を設置し、会員

資格と役員の選出方法を中心に検討し、翌1986年9月理事会へ答申した。その答申を受けて1987年1月臨時総会を開催し、定款改定とそれに伴う諸規定の整備をおこなった。この結果、1987年4月、初めての会長、監事選挙がおこなわれた。

当協会の日常活動としては、各職種職務別組織活動が重要で比重も大きいですが、この5年間には更に理事長・院長会、医師部会、栄養士部会臨床検査部会、医療情報システム研究会が発足し、一層の充実をはかってきている。

1987年6月の“国民医療総合対策本部中間報告”を契機に新たな医療の再編が始まっている。老人保健施設の設立、国保安定化計画の推進や大きく組み変えられた1988年4月の診療報酬体系等々。これらの流れは、来年度予定されている第二次医療法改定での病院機能別類型化やそれを先取りする形で出てくるであろう来年4月の診療報酬改定と予断を許さぬ情勢である。

創立25周年を契機に新たな決意をもってすすんでいかなければならないと強く感じている。

会員皆様方のご協力をお願いする次第である。

京都私立病院協会創立25周年記念小史－5年間のあゆみ－

目 次

5年間を振り返って……………会長 清水幸太郎

各部会の活動記録

〈総務部〉

1	協会組織のうごき……………	2
	総会－2 理事会－2 会員のうごき－2	
2	会員相互の連帯と組織強化……………	4
	理事長・院長会－4 表彰－5 事務長会－5 婦長部会－11	
	医師部会－14 薬局長会－14 栄養士部会－16 臨床検査部会－17	
	放射線技師部会－18 薬事小委員会－19 医療情報システム研究会－20	
	地区会議－20 新春会員懇親会－21 創立記念式典－22	
3	他団体との交流……………	23
	近畿病院団体連合会－23 中央における病院団体－25 京都府医師会－26	
	京都府病院協会－26 京都府精神病院協会－27 京都府保険医協会－27	
4	行政や政党への対応……………	28
5	広報活動……………	29
6	医療従事者無料職業紹介事業……………	30
7	看護婦養成への取り組み……………	31
8	事務局体制のうごき……………	32

〈医制部〉

1	医療制度の検討と健全な病院経営への取り組み……………	33
2	保険・諸法に関する取り組み……………	37
3	救急・休日・時間外診療体制に関する取り組み……………	38
4	救急医療をめぐる問題への取り組み……………	40
	救急搬入事故対策委員会－40 救急医療委員会－41	
	京都府交通事故医療連絡協議会－42	

〈学術研修部〉

1	京都病院学会	44
2	教育・研修への取組み	47
	教育訓練初級コース—47 中堅幹部職員研修—48 看護卒後教育—48	

〈経営・厚生部〉

1	経営問題への取組み	52
	外部委託問題—52 クレジットカード取扱いの推進—52	
	購買担当者会議—53 融資の斡旋—54	
2	福利厚生活動	55
	病院対抗野球大会—55 病院対抗女子バレーボール大会—55	
	その他の厚生活動—56	

関連事業所5年間のあゆみ

1	京都府病院協同組合	58
2	京都保健衛生専門学校	63
3	京都府病院厚生年金基金	66
4	京都中央看護専門学校	71

●資料

京都私立病院協会役員の変遷と業務分担	74
関係諸団体への推せん委員一覧	77
年表	81

協賛企業

各部会の活動記録

総務部

医制部

学術研修部

経営・厚生部

掲載にあたってのおことわり

①本誌で取り扱った内容は、1985年4月以降、1989年9月末日までのものとしました ②人物氏名は敬称を略させていただきました ③役員・委員氏名の後の（ ）内は、所属施設名を現わします。なお、同一項で2回以上の同一人物の記載については氏名のみとしました。

総務部

1 協会組織のうごき

1 総会

当協会の重要事項を議決する総会は、1985年以降、5回の通常総会と2回の臨時総会が開催された。通常総会では、協会および京都保健衛生専門学校の事業報告、歳入歳出決算、次年度事業計画、予算を審議した。下に示したうち、第11回、第13回、第15回の通常総会では役員の変更をおこなった。

▶第11回通常総会

1985年5月29日 於・ホテル京阪京都

▶臨時総会(1985-1)～役員改選に関する件

1985年7月3日 於・京都東急ホテル

▶第12回通常総会

1986年5月28日 於・京都国際ホテル

▶臨時総会(1986-1)～定款変更に関する件等

1987年1月29日 於・京都府医師会館

▶第13回通常総会

1987年5月27日 於・京都全日空ホテル

▶第14回通常総会

1988年5月25日 於・京都全日空ホテル

▶第15回通常総会

1989年5月24日 於・京都東急ホテル

2 理事会

毎月第一、第三水曜日を定例会として開催してきた。協会の執行機関として、理事会規定に定められた事項について報告、議事をおこなった。なお、理事会規定は1975年に制定されたままになっていたのを、1987年4月にその一部を



改正した。

▶第5期理事会(1984年 月～1985年6月)

計48回開催

▶第6期理事会(1985年7月～1987年5月)

計44回開催

▶第7期理事会(1987年6月～1989年5月)

計46回開催

▶第8期理事会(1989年6月～1989年9月)

7回開催

3 会員の動き

1985年度末(昭和60年3月31日)より1989年9月30日現在までの会員数と病床数の動きを以下に示す。

		1985年度末	1986年度末	1987年度末	1988年度末	1989年 9月30日
会 員 数	会 員	158	159	164	169	168
	特別会員	9	10	13	12	12
	計	167	169	177	181	180
病 床 数	会 員	22,688	23,611	26,338	26,747	26,690
	特別会員	48	54	63	54	59
	計	22,736	23,665	26,401	26,801	26,749

▶1989年9月30日現在における病床数内訳

①会員 一般	19,986	②特別会員 一般	59
結核	397		
精神	6,273		
伝染	34		
合計	26,690		

▶1985年度以降の新入会員 ()内は入会月

宇治徳洲会病院 (1985年11月)
 烏丸一条病院 (1985年11月)
 田辺内科病院 (1985年11月)
 島原病院 (1985年12月)
 原田病院 (1986年12月)
 高折病院 (左京区、1987年1月)
 京都民医連中央病院 (1987年3月)
 柏木産婦人科医院 (1987年3月＝特別会員)
 北辰堂佐藤病院 (1987年4月)
 浜田病院 (1987年4月)
 大和診療所 (1987年8月＝特別会員)
 廣瀬病院 (1987年9月)
 賀茂病院 (1987年9月)
 桃仁会病院 (1987年10月)
 日本バプテスト病院 (1988年1月)
 中津川内科診療所 (1988年3月＝特別会員)
 大岡医院 (1988年4月＝特別会員)
 京都南西病院 (1988年4月)
 林病院 (1988年4月)
 洛西シミズ病院 (1988年4月)
 京都地域医療学際研究所附属病院 (1988年6月)
 あたご病院 (1988年10月)
 平井産婦人科 (1988年12月＝特別会員)
 南病院 (1989年1月)
 愛寿会同仁病院 (1989年2月)
 梅田医院 (1989年3月＝特別会員)
 萌友病院 (1989年10月)
 ▶退会
 東脇台病院 (1985年9月)
 上野内科病院 (1985年10月)
 川西診療所 (1986年3月)
 革島外科病院 (1986年5月)
 高折病院 (中京区、1987年1月)
 高岡胃腸医院 (1988年4月)
 雑賀医院 (1988年6月)
 平井病院 (1988年12月)
 烏丸一条病院 (1989年1月)
 中野眼科医院 (1989年3月)

花園病院 (1989年8月)

ピネル病院 (1989年9月)

萌友病院 (1989年9月)

▶物故者 ※役職は当時

矢田文平 (医療法人矢田会矢田病院院長・1985年4月1日)
 森武史 (医療法人社団乱森翠泉会森産婦人科医院院長・1985年6月12日)
 栗岡恵 (城北病院院長・1985年8月23日)
 上野隆夫 (上野内科病院院長・1985年5月23日)
 中尾栄壮 (中尾外科病院院長・1985年10月8日)
 太田典禮 (医療法人財団太田会太田病院理事・1985年12月5日)
 河端修一 (河端病院院長・医療法人一和会新河端病院理事・1986年1月3日)
 陳松齡 (医療法人松壽会共和病院理事・1986年10月9日)
 中嶋英一郎 (中嶋外科病院元理事・1986年11月8日)
 雑賀宣二郎 (雑賀医院院長・1986年11月12日)
 南部捨治 (南部病院院長・1986年12月13日)
 鈴木民雄 (東舞鶴病院院長・1987年3月9日)
 高辻覚 (社会福祉法人宇治病院理事・1988年1月23日)
 桑原健造 (桑原病院・なぎ辻病院理事・1988年6月4日)
 上久保英市 (花園病院院長・1988年12月16日)
 平井脩 (平井病院院長・1988年12月20日)
 大槻嘉男 (医療法人亀岡病院理事・1989年4月24日)

総務部

2 会員相互の連帯と組織強化

1 理事長・院長会

これまで理事長・院長に限定した会は当協会になかったが、会員の要望により発足に踏みきった。経営管理の研修や会員間の親睦を中心目的に年2回ほど開催し、講演内容は後日、講演録として「京都私立病院報」臨時号で紹介している。

本会も5年目10回をかぞえ、研修と懇親の場として定着してきている。毎回50名以上の参加者があり、評判もよい。

- ▶第1回・1986年3月8日 於・京都ホテル
テーマ / 私的病院の将来
講師 / 佐分利輝彦 (社会保険審査会委員・元厚生省医務局長)
- ▶第2回・1986年7月12日 於・京都ホテル
テーマ / 病院経営の行方
講師 / 河北博文 (河北総合病院副理事長)
- ▶第3回・1986年11月1日 於・ホテル京阪京都
テーマ / 病院の経営に役立つ管理学
講師 / 紀伊国献三 (筑波大学教授)
- ▶第4回・1987年3月14日 於・京都東急ホテル
テーマ / 私の歩んだ道
講師 / 塚本幸一 (株式会社ワコール会長・京都商工会議所会頭)
- ▶第5回・1987年10月24日 於・京都ホテル
テーマ / 老健施設について～老健審答申を聞く
講師 / 吉田清彦 (日本医師会常任理事・老人保健審議会委員・中央社会保険医療協議会委員)
- ▶中野進先生退任記念講演会・



1987年7月18日 於・京都都ホテル

テーマ / 日本における医師と病院～社会学・表現学的視点より

講師 / 中野進 (京都私立病院協会前会長・京都四条病院院長・京都市きづ川病院理事長)

▶新春懇親会講演会・1988年1月16日

於・京都全日空ホテル

テーマ / 国民医療総合対策本部の今後の動向を読む

講師 / 岡田玲一郎 (社会医療研究所長)

※上記二つは理事長・院長会を兼ねての開催

▶第6回・1988年6月4日 於・京都グランドホテル

テーマ / 今後の日本の医療の動向～私立病院の果たす役割

講師 / 高原亮治 (厚生省保険局医療課企画官)

▶第7回・1988年10月22日 於・京都グランドホテル

テーマ / 病院機能評価をめぐる動向と今後の展望
講師 / 大道久 (日本大学医学部病院管理学助教授)

▶第8回・1989年9月21日 於・からすま京都ホテル

テーマ / 医療経済の問題点

講師 / 伊東光晴 (京都大学経済学部教授・中医協公益委員・同、医療保険関連領域研究会座長)

2 表彰



国および地方自治体より依頼のあった各種表彰者の推薦に対して、会員の推薦をおこなった。当協会の推薦分のみを示す。

▶ 京都府救急医療功労者表彰(9月、救急の日)

- 1985年・個人の部 / 花房節哉(花房)
団体の部 / 財団法人仁風会京都四条大宮病院
- 1986年・個人の部 / 根本浩介(根本)
団体の部 / 医療法人シミズ病院
- 1987年・個人の部 / 小河一夫(京都市南)
団体の部 / 桑原病院
- 1988年・個人の部 / 大羽喜雄(大羽)
団体の部 / 河端病院
- 1989年・個人の部 / 小澤利夫(小澤)
団体の部 / 医療法人和松会大和第二病院

▶ 京都府保健医療功労者表彰地域保健医療部門

- 1985年・財団法人丹後中央病院
- 1987年・医療法人財団太田会太田病院
- 1988年・医療法人西陣健康会堀川病院

3 事務長会



京都私立病院協会設立以来、協会の中核的な組織のひとつとして、様々な役割を演じてきた事務長会も、近年益々活発な活動を展開している。事務長会が担う役割は多岐にわたるが、発足以後、病院経営の安定と事務部門の効率化と資質の向上を目的として種々の事業に取り組んでいる。周知の如く、今日における病院の経営管理を担っている極めて重要な立場におかれている事務長が協会の理念のもとに結集し、積極的な研究活動や情報交換を通して、病院固有の諸問題を事務的側面から解決していく意義は非常に大きい。また、事務長会の存在は京都府下の他の医療関係団体には見られない当協会の組織的機能の特徴であり、強力なブレーンとなっている。全国的にみても常に先駆的な活動の担い手として評価を受け、充実した活動内容は広く世間の注目を集めるに至っている。

特にこの5年間、事務長会は常任委員会ならびに各部会を中心に、以前にも増して多様な活動を行ってきた。以下に5年間の事務長会の足跡を項目別に紹介する。

● 常任委員会

1985年から2ヶ年は、奈良静鴻委員長を中心に事業が運営された。1985年4月には、かねてより当協会事務長会が要請してきた近畿病院団体連合会事務長会が正式に発足する運びとなり、

当協会が初代の当番県として大役を努めることになった。これは近畿地区病院団体の団結強化にとって特筆すべき有意義なことであった（近畿病院団体連合会の項に別記）。

1986年には、民間医療保険、給食業務委託、老人保険法改定、売上税など病院経営に直接関係する諸問題が続出し、毎月の定例会では活発な意見交換や調査研究が展開された。

1987年からは、増田耕三委員長のもとで活躍がおこなわれることになった。各部会の再編成が行われ、従来の総務・医事・労務・経営の4部会から労務・経営・医制の3部会体制となり、常任委員会を中核にそれぞれの部会の有機的連携を目指すことが確認された。またこの年からは、定例会における協議事項のまとめをファックス通信などの利用で全会員病院の事務長に送付するほか、その時々タイムリーな情報を提供してゆくこととなった。

1988年の事務長会は、従来から定着している各種事業を整備発展させる一方、病院が直面する次の2つの大きな問題に対応することになった。

厚生省の第3次看護婦需給計画の策定指針が示されたことに伴い、事務長会が中心となって看護婦不足の実情を示すことを目的として、「看護職員の就業の現状と今後の需給についての調査」を実施した。その結果、会員病院での不足の実態が明らかとなり、看護婦養成における行政の責任を追求してゆく必要性を認識するとともに、理事会に対し早急に運動を進めるよう提案を行った。

1989年4月からの消費税の導入は、医療界においても少なからぬ影響を受けることになった。これには当協会でも種々の角度から対応策を講じることになり、事務長会の担当となった。主な取組みとしては患者向ポスターの作成、病院窓口担当者用チラシの作成、消費税転嫁方法の検討などであった。

1989年からは、増田委員長の二期目の時代となる。この年の事務長会の総会で内規の一部が改正され、常任委員の定員が21名から25名に拡

大された。また、その構成も委員の若返りが図られ常任委員会が一層強化される一方、部会編成では医事部が復活され、4部会体制となった。事業面では、1990年に予定されている「第2次医療法改正」への対応、看護婦養成問題への継続的な取組み、週休2日制への対応、事務長養成講座の開設などがあげられている。

委員 / 1985～1986・委員長＝奈良静鴻（洛陽）
副委員長＝板坂勉（宇治） 増田耕三（西陣）
家辺隆雄（吉川、1986年10月まで） 米澤鐵志（高雄、1986年1月から常任委員） 常任委員
＝石田愼一（新河端） 岡崎展也（富士原）
蔭山清司（修学院） 日下部功（武田） 黒田儀一（丹後中央） 高城正（太秦） 田川熊雄（第二岡本） 竹内正三（京都南） 玉田弘美（大和、1986年1月まで。1986年11月以降は同院、田中克彦）
以下1986年2月から10月まで、永井佑二（九条、1986年2月からは副委員長） 中川三明（富田） 西池季一（堀川、1986年11月からは副委員長） 西村清（久野） 村上忠男（中村） 山下幸造（京都桂）
1987～1988・委員長＝増田耕三 副委員長＝板坂勉 田川熊雄 永井佑二 米澤鐵志 常任委員＝明石純（明石） 秋山俊二（蘇生会） 鶴飼五郎（丸太町） 岡崎展也 蔭山清司 川勝敏廣（武田、1988年10月から） 日下部功（1988年9月まで） 黒田儀一 竹内正三 苗村和夫（北） 中野種樹（長岡） 中川三明（1987年11月まで） 西池季一 西川成史（ユチチカ中央） 西村清 村上忠男 山下幸造 矢野正洋（富田、1987年12月から）
1989～・委員長＝増田耕三 副委員長＝板坂勉 鶴飼五郎 西川成史 西村清 常任委員＝明石純 秋山俊二 池上澄夫（堀川） 岡崎展也 蔭山清司 川勝敏廣 田川熊雄 竹内正三 苗村和夫 中谷泰幸（なぎ辻） 中野種樹 永井佑二 奈良静鴻 沼野勝（丹後中央） 前川輝男（宇治川） 室崎宗美（北山） 矢野正洋 山下幸造 横井一夫（吉川） 米澤鐵志

●総務部会

取り組んだ主な事業は以下の通り。

▶1985年度 ①看護学校に係る問題で入学試験について中央看護専門学校と話し合いをおこなった ②「京都市下水道排水調査」に対し、病院側の意見をまとめ市当局に対し要望書を提出した ③中堅幹部職員研修の企画運営をおこなった ④推せん入試について保健衛生専門学校第1看護学校と話し合いをおこなった

なお総務部会の業務は、1987年以後は常任委員会で取組むことになった。

部員 / 1985～1986・部長＝米澤鐵志（1986年1月まで） 家辺隆雄（1986年2月～10月） 永井佑二（1986年11月から） 部員＝田川熊雄 永井佑二 日下部功 西村清 蔭山弘（比叡） 小野克美（八幡中央） 垣内安正（長岡） 俣野良平（ムツミ） 高町昌幸（京都武田） 野村幸温（安井） 早田昭（鈴木） 鶴飼五郎

●医事部会



取り組んだ主要事業は以下の通り。

▶1985年度 ①医療事務勉強会を2回開催した ②私費料金、民間医療保険問題などについて情報交換をおこなった

▶1986年度 ①請求事務の機械化にともなう手続ミスによる返戻が増加したため、返戻レセプト実態調査をおこない、その傾向を分析した ②医療事務勉強会を開催した ③診療報酬改定にともなう新点数検討会を開催した

▶1989年度 ①国保基金の審査委員（私病協理事）との懇談会を開催し審査傾向について情報

を得た ②医療事務勉強会を開催した（北部地区でも実施） ③レセプトの返却および減点査定が年々増加していることから「返却及び減点実態調査」を実施し傾向を見た

委員 / 1985～1986・家辺隆雄（部長、1986年1月まで） 西池季一（部長、1986年2月から） 蔭山清司 竹内正三 高城正 村上忠男 長命義隆（室町） 小足寛嘉（京都回生） 松本次郎（西京都） 小川比佐男（京都南） 福井満弘（京都桂） 大八木宏（新河端） 中村秀喜（田辺中央） 国分敬英（木津屋武田） 早川静好（堀川） 1987～1988（経営部に統合） 1989～・鶴飼五郎（部長） 米澤鐵志 蔭山清司 明石純 中谷泰幸 沼野勝

●経営部会



取り組んだ主な事業は以下の通り。

▶1985年度 ①昭和59年度病院経営分析調査の実施とその集計 ②病院窓口でのクレジットカード取扱い推進 ③以下の定例勉強会の開催

「ホテル業からみた病院経営—Hospitalityの重要性について—」講師 / 大津濟（京都センチュリーホテル社長）

「病院の経営危機について」講師 / 玉川雄司（京都南病院副理事長）

「金融機関からみた今日の医療情勢について」講師 / 梅園良雄（京都銀行融資部審査役）

「米国における病院管理者と病院管理学教育」講師 / 中野種樹（長岡病院企画管理室長）

「事務長に必要な作法の常識について」講師 / 小林洋子（全日本作法会教授）

「総婦長からみた事務長像」講師/細井恵美子
(京都南病院総婦長)

④コンピュータセミナーを開催(医事部会と合同)し、「京都府下の私立病院におけるコンピュータの利用状況について」規模内容の異なる5病院の事例発表と情報交換をおこなった

▶1986年度 ①昭和60年分病院経営分析調査の実施とその集計をおこなった ①病院窓口でのクレジットカードの取扱いを推進した ③以下の勉強会・情報交換会を定例開催した。

「私の体験したマスコミの世界・医療の世界」講師/小西敏夫(岡本病院事務長)

「病院における広告戦略」講師/山本茂良(大阪日刊スポーツ新聞広告部長)

「病院における労使関係の正常化について」講師/早田昭(鈴木病院事務長)

「事務長作法講座・茶室での抹茶のいただき方について」講師/小林洋子(日本作法会教授)
情報交換会/「病院経費の節減対策について」

「夏季賞与の支給状況について」「院内における職員研修について」「看護学生への奨学金制度について」「病院における役員・理事への報酬について」「62年度賃金改訂について」「経営・労務に係る諸問題について」(労務部会と合同)

▶1987年度 ①昭和61年度分病院経営分析調査の実施とその集計をおこなった ②医療事務勉強会(3日間集中研修)を2回に分けて開催した ③以下の勉強会・情報交換会を定例開催した

「病院経営者からみた事務長像」講師/蔭山弘(比叡病院理事長)

「在宅ケアへの取組みについて」講師/奥田守(堀川病院居宅療養部)

情報交換/「経営管理上、今、何が病院にとって問題か?」についての意見交換「医療経営の近代化・安定化に関する懇談会の報告書をめぐっての意見交換」

▶1988年度 前年の部会廃統合により医事部門が経営部の担当となり、またこの年4月の診療報酬改定はマイナス改定となり、当部会の活動の

中心は医事関係が主となった。①「病院経営に関する勉強会」で病院会計準則への理解と経営分析調査の意義・手法の2点を検討した ②昭和62年度分病院経営分析調査の実施とその集計をおこなった ③医療改定影響調査の実施とその集計をおこなった ④医事担当者全体会議を2度開催した(「新点数勉強会」「医事に係わる情勢報告・医療費改定影響調査報告」) ⑤医療事務勉強会(3日間集中研修)を開催した。

▶1989年度 ①昭和63年度分病院経営分析調査の実施とその集計をおこなった ②業務委託、特に給食部門における調査研究を開始した ③部門別原価計算の方法論の検討を始めた ④会員基本調査のフォーム作成に取組んだ。

部員/1985~1986・板坂勉(部長) 岡崎展也 黒田儀一 中川三明 宮川郁男(愛生会山科) 香月正秀(三菱京都) 中野種樹 石原良次(京都南) 前川輝男 山内文夫(大原記念) 吉川和夫(共和) 滋岡賢次(宇治黄檗) 岩崎昭(京都きづ川) 中村信男(医仁会武田) 西本利男(田辺) 山元京子(山元) 山西敏夫(岡本) 坂口秀隆(シミズ) 秋山俊二 栗岡千代(城北) 峯岸亘(城南) 越後重男(太田) 矢田武(矢田) 奥野一夫(福島) 黒岩晟(中嶋外科) 松山則彦(河端) 西内健雄(洛北) 加藤剛(伊藤) 高山正夫(西京) 谷口留夫(葛岡整形外科) 久原渥美(西山) 西川成史 中村政司(上京) 田中治雄(宇治徳洲会) 1987~1988・板坂勉(部長)

明石純 岡崎展也 蔭山清司 日下部功 中川三明 古谷三朗(亀岡) 栗岡泰文(城北) 岩崎昭 角野英機(三菱京都) 橋本正夫(愛生会山科) 久原渥美 横井一夫 安野昌彦(第二大羽) 渡部修(宇治徳洲会) 澤井弘三朗(小澤) 源福夫(醍醐) 吉金幸雄(さいわい) 小西敏夫 大西勇(右京) 藤田一雄(金井) 谷山まさ子(城南) 石原良次 坂口秀隆 野村幸温 1989~・西村清(部長) 奈良静鴻 矢野正洋 横井一夫 前川輝男 池上

澄夫

● 労務部会

取り組んだ主な事業は以下の通り。

▶1985年度 ①昭和60年度賃金実態調査の実施とその集計をおこなった ②労基法の運用、準・深夜交通費支給基準、寮費問題、三基準運用問題などについての情報交換を行った。

▶1986年度 ①昭和61年度賃金実態調査の実施とその集計報告会を開催した ②「委託業務の検討」に関する研修会を実施した（講師/花崎公生・HANA経営研究所長） ③その他、この年は業務委託問題についての情報交換を積極的におこなった。

▶1987年度 ①この年の部会再編成にともない、中堅幹部職員研修の運営が労務部の担当となり、労務管理面を強調した研修内容を企画した ②労働基準法の改正にともない、労働基準局と折衝し病院向けの研修会の開催を企画した ③昭和62年度賃金実態調査の実施とその集計報告会を開催した ④定例会において、B型肝炎ワクチン問題、人材派遣問題、医師の有給休暇の取扱いをめぐる問題などについて情報交換をおこなった。

▶1988年度 ①昭和63年度賃金実態調査の実施とその集計をおこなった ②労働時間問題への取り組みを開始した（労働時間の短縮、週休2日制への対応のため定例会において意見交換） ③中堅幹部職員研修の企画運営をおこなった（この年より内容の充実を図るため、当部会を中心に各部会長ならびに講師スタッフによるプロジェクト会議を設置しテキストなどの検討をおこなった）。

▶1989年度 ①週休2日制への本格的な対応のため、実施病院の事例報告や導入プロセスのモデル作りを始めた ②平成元年度賃金実態調査の実施とその集計をおこなった ③中堅幹部職員研修の企画運営をおこなった ④パートタイマーの就業規則についての研究を開始した。

部員 / 1985～1986・増田耕三（部長） 玉田弘

美 山下幸造 石田愼一 竹山裕治郎（大和六地藏） 田中三二（相馬） 溝川善夫（大島） 源福夫 大澤剛（大澤） 村上文臣（京都博愛会） 黒田崇（長岡京） 田中克彦 1987～1988・永井佑二（部長） 秋山俊二 鷗飼五郎 黒田儀一 西池季一 西川成史 狭間由浩（丹波笠次） 鈴木昇（相馬） 西本利男 土居皓（松ヶ崎） 小野克美 早田昭 1989～・西川成史（部長） 永井佑二 秋山俊二 竹内正三 川勝敏廣 室崎宗美

● 医制部会

取り組んだ主な事業は以下の通り。

▶1987年度 この年、医療・保険の制度面の問題を検討する場として新たに医制部会が発足し、①国民医療総合対策本部の中間報告や老人保健施設問題など病院医療をとりまく情勢を分析し部会として知識を集約するとともに情報交換に主眼をおいた取組をおこなった ②レセプト審査が強化されるなかで審査問題についての検討を始めた。

▶1988年度 ①消費税への対応手段を検討し予想される問題点を整理した ②病院における届け出・手続きマニュアルを作成した。

▶1989年度 ①1990年に予定されている第2次医療法改正に向けての情報収集をおこなった ②臨調以後、特に中間報告以降の医療界の動向に関する資料づくりをおこなった。

部員 / 1987～1988・米澤鐵志（部長） 竹内正三 苗村和夫 中野種樹 村上忠男 山下幸造 村田四郎（吉川眼科） 真田利門（宇治黄檗） 佐藤安弘（京都五条） 山内文夫 井上徹（安立） 高橋喜一郎（泉谷） 林郁郎（医仁会武田） 石田愼一 足立定雄（東舞鶴） 中尾彰壮（中尾） 前川輝男 小島永芳（葛岡整形外科） 蔭山弘 長命義隆（室町） 竹原正（毛利胃腸科） 真柄征市（京都市医連中央） 岡部睦美（壬生川） 今村岩孝（東舞鶴） 大西勇 高城正 山内文夫 1989～・板垣勉（部長） 山下幸造 田川熊雄 岡崎展也 中野種

樹 苗村和夫

● 総会



▶1985年度 5月17日 於・京都センチュリーホテル

役員改選で20名の新委員を選出。この年の事業重点項目①近病連事務長会の発足 ②クレジットカードの導入推進 ③ファクシミリ設置の推進一を決定した。

▶1986年度 5月16日 於・ホリデイイン京都
前年度事業報告、ならびに小野薬品不買問題、春闘情勢などについて意見交換をおこなった。

▶1987年度 5月15日 於・ホテルニュー京都
役員改選で21名の新委員を選出。昭和44年に作成された事務長会内規を現状に合った内容に改正することを提案したが、次期総会に再提案することになった。

▶1988年度 5月13日 於・ホテルニュー京都
前年度事業報告とこの年の事業計画について検討した。厚生省の医療政策の問題点について話題提供を行い、活発な意見交換を繰り広げた。

▶1989年度 5月12日 於・京都国際ホテル
事務長会内規改正が承認され、25名の新委員を選出。また部会の在り方について検討し、従来のオープン参加方式を改め常任委員のみによる各部会構成となった。さらに、この年の事業計画骨子として①第2次医療法改正への対応 ②看護養成への取組み ③週休2日制への対応一などを決定した。

● 全体会議

事務長会では常任委員会や部会の開催のほか、

毎年春の総会の開催とともに、12月には忘年会を兼ねての全体会議を恒例化し、広く一般会員からの意見を聴く場を設定している。

● 研修旅行

事務長会では例年、他府県で個性的な事業運営をおこなっている医療機関などを訪問し、施設見学や相手方との懇談をおこなう形で研修旅行を実施している。

▶1985年度 2月13・14日 浩仁会福井病院(長崎市)を訪問。同院の特徴ある経営管理について説明を受け、F.C.Rなど各種施設を見学。

▶1986年度 11月20・21日 静岡県熱海において、中村秀一(厚生省保険医療局企画課長補佐)より「病院を取り巻く医療情勢—老人保健施設問題等について—」の講演を聞く。

▶1987年度 11月20・21日 国家公務員共済連合会呉共済病院(呉市)を訪問。看護二交待勤務の実態などを視察。病院の中にある商店街が印象的であった。

▶1988年度 11月10・11日 ①小山田記念温泉病院(四日市市)を訪問。モデル事業の老健施設をはじめ包括的な老人医療設備を中心に見学 ②トヨタ記念病院(豊田市)カンバン方式で有名なトヨタ独自の在庫管理方式の実践を視察。

● 事務長研修会

常任委員会や各部会では、事務部門の立場から医療界での様々な問題にスポットをあて、適時事務長に必要な研修会を企画し、数多く実施してきた。

▶1985年度 ①「金融自由化と病院財務」講師/増田寿幸・京都信用金庫人材開発室長(12月13日)

▶1986年度 ①「改正労働基準法について」講師/森實利清・京都労働基準局監督課長。渡辺文雄・同監察官「男女雇用機会均等法について」講師/橋本延子・京都婦人少年室長(3月17日)

①「広告戦略と効果」講師/川添安洋・朝日放送ラジオ局営業部次長(5月16日)

▶1987年度 ①「魅力あふれる病院づくり—効

果的なイメージアップの進め方」講師/石田章一・ビジョン代表取締役（1月22日）②「労務対策を中心とした病院経営」講師/長谷川武・中京大学商学部助教（3月17日）③「最近の審査の動向」チューター/藤森克彦・ユニチカ中央病院長（12月14日）

▶**1988年度** ①「改定労働基準法説明会」講師/西口賢一・京都労働基準局専門監督官（1月22日）②「消防法施行令改正に伴うスプリンクラー設置に関する説明会」講師/蔭山光三・京都市消防局予防部指導課設備係長、岡本富雄・同消防司令補（3月4日）③「病院経営の明日への指針～安定と発展への基礎づくり～」講師/橋本寿・社会福祉医療事業団医療経営指導室長（7月28日）

▶**1989年度** 「週休2日制問題に関する事務長勉強会」事例発表者/西川成史、竹内正三、秋山俊二（9月26日）

●南部地区・北部地区での事務長会

南部地区においては、従来より宇治久世医師会病院部会を母体として事務長会が活発な活動を行っている。その構成員の大半が当協会会員でもあることから、事務長会でも相互に協力関係を持ちながら行動をとりにしてきた。なお1989年から、八幡、綴喜、久御山にも対象を広げ、南部地区事務長会の発足と定例的に開催してゆくことを決めた。

北部地区事務長会でも、この5年間、当該地区固有の問題解決や情報交換を中心とする定例会を年に2～3回のペースで開催してきた。また今後北部地区独自の医事研修会や庶務担当者会議なども実施してゆく計画も具体化してきており、益々活況を程するものと思われる。

●他府県の事務長会との交流

近年、他府県においても事務長会の活動の気運が高まってきている。それにともない当協会事務長会としても積極的な交流を求め、様々な情報の交換や意見交換を行ってきている。また近病連加盟の近隣府県が企画する研修会や各種

催しにも可能な限り参加するよう努めてきた。（近病連での事務長会については別記）

4 婦長部会



毎月1回オープン参加形式での定例会を開催し、役員に関わらず看護管理者なら誰でも自由に参加できるという他の部会にはないユニークさを持っている。各種研修会の企画をはじめ、看護に関わる問題の検討や、情報交換の場としての役割も果たしており、1987年には、新たに基準看護の取得、類進のための検討を行う委員会も設置された。また、各委員会は適宜開催している。

役員/1985～1986・関和香子（部会長、ユニチカ中央） 我妻節子（副部会長、以下同、武田） 久世郁子（シミズ・1985年まで） 浜島花江（京都桂） 松阪富（三菱京都） 中井ヨシエ（京都博愛会・1986年から） 1987～1988・松阪富（部会長） 関和香子（副部会長、以下同） 浜島花江 真島初枝（第二京都厚生） 1989～・関和香子（部会長） 我妻節子（副部会長、以下同） 市下澄子（八幡中央） 庭山英介（長岡・1989年9月まで） 松阪富（1989年9月まで） 絹田京子（京都武田・1989年10月から） 京子（京都武田・1989年10月から） 松川房子（大島・1989年10月から）

担当理事/1985・大川原康夫（愛生会山科） 1986・相馬秀臣（相馬） 1987～1988・伊藤誠一（伊藤） 1989・谷口政春（堀川）

●総会

1985年5月23日 於・新都ホテル
1986年5月29日 於・マリアージュ
1987年5月20日 於・京都中央看護専門学校
1988年5月19日 於・東華菜館
1989年5月25日 於・三菱自動車工業

●総務委員会

委員 / 1985～1986・関和香子 我妻節子 久世郁子 浜島花江 松阪富 石井松代(堀川)

河野シズ(第二久野) 小山君子 1987～1988

・松阪富(委員長) 関和香子(副委員長)

浜島花江 中井ヨシエ 真島初枝 平田とみ

(北) 庭山英介 河野シズ 1989～・関和香子

(委員長) 松阪富(副委員長、1989年9月

まで) 我妻節子 庭山英介(1989年9月まで)

市下澄子 谷本なつ(大原記念) 中野誠子(宇

治川) 河野シズ 絹田京子(1989年10月から)

松川房子(1989年10月から)

●教育推進委員会

この委員会は、婦長部会での各種研修会を企画し、開催する役割を担っている。現在では、①婦長による管理を内容とするもの ②看護に関する専門的内容のもの ③一般教養を内容とするもの——という3つの柱を設け、年間3回の研修会を開催している。また、今後は院内教育に関する資料など、委員会として情報収集に取り組んでいきたいと考えている。

委員 / 1985～1986・浜島花江 小山君子 大島幸子(高雄) 木村久子(丸太町) 白井英子(宇治川) 福田美智子(西陣) 松川房子

1987～1988・浜島花江 平田とみ 稲岡静子(京都大橋総合) 上久美子(吉川) 白井英子

谷本なつ 福田美智子 松川房子 1989～・我妻節子 谷本なつ 平田とみ 福田美智子 藤

春千恵子 浜塚五十鈴(京都桂)

●福利厚生委員会

委員 / 1985～1986・久世郁子(委員長、1985年

まで) 中井ヨシエ(委員長、1986年から)

河野シズ(副委員長) 岡田政子(西京都)

福島喜代子(小澤) 上久美子 山田清子(西

京) 吉川江美子(中村) 1987～1988・真島

初枝(委員長) 河野シズ(副委員長) 木之

下フジノ(賀茂) 四方敏子(西大路) 福島

喜代子 古府静江(中尾) 山田清子 1989～

・市下澄子(委員長) 河野シズ(副委員長)

福島喜代子 木之下フジノ 藤山正子(長岡京)

四方敏子

●学校協力委員会

当委員会は、京都保健衛生専門学校・京都中央看護専門学校両校の運営に関して意見を述べ、また学校教務との連携のなかで協力関係を保つために設置されたものであるが、定例会への学校教務の出席を得るようになって閉会された。

委員 / 1985～1986・松阪富(委員長) 石井松

代(副委員長) 角田麻千子(愛生会山科)

谷本なつ 藤春千恵子(洛和会音羽) 細井恵

美子(京都南) 三浦昭代(医仁会武田)

●基準看護検討委員会

1987年に基準看護の取得・類進のための検討を行う委員会として設置された。これまでの活動としては、基準看護上の必要書類記載項目リスト、実地調査マニュアル、要員計算に関する注意事項の作成などが挙げられるが、今後もひき続き情報収集とマニュアル作りに取り組む方向である。

委員 / 1987～1988・中井ヨシエ(委員長) 庭

山英介(副委員長) 我妻節子 市下澄子 井

上美代子(島原) 大島幸子 岡部登美子(京

都武田) 上枝美智(なぎ辻) 木村久子 進

藤美智子(小柳) 永原喜久代(新河端) 1989

～・庭山英介(委員長、1989年9月まで) 松

川房子(委員長、1989年10月から) 中野誠子

(副委員長、宇治川) 岡部登美子 大島幸子

成田和子(桃仁会) 赤松和子(第二岡本総合)

●講演会

▶1985年5月23日 於・新都ホテル

テーマ/京都の看護史を通して考える私の看護観

講師/岡部登美子(京都武田病院総婦長)

▶1986年5月29日 於・マリアージュ

テーマ / 婦長さん

講師 / 田村幸男 (宇治病院院長)

●研修会



▶1985年9月11日 於・京都教育文化センター

テーマ / 看護制度問題

講師 / 井上幸子 (日本看護協会常任理事)

▶1985年11月6日

テーマ / ターミナルケア

講師 / 福間誠之 (京都第一赤十字病院脳神経外科部長)

▶1985年12月4日

テーマ / 言葉づかいは心づかい

講師 / 滝田和子 (関西言論科学研究所副所長)

▶1986年2月14日

テーマ / 高齢化社会をむかえて老人福祉は今

講師 / 吉村勝美 (特別養護老人ホーム京都厚生園園長)

▶1986年9月10日

テーマ / 男女雇用機会均等法の施行にともなう労働基準法の研修

講師 / 木村茂 (京都労働基準局監察監督官)

▶1986年10月20日

テーマ / 看護に音楽療法を取り入れて

講師 / 藤井義博 (東芝EMI専売会社ミュージックプロモーター)

▶1986年11月19日

テーマ / 指導力と話し方

講師 / 滝田和子 (関西言論科学研究所副所長)

▶1987年5月20日

テーマ / 豊かな言語生活

講師 / 福知正温 (立命館大学文学部講師)

▶1987年11月19日

テーマ / 最近の看護のうごき

講師 / 中嶋芙美江 (京都府立医科大学総看護婦長)

▶1988年2月18日

テーマ / 看護管理

講師 / 高嶋妙子 (聖隷浜松病院総看護婦長)

▶1988年11月2日

テーマ / 私の看護論

講師 / 佐藤房子 (元大阪市立大学附属病院総婦長)

▶1988年12月14日

テーマ / 転換期にある医療のなかで求められる老人看護

講師 / 並河正晃 (京都桂病院内科部長)

▶1989年2月15日

テーマ / 人間関係

講師 / 杉野元子 (地域活動研究所)

●研修旅行

▶1985年8月24・25日

場所 / 岐阜県立下呂温泉病院と上高地

▶1986年8月30・31日

場所 / 上高地

▶1987年8月29・30日

場所 / 黒部・宇奈月温泉

▶1988年8月27・28日

場所 / 琴平

▶1989年8月26・27日

場所 / 奈良県吉野町

●こん親会

▶総会こん親会

1985年5月23日 於・新都ホテル

1986年5月29日 於・マリアージュ

1987年5月20日 於・新都ホテル

1988年5月19日 於・東華菜館

1989年5月25日 於・三菱自動車工業内山紫荘

▶もみじ狩と散策

1985年11月16日 於・東福寺とサウンドトラップ

▶新春こん親会

1986年1月22日 於・翠雲苑
1987年1月22日 於・マリアージュ
1988年1月27日 於・マリアージュ
1989年1月26日 於・マリアージュ

5 医師部会



本部会は1986年、会員施設に常時勤務する医師を対象に新たに設立された。会の目的は、医学医術の研鑽と部会員相互の親睦交流の2点である。年3回ほどの部会を開催し、講演会、研修会、施設見学など活発な活動を行っている。

会は7回を数え、講演テーマ、研修内容など充実して来た。今後は参加者が増えるよう検討が必要と思われる。

▶第1回・1987年3月24日 於・医仁会武田病院
施設見学 / 結石破碎器およびMRI他の見学

▶第2回・1987年5月30日 於・京都国際ホテル
テーマ / 脳卒中への外科的アプローチ
講師 / 菊池晴彦（京都大学脳神経外科教授）

▶第3回・1987年10月17日 於・京都府医師会館
テーマ / 臨床検査からみた病態の考察
講師 / 富田仁（京都博愛会病院院長・協会理事）

▶第4回・1988年2月5日 於・長岡病院
テーマ / 最近の精神科事情と施設見学および心身症・神経症・うつ病の見分け方と簡単な精神科薬の使い方
講師 / 小林一之（長岡病院院長・部会運営委員）

▶第5回・1988年6月2日 於・西陣病院

施設見学 / 第2世代腎臓結石破碎装置およびボジトロンCT他

▶第6回・1988年10月15日 於・第二岡本総合病院

施設見学 / ロビーコンサート・超音波内視鏡等
▶第7回・1989年7月6日 於・からすま京都ホテル

テーマ / ATLとAIDS

講師 / 日沼頼夫（京都大学名誉教授）

●医師部会運営委員会

委員 / 1986～1987～1989～・大川原康夫（愛生会山科） 富田仁（京都博愛会） 藤森克彦（ユニチカ中央） 青木正（西陣） 小林一之（長岡） 白川和夫（京都きづ川） うち1986～1987・相馬秀臣（相馬） 清水勉（シミズ） 井上一正（武田） うち1987～1989～・大澤直（大澤） 堀部登（武田）

6 薬局長会



①医薬品の品質に関する情報交換 ②学術研修活動 ③日常業務改善のための情報交換 ④医療制度の検討——を目的として発足した。この5年間を通じ、内容的にもますます充実し、会員病院の薬局長・薬剤師の交流・親睦の場として、また日常業務水準の向上を目的とした研修の場として、重要な位置を占めてきている。また、薬の業界紙でもときどき活動内容が記事に取り上げられ全国的にも知られるようになった。

▶第11回・1985年8月29日 於・京都府医師会館
テーマ/管理・院内薬事委員会

話題提供者/貴志悦子(宇治黄檗病院) 提英男(長岡京病院) 高橋武(北山病院)

▶第12回・1985年11月14日 於・京都府医師会館
テーマ/医療に関する法律(薬剤に関する医療事故を含む)・麻薬取り扱いをめぐって

講師/藤居利夫(京都府保険医協会理事) 森田重俊(京都府薬務課技術指導官)

▶第13回・1986年2月13日 於・京都府医師会館
テーマ/製剤

講師/池田久三(京都府立医大薬剤部副部長)
テーマ/調剤過誤の防止について

話題提供者/小見千穂(安井病院) 早川浩司(上京病院) 松崎悌二(愛生会山科病院)

▶第14回・1986年5月8日 於・京都府医師会館
テーマ/服薬指導・DI活動

話題提供者/加藤美智子(烏丸一条病院) 高橋武(北山病院) 鈴木盛豊(田辺中央病院)

▶第15回・1986年9月18日 於・京都府医師会館
テーマ/血液問題について

講師/佐治博夫(京都赤十字血液センター技術部長)

▶第16回・1986年11月13日 於・京都府医師会館
テーマ/コンピューターによる処方箋入出力問題について

講師/今川文典(京都市立病院・薬剤科)
話題提供者/松崎悌二(愛生会山科病院) 石田誠(第二岡本病院) 小見千穂(安井病院)

▶第17回・1987年2月12日 於・京都府医師会館
テーマ/最近の坐剤の開発について(抗生剤坐剤を中心に)

講師/掛谷宣治(京都薬品工業株式会社・取締役研究所長)

▶第18回・1987年5月12日 於・京都府医師会館
テーマ/医療情勢の特徴と医療産業の動向
講師/青木郁夫(阪南大学経済学部助教授)

▶第19回・1987年9月18日 於・京都府医師会館
テーマ/調剤過誤の防止について

話題提供者/加藤信一郎(西陣病院) 勝田晋

作(富士原病院) 八幡朋子(吉祥院病院)
三淵浩道(安井病院)

▶第20回・1987年11月20日 於・京都府医師会館
テーマ/劇物・毒物の取り扱いについて

講師/森本謙光(京都府薬務課)

テーマ/患者サービスについて

▶第21回・1988年3月24日 於・京都府医師会館
テーマ/今回の薬価改定について

話題提供者/貴志悦子(宇治黄檗病院) 大塚雅樹(大原記念病院) 須藤和勇(京都桂病院)
森下菊雄(京都南病院)

▶第22回・1988年6月28日 於・京都府医師会館
テーマ/バイオテクノロジーと医薬品開発
講師/山地正克(協和発酵工業医薬研究開発センター主査)

▶第23回・1988年9月16日 於・京都府医師会館
テーマ/業務改善～アンケートにこたえて

▶第24回・1988年11月11日 於・保栄薬工(株)京都工場(長岡京市)
テーマ/工場見学

今回初の工場見学会を企画し、局方品を中心とした中堅メーカーである保栄薬工(株)京都工場を訪れた。実際の作業中の様子を見ることができ、いろいろと得るものが多く、非常に有意義な見学会であった。

▶第25回・1989年1月20日 於・京都府医師会館
テーマ/血液問題について

講師/矢原靖司(京都府赤十字血液センター技術部長) 塩田明弘(京都府赤十字血液センター供給二係長)

▶第26回・1989年5月19日 於・京都府医師会館
テーマ/中世の壺と庭(文化教養講座)

講師/堀澤真澄(堀澤病院院長)

●薬局長会運営委員会

委員/1985～1986・三淵浩道(委員長、安井) 田中清隆(副委員長、宇治) 久保田恭子(船越) 芝山哲二郎(堀川) 八幡朋子(吉祥院)

1987～1988・三淵浩道 田中清隆 芝山哲二郎 坂野恭子(1987まで) 八幡朋子 加藤信一郎(西陣) 鈴木盛豊(田辺中央) 山腰奈三子

(小澤) 1989～・三淵浩道 田中清隆 芝山
哲二郎 八幡朋子 加藤信一郎 鈴木盛豊 山
腰奈三子 古川玉枝 (日本バプテスト)
担当理事 / 1985～1986・姫野純也 (上京)
1987～・大澤直 (大澤)

7 栄養士部会



当協会の給食部門に関する活動は、1960年代後半に活発に繰り広げられ、その後停止していたが、1986年に栄養士部会として再開された。

当部会の設立にあたっては、その目的として病院内における給食部門の役割を再認識し、他部門との連携の中で、特に基準給食の整備と向上を図ることを掲げている。ここ4年間における活動も確実にその成果を上げ、設立当初からの懸案であった「基準給食マニュアル」も完成し、現在では多くの病院で活用されている。病院給食を取り巻く諸情勢が大きく変化しようとしている今日、当部会に対する期待も今後益々大きくなるものと思われる。

▶第1回・1987年9月28日 於・京都府医師会館
テーマ / 基準給食関係帳票マニュアルの説明及び意見交換「病院における基準給食について」
講師 / 黒田延男 (京都府保険課医療事務指導官)

▶第2回・1988年7月16日 於・京都府医師会館
テーマ / 保険制度からみた病院給食の実態と今後
講師 / 原正俊 (厚生省保健医療局健康増進栄養課専門官)

▶第4回・1988年12月6日 於・京都府医師会館
テーマ / フードサービス～治療食にうるおいを～
事例発表①個人別喫食調査と患者指導 ②調理師によるベット訪問 ③あそび心を大切に～ワゴンサービス～ ④食器～陶器・ガラス食器を使用して～ ⑤温食について～温蔵庫を使用して～

講師 / ①佐本尚子 (北病院) ②沖滋 (安井病院) ③荒川尚子 (大澤病院) ④森田重美 (京都通信病院) ⑤渡辺善利 (京都南病院)

▶第4回・1989年3月29日 於・京都府医師会館
テーマ / 他部門から見た栄養部門像～これからのチーム医療を考える～ 提言①医師の立場から ②事務長の立場から ③看護婦の立場から ④作業療法士の立場から

講師 / ①北村勲 (北病院) ②田川熊雄 (第二岡本総合病院) ③広瀬真理子 (京都桂病院) ④森永憲子 (畠田病院)

●栄養士部会運営委員会

委員 / 1986～・山本せつ子 (委員長、京都桂) 中山初子 (副委員長、第二京都回生) 櫻原良 (大和六地藏) 奥野亮子 (畠田) 下条都 (西陣) 吉野節子 (吉祥寺) 1987～1988・山本

せつ子 中山初子 (副委員長、1988まで) 奥野亮子 (副委員長、1988のみ) 下条都 日野千恵子 吉野節子 乾愛子 (大澤、1988のみ)

1989～・山本せつ子 日野千恵子 (副委員長) 市川靖子 (北山) 前田佳与子 (金井) 水野孝子 (武田) 吉野節子

担当理事 / 1987～・蔭山弘 (比叡)

8 臨床検査部会



本部会は、1987年に会員施設において臨床検査業務に携わる職員を対象に、技術・業務水準の向上と相互の交流・親睦を図ることを目的に創設され、実質3年目をむかえた。

発会よりこの間、研修会、講演会、情報交換会など7回の全体部会を開催。各回ともその時期の問題点を汲み取ったテーマを取りあげ、会員からも多数の参加を得るなど部会としても軌道にのってきたといえるだろう。運営にあたっては委員会を設け、月に一度定例会を開いている。

▶第1回・1987年7月11日 於・京都府医師会館
テーマ/病院検査室の将来

講師/富田仁(京都博愛会病院院長・当協会理事)

▶第2回・1987年11月28日 於・京都府医師会館
テーマ/緊急検査の現状と課題～パネルディスカッション

発表者/安井浩(安井病院院長) 西畑豊(京都第二赤十字病院) 吉田治雄(京都微生物研究所) 久保茂(武田病院)

▶第3回・1988年4月2日 於・京都府医師会館
テーマ/B型肝炎と院内感染予防対策

講師/勝馬芳徳(愛生会山科病院医師)

この回では講演会と同時に、ワクチン接種を実施中の京都桂病院と愛生会山科病院から接種中間報告の発表があった。

▶第4回・1988年7月2日 於・京都府医師会館

テーマ/医療制度と検査の今後

講師/西村周三(京都大学経済学部教授)

▶第5回・1988年11月5日 於・京都府医師会館
施設見学会/見学先～シオノギバイオメディカルラボラトリーズ・東亜医用電子

施設見学会は、日本でも有数の大規模ラボを見、また検査技師間の交流の絶好の機会となったことでも、ユニークな部会企画となった。

▶第6回・1989年3月4日 於・京都府医師会館
テーマ/時代の変化に対する対応

講師/中甫(三井記念病院・中央検査室臨床化学科部長)

▶第7回・1989年9月30日 於・京都府医師会館
テーマ/迅速検査～実施報告

検査室より～迅速検査の取り組みと現状

医師より～診療サイドからみた迅速検査

看護部門より～看護サイドからみた迅速検査

発表者/鈴木捷之(京都桂病院) 船津武志(京都桂病院医師) 小川サカエ(京都桂病院外来婦長) 清井健司(安井病院) 池野文昭(安井病院医師) 太田美和子(安井病院外来副主任)

この回に先立って、運営委員会より検査部会ニュース第1号を発行した。ひき続き、年に数回の発行をしていく予定。

●臨床検査部会運営委員会

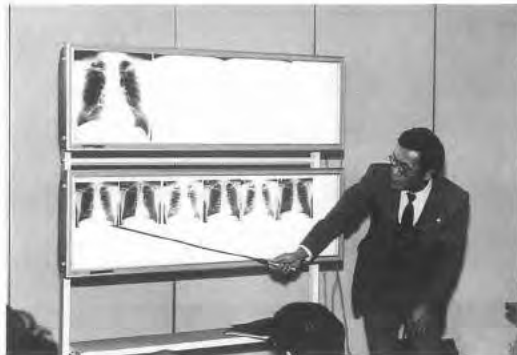
委員/1987～1988・宮本龍輝(委員長、高雄)

奥村隆(副委員長、京都保健衛生専門学校、1987年10月まで) 尾崎浩(同、愛生会山科、1987年11月から) 清井健司(安井) 久保茂(武田) 田尻睦(京都保健衛生専門学校、1987年11月から) 長谷川徹(京都桂) 福岡昭弘(宇治)

1989～・宮本龍輝(委員長) 尾崎浩(副委員長) 清井健司 国友孝史(京都民医連中央) 久保茂 田尻睦 長谷川徹 福岡昭弘 山本勝美(京都市南)

担当理事/1987～・姫野純也(上京)

9 放射線技師部会(放射線技術研究会)



当協会の事業の1つとして従来より、会員施設において放射線業務に携わる職員を対象に、放射線技術の研鑽・院内の業務の効率化を図り、併せて相互に親睦・交流を勧めることを目的とし、放射線技術研究会として活動してきた。現在までに31回の講演会を開催し、確実に成果を上げてきたが、他の部会のように常時運営委員会を設置せず、参加者の中から次回の世話人を選出し、順次これにあたる方法がとられていたため、役員が決まらないこともあった。そのため1988年度には開催することができず、以前からの課題となっていた。しかし、近年医療情勢が大きく変化し、病院における放射線技術の向上がますます重要視されている今日、当研究会に対する期待も大きく、これまでの反省から1989年度は新たに他の部会と同様に放射線技師部会に名称を改め、世話人会が発足して、近く第1回定例部会を開催することになっている。

担当理事 / 1989～・大澤直 (大澤)

▶第23回・1985年5月8日 於・京都府医師会館
テーマ / 胸部レントゲンサイン入門

講師 / 山下正人 (京都府立医科大学附属病院)

世話人 / 杉本英世 (西陣) 音野喬 (上京)

▶第24回・1985年9月26日 於・京都府医師会館
テーマ / 技師のための救急脳外科的基礎知識
講師 / 元持雅男 (京都大学)

世話人 / 池田啓介 (シミズ) 吉川嘉明 (吉祥院)

▶第25回・1985年12月5日 於・京都府医師会館
テーマ / FCRの現状と今後の対応

講師 / 小林和雄 (フジメディカルシステム)

世話人 / 長野和弘 (大島) 本郷隆治 (京都桂)

▶第26回・1986年5月14日 於・京都府医師会館
テーマ / MRI-CTの基礎

講師 / 滋野孝 (東芝メディカル株式会社)

世話人 / 尾松謙二 (堀澤) 今井敬治 (富士原)

▶第27回・1986年9月5日 於・京都府医師会館
テーマ / 医療画像デジタル・ファイリングについて

講師 / 重松景明 (コダック・ナガセ株式会社)

世話人 / 江口忠俊 (吉川) 藤本明彦 (京都小倉)

▶第28回・1986年12月5日 於・京都府医師会館
テーマ / 自動現象機の管理及び人為的事故分析

講師 / 鎌江春憲 (コダック・ナガセ株式会社)

世話人 / 大平隆茂 (安立) 山元和夫 (安井)

▶第29回・1987年3月25日 於・京都府医師会館
テーマ / 撮影補助具使用状況及び個人被曝線量管理状況について—アンケート調査に基づく情報交換—

世話人 / 福富昌彦 (京都四條) 小寺到 (京都市きづ川)

▶第30回・1987年7月14日 於・京都府医師会館
テーマ / 遠隔操作X線TV装置を用いたルーチン胃X線検査法について

講師 / 浅田栄一 (京都大橋総合病院)

世話人 / 大橋次郎 (城北) 中川鉄夫 (京都南)

▶第31回・1987年11月26日 於・京都府医師会館
テーマ / 直視式ファイバースコープによる食道・胃・十二指腸のルーチン観察法

講師 / 池島重太 (京都大橋総合病院)

世話人 / 浅田栄一 (京都大橋総合) 中立昌子 (久野)

10 薬事小委員会



1981年（昭和56年）6月の薬価基準18.6%の大巾切り下げを契機として、医薬品購入に関する価格調査や情報交換あるいは、メーカー・問屋や行政に対する運動の中心として薬事小委員会が作られた。委員会は、日々、病院で医薬品の購入や価格交渉の担当者で構成され、事務系と薬剤師が半々となっている。

委員会は、それまでの運動を受けつぎ、1985年度は、購入価格調査、購入担当者による価格交換会・情報交換会を通して、近畿内各病院団体との協力、連携を深めた。そうした中で、協会側の道理ある購入価格交渉に対し、全く応じない小野薬品工業㈱に対し一部商品の不買および同社職員の病院への立入り禁止等の手段をとった。

1986年度に入り不買運動が盛り上がり、中でも積極的に取り組んだ「プロスタンディン」に関して一定の交渉があり、運動は終結をみた。しかし一方では、公正取引委員会から不買運動のやり方に対し口頭警告を受け、その方法について再考を求められた。

1987年度以降は、会員相互による価格調査と情報交換に力を入れ、また、岡本隆一副会長の講演会「医薬品流通のどこに問題があるか」を開催し、研修会も行うようになった。

近畿内各府県の事務長会とも連絡を密にし、交流を図り、価格調査結果の情報交換を行った。

その中で、会員病院からの強い要望があり、委員会の討議でも問題となった日本シェーリング㈱の造影剤と中外製薬㈱のピシバニールの二件について、メーカーと話し合いをもった。造影剤については、一定の成果を得て、今後の様子を見守ることとなった。ピシバニールは中外の主力製品であり、また、代替品も適当なものがなく、交渉は難行し何らかの形で実力行使の方策も委員会で検討し始めた。1988年11月頃より会社は従前の高姿勢からやや柔軟な対応をしはじめ、他の製品とのセット的な価格調整に応ずる態度を示した。

委員 / 1985～1986・蔭山清司（委員長、修学院）
 勝田晋作（副委員長、富士原） 安達武史（医
 仁会武田） 伊佐哲郎（北山） 高田克哉（宇
 治川） 田畑恭司（船越） 西川和良（西陣）
 八尾幸子（小柳） 山本晃三（明石） 家辺隆
 男（吉川・1986年10月まで） 1987～1988・蔭
 山清司（委員長） 安達武史（副委員長） 村
 田国昭（副委員長、上京） 大塚雅樹（大原記
 念） 笹原孝一（大澤） 塩崎秀子（大和）
 永井佑二（九条） 西川和良 村田信雄（丹波
 笠次・1988年10月まで） 太田真由美（吉川・
 1987年10月まで） 山本晃三 1989～・勝田晋
 作（委員長） 中谷泰幸（副委員長・なぎ辻）
 山本晃三（副委員長） 大塚雅樹 安達武史
 塩崎秀子 西垣吉朗（大澤） 巖美稚子（太秦）
 竹内正三（京都南）
 担当理事 / 1985～1986・高城正（太秦） 1987
 ～・姫野純也

11 医療情報システム研究会



当協会の医療情報部門を担当する会として、1987年に発足した。第1回の会合は10月29日。近年、医療機関に於ても情報化の問題に対処していくことは避けて通れない時代になってきている。膨大かつ多種・多岐にわたる医療情報の有効・迅速な処理・活用方法の検討に取り組み、将来的にはその成果を会員施設に還元していく目的で発足し、①医療情報の整理 ②情報処理システムの確立 ③先端メディアの利用方法の模索——をテーマに掲げた。

ともに早急には実現できないテーマであり、検討は続けながら、会員の現実に即したニーズに対応してきている。ネットワークシステムや最新情報処理システムの実地見学のほか、会員向けにパソコン教室の企画・開催、会員からの質問や問い合わせにも応じている。

委員会は毎月下旬に開催している。

委員 / 1987～・竹山裕治郎（委員長、六地藏総合） 小野一隆（副委員長、北） 伊藤邦治（西陣） 原忠司（京都桂、1988年のみ） 藤井茂（西京都） 1988～・佐々木英一（第二岡本総合、1989年度から） 宅間厚（蘇生会総合、1989年度から）

担当理事 / 1987～・梶並溢弘（西京都）

12 地区会議



地区会議は、「適当な人数で、共通の話題、共通の地域性をもった人達が、卒直に問題を提起し、討議し、解決する場」そして「執行部との意志疎通の場」として、1976年に設けられた。

発足後数年間は、その目的を十分に果たしたが時代の変遷とともにその役割にも変化を生じ、今日では、当初の細かな地区割（9地区）を3地区にし、執行部の意志を伝え、会員の声を吸いあげる場として機能している。また、情報の伝達・意見交換の場としても重要な位置にある。

▶1985年度

共通テーマ / ①京都府保健医療計画の策定について ②京都保健衛生専門学校の問題について ③医療をめぐる情勢～中間施設・医療法・事業税・老人保健法 ④国民医療を守る全国病院大会開催 ⑤地区会議の今後の運営

▷右京・下京・南部地区会議

10月8日 於・京都府医師会館

▷北・左京・上京・中京地区会議

10月15日 於・京都府医師会館

▷東山・山科・伏見地区会議

10月17日 於・センチュリーホテル

▷西山・乙訓・南丹地区会議

10月18日 於・京都府医師会館

▷宇治・久世・城陽・綴喜地区会議

10月23日 於・宇治市保健医療センター

個別テーマ / 京都府南部地域二次病院群輪番問題について

▶1986年度

共通テーマ / ①定款検討会の発足とそれ以後の審議経過について ②定款改定(案)、選挙規定(案)、会費及び入会金規定(案)について

担当理事 / 北部地区＝富士原正保 南部地区＝藤森克彦 市内＝姫野純也 武田隆男 清水勉 兒玉浩一

▷北部地区・11月8日

於・舞鶴グランドホテル

▷南部地区・11月26日

於・宇治市保健医療センター

▷京都市内・11月27日 於・京都府医師会館

▶1987年度

共通テーマ / ①京都府地域医療計画について ②京都保健衛生専門学校学舎建設について

担当理事 / 北部地区＝堀澤真澄 南部地区＝藤森克彦 京都市域＝姫野純也 吉川順介

▷南部地区・11月11日

於・宇治市保健医療センター

▷北部地区・11月21日

於・舞鶴グランドホテル

▷京都市域・11月27日 於・京都府医師会館

▶1988年度

共通テーマ / ①老人保健施設について ②第二次医療法改定に関する情報提供と意見交換

▷京都市域・10月7日 於・京都府医師会館

個別テーマ / ①老人保健施設の事例報告(医仁会「白寿」と京都南病院) ②京都市立病院増改築問題について

▷南部地区・10月12日

於・宇治市保健医療センター

個別テーマ / ①老健施設の事例報告(宇治病院)

②地域医療計画にかかわる老人保健施設問題

▷北部地区・11月5日 於・白糸(舞鶴)

個別テーマ / ①地域医療計画について

▷中部地区・11月8日 於・亀岡市保健センター

個別テーマ / ①中部医療圏における増床問題の

現状

地域医療計画の策定(4月)後、不足地域となった中部地区に増床申請が相次ぎ、当協会会員のうち数病院がその渦中にあつたことから、特に中部地区だけの会議を開催した。

▶1989年度

共通テーマ / ①看護婦養成推進について ②第二次医療法改定に関する情報提供と意見交換

③病診・病病連携のためのソフト面の病院機能調査について

担当理事 / 北部地区＝堀澤真澄 南部地区＝藤森克彦 京都市域＝姫野純也 吉川順介

▷南部地区・9月29日

於・宇治市保健医療センター

▷北部地区・9月30日

於・舞鶴グランドホテル

▷京都市域・10月24日 於・京都府医師会館

13 新春会員こん親会



1984年より始まったこの会は、1987年の第4回目までは「名刺交換会」として、医療関係団体、行政、政党、経済界などから巾広く来賓を招き、年頭に際し挨拶を交わし、また会員相互の親睦を深めて来た。第5回目以降は、会員病院と医療関係団体、行政の極く関係の深い部局だけの、内輪の懇親会へと変わった。同時に、年頭にあって医療に関わりの深いテーマでの講演会をあわせて開催している。

▶第3回・1986年1月8日 於・京都国際ホテル
参加者 / 305名 (会員98名、来賓207名)

▶第4回・1987年1月7日 於・京都ロイヤルホテル

参加者 / 350名 (会員103名、来賓247名)

▶第5回・1988年1月16日 於・京都全日空ホテル

テーマ / 国民医療総合対策本部の今後の動向を読む

講師 / 岡田玲一郎 (社会医療研究所長)

参加者 / 189名

本年より名称を「新春会員懇親会」と変え内輪の会となった。

▶第6回・1989年1月21日 於・京都全日空ホテル

テーマ / 日本医療の現状と今後の見通し～ジレンマからの脱却を求めて

講師 / 田中滋 (慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授)

参加者 / 133名 (69施設)

各病院より理事長、院長、事務長、婦長をはじめ多くの職員が一堂に会し、その時々までの協会の歴史を顧みることにより、協会と傘下病院の更なる発展を祈念する意味で催されているものである。

▶創立21周年記念式典

1985年11月30日 於・京都グランドホテル

永年・優良職員表彰者 / 28施設 133名

参加者 / 215名

来賓 / 尾崎京都府衛生部長・本郷京都市衛生局長はじめ11名

▶創立22周年記念式典

1986年11月29日 於・京都ホテル

永年・優良職員表彰者 / 30施設 134名

参加者 / 220名

来賓 / 赤坂京都府衛生部長・本郷京都市衛生局長はじめ10名

▶創立23周年記念式典

1987年11月14日 於・京都グランドホテル

永年・優良職員表彰者 / 38施設 166名

参加者 / 247名

来賓 / 赤坂京都府衛生部長・本郷京都市衛生局長はじめ9名

▶創立24周年記念式典

1988年11月26日 於・京都ブライトンホテル

永年・優良職員表彰者 / 35施設 175名

参加者 / 255名

来賓 / 赤坂京都府衛生部長・本郷京都市衛生局長はじめ11名

14 創立記念式典



例年秋に創立記念式典を挙げてきた。これは、当協会の主催する新春懇親会やバレーボール大会など他の行事と同様に重要な年中行事のひとつとして位置づけられている。

この式典は、会員病院の永年勤続並びに優良職員の表彰を行い、その功績を讃えるとともに、



総務部

3 他団体との交流

1 近畿病院団体連合会

1984年、規約を作り、新体制となって以降、だいたい年2回のペースで開催されている。また、任期も1年とし、出来るだけ多くの方々に役員の経験をしていただき、毎年当番府県が交代することにより、府県毎の特色が出ている。事務サイドからの情報提供などがなされるように

1985年度より近病連事務長会が新たに発足し、事務サイドからの情報提供などがなされるようになった。

▶1985年度（委員会） 当番 / 和歌山県
役員 / 委員長・遠藤香苗（和歌山県病院協会会長）
▷第5回・6月22日 於・大阪商工会議所
テーマ / ①特別講演 “国会情勢” 中山太郎（参議員・自民党幹事長） ②役員改選 ③中間施設についての意見交換 ④減額査定について意見交換
▷第6回・11月21日 於・難波神社会館（大阪）
テーマ / ①近病連事務長会発会式（11月26日）承認 ②医療機関へのマスコミ、厚生省の論調に対する対策を協議 ③高納入価医薬品「プロスタンディン」問題について協議 ④診療報酬早期引上げにむけて要望書を出すことを決定
⑤本年度医療監視に対する各府県の対応を報告
⑥兵庫県交通事故医療連絡協議会・苦情処理委員会の現況報告 ⑦看護婦養成問題で実習病院の在り方等について意見交換 ⑧中山太郎参議院への立候補について協力することを確認

▶1985年度（事務長会） 当番団体 / 当協会
▷第1回・6月26日 於・京都府医師会館
テーマ / ①近病連事務長会規約決議 ②役員選



出 ③夜間勤務者の免税運動への取り組み ④常勤・非常勤医師給与 ⑤薬事問題 ⑥寝具問題 ⑦救急・自賠問題

▷第2回・11月26日 於・京都東急ホテル
テーマ / ①医療情勢についての意見交換（事業税、中間施設、医療法、診療報酬） ③薬品購入問題、交通事故医療問題 ③寝具問題 ④各府県別活動報告

▷第3回・2月6日 於・大阪薬業年金会館
テーマ / ①近畿交通事故医療連絡協議会問題 ②薬事問題～小野薬品の件 ③近病連事務長会の運営

▶1986年度（委員会） 当番 / 滋賀県
役員 / 委員長・高田洋（滋賀県病院協会会長）
▷第7回・5月31日 於・滋賀ビル（滋賀）
テーマ / ①役員選出 ②地域医療計画を検討する都道府県医療審議会へ病院代表を加えるよう要望することを決定 ③診療報酬改定に伴う影響について情報交換 ④骨盤内臓器全摘除手術の点数化の要望提案 ⑤給食の外注委託状況報告及び問題点について意見交換 ⑥日病主催病院長幹部職員セミナーを近病連として後援 ⑦病院勤務医の生涯教育の在り方について意見交換 ⑧小野薬品不買問題について報告 ⑨民間医療保険について中央団体が保険会社と交渉するよう要請 ⑩中山議員の後援推進を決める
▷第8回・11月29日 於・輸出繊維会館（大阪）
テーマ / ①X線撮影の技術料の時間外加算の要望を四病院団体へ行うことを決定 ②病院給食

の実態について情報交換 ③各府県医療審議会の進行状況報告

▶1986年度（事務長会） 当番団体 / 当協会
▷第4回・8月21日 於・日本自転車貿易センター（大阪）

テーマ / ①小野薬品不買問題の経過報告 ②地域医療計画に係わる病床規制についての各府県の状況報告 ③民間医療保険の問題点 ④給食業者委託の問題点

▶1987年度（委員会） 当番 / 京都府
役員 / 委員長一 中野進（京都私立病院協会会長・5月まで）、清水幸太郎（京都私立病院協会会長・6月から）

▷第9回・4月19日 於・近江初（京都）
テーマ / ①役員選出 ②売上税問題 ③外注問題 ④地域医療計画の各府県の状況報告 ⑤意見交換（国民医療総合対策本部、全日病役員改選・病院団体団結問題）

▷第10回・9月20日 於・からすま京都ホテル
テーマ / ①国民医療総合対策本部中間報告 ②病院団体の団結問題 ③特定治療材料の請求価格 ④保険審査委員の選任 ⑤各府県医師会B会員の医師会費及び加入状況 ⑥田蒔全日病会長との懇談（病院団体の団結について）

▶1987年度（事務長会）
当番団体 / 兵庫県私立病院協会
▷第5回・4月10日 於・京都府医師会館
テーマ / ①反省と今後に向けて ②次期当番県 ③役員選出 ④地域医療計画

▷第6回・11月25日 於・六甲荘（神戸）
テーマ / ①事務長資格制度 ②生活保護法の取り扱い ③当直医実態調査 ④交通事故医療費

▶1988年度（委員会） 当番 / 大阪府
役員 / 委員長一 田中治（大阪府私立病院協会会長）
本年度から新しく発足した滋賀県私立病院協会が加わり、加盟10団体となった。

▷第11回・6月7日 於・ライオンズホテル大阪
テーマ / ①役員選出 ②「看護婦等の増員に対する要望書」「四週六休実施に関する要望書」を

決議 ③近病連事務長会よりの提案の検討（生保医療の診療報酬請求事務の簡素化への取り組み、個人病院における診療報酬支払い時の税金源泉徴収問題への取り組み） ④情勢報告（老健施設、医療保険）

▷第12回・10月13日 於・東洋ホテル（大阪）
テーマ / ①地域医療計画と病院の新增設について各府県の状況報告 ②老健施設についての各病院協会・医師会の対応報告 ③昭和63年度医療監視重点項目

▶1988年度（事務長会）
当番団体 / 兵庫県私立病院協会
▷第7回・4月28日 於・ホテル全但（神戸）
テーマ / ①O A 機器の保守料について報告 ②寝具料金値上げについての協議 ③診療報酬改定に伴う影響 ④近病連委員会への提案（診療報酬支払い時の税金の源泉徴収問題、生保医療券の簡素化）

▶1989年度（委員会） 当番 / 兵庫県
役員 / 委員長・北村行彦 兵庫県私立病院協会会長
▷第13回・7月24日 於・ホテルオークラ神戸
テーマ / ①役員選出 ②医療法改定への動向と対応 ③次回診療報酬改定についての要望事項のとりまとめ

▶1989年度（事務長会）
当番団体 / 大阪府私立病院協会
▷第8回・4月20日 於・神仙閣（神戸）
テーマ / ①医療制度改革に対応する病院の機能強化、体質強化についての共同研究 ②消費税への対応及び医業収益の動向 ③今春斗情勢 ④寝具料金値上げ問題 ④自賠単価問題 ⑤薬品購入問題 ⑥週休制度の導入状況 ⑦社会福祉医療事業団の医療法人の経営分析への対応

▷第9回・9月9日 於・関西文化サロン大阪）
テーマ / ①医薬分業に対する病院側の対応 ②近畿以外の府県の事務長との交流の必要性について確認 ③高額医療の払い戻しの不公平問題 ④自賠の料金基準に対する各府県の対応 ⑤医療廃棄物の処理問題への取り組み ⑥寝具料金

値上げ問題 ⑦人間ドック等の検診料金問題
⑧病院経営管理者養成通信教育講座の検討

2 中央における病院団体

中央における病院団体としては、日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神病院協会のいわゆる四病院団体と、全国公私病院連盟がある。

当協会はどの団体の傘下にも入らず、それぞれの持ち味を生かした活動には積極的に参加し、病院団体の団結にむけての可能な道を模索してきた。病院団体の団結のためには、どの団体にも偏見をもたず、要請があれば役員への派遣もおこない、大会などの協力呼びかけにも積極的に応じてきた。

特に日本病院会へは常任理事の派遣をはじめ、京都で開催される催しへの協賛や講師派遣など友好関係を持ち、また当協会の知りたい情報を入力する手助けをいただいて今日に至っている。

●日本病院会との協力

役員派遣 / 常任理事 1 名 (1985年 4 月～1989年 3 月) 理事 1 名 (1989年 4 月～) 代議員 2 名 (1986年 4 月～、ただし1985年 4 月から1986年 3 月は 1 名) 中間施設に関する検討委員会 2 名 (1985年 4 月～1986年 3 月)

共催・協賛 / ▷第47回職場リーダー研修会 1986年 2 月20～22日 於・京都タワーホテル ▷病院経営セミナー 1986年 6 月21日 於・京都日興証券ビル ▷医事研究会 1986年 11 月21、22日 於・京都府中小企業会館 ▷第48回職場リーダー研修会 1987年 2 月19～21日 於・京都府立勤労会館 ▷第49回職場リーダー研修会 1988年 2 月18～20日 於・京都中小企業会館 ▷新点数説明会 1988年 3 月22日 於・京都府医師会館 ▷臨床検査管理研究会 1988年 9 月16、17日 於・京都第2タワーホテル ▷消費税実務者講習会 1989年 2 月21日 於・京都府

医師会館 ▷第50回職場リーダー研修会 1989年 2 月22～24日 於・京都勤労会館

●診療報酬適正化推進会議への参加

▶中央・地方病院団体全国会議

1985年 10 月11日 於・東京竹橋会館

テーマ / ①診療報酬改定要求書(案)の検討

②社会保険診療報酬に対する事業税非課税措置の存続要求について意見交換 ③病院団体の大同団結について意見交換

▶国民医療を守る全国病院大会

1985年 11 月12日 於・東京千代田区公会堂

スローガン / ①社会保険診療報酬に対する事業税非課税措置を存続せよ ②診療報酬を適正化し病院経営を健全化せよ ③老人患者の自己負担の増加を中止せよ ④中医協に病院団体の推薦する委員を参加させよ

●中央・地方病院団体長との打合せ会への参加

1986年 12 月3日 於・東京竹橋会館

呼びかけ人 / 全国公私病院連盟

テーマ / ①診療報酬改定要求書について検討

②社会保険診療報酬に係わる事業税非課税措置存続対策についての状況報告及び全国公私病院連盟の要望書提示 ③老人保健法改定について意見交換

●昭和62年度病院診療報酬改定要求・

「国民医療危機突破全国病院大会」への協賛

1987年 11 月30日 於・東京千代田区公会堂

主催 / 日本医療法人協会、日本精神病院協会 日本病院会 全国公私病院連盟

協賛団体 / 51団体

スローガン / ①良質な医療を提供するための病院診療報酬を引上げよ ②病院経営が安定するよう固定資産税・相続税を大幅に減額せよ ③社会保険診療報酬にかかる事業税非課税措置を存続せよ

3 京都府医師会

京都府医師会と当協会の関係は、診療所と民間病院の関係であり、日本における医療構造の変化とともに両者の関係も変化してきた。

1964年の設立当初に比して今日では、病院の数も全国で1万に近づき、ベット数も160万床に及ぶ勢いで伸びており、病院の存在を無視して医療を語ることは無意味な時代となった。

京都においても当協会は、“病院に関することは病院団体に”をモットーに行政や医師会へ対応してきた。京都府医師会もその時々の問題処理にあたって、病院の窓口としての当協会の意向を無視することはかえって混乱を招くとの考えからか、医師会内部の組織への委員派遣依頼や必要に応じた協議の場の設定などが行われている。

病診・病病連携が言われる今日、医師会と当協会の連携も重要である。

●懇談会の開催

- ▶1985年5月2日、12月16日 於・京都府医師会館
テーマ / 自賠問題について
- ▶1986年9月12日 於・京都府医師会館
テーマ / ①地域医療計画～病床規制問題 ②老健施設について情報交換
- ▶1987年2月19日 於・京都府医師会館
テーマ / 三基準承認基準に関する府保険課対策
- ▶1987年7月28日 於・京都府医師会館
テーマ / 地域医療計画
- ▶1987年12月8日 於・京都府医師会館
テーマ / ①府医師会役員 ②審査委員 ③地域医療計画 ④京都市立病院増改築問題 ⑤精神科救急 ⑥地区医師会入会問題
- ▶1988年3月15日 於・京都府医師会館
テーマ / 三基準問題
- ▶1988年8月10日 於・京都府医師会館
テーマ / 京都市立病院増改築問題

▶1988年11月30日 於・京都府医師会館
テーマ / 中部医療圏増床問題

出席 / 医師会、当協会、京都府病院協会

▶1989年1月25日 於・京都府医師会館
テーマ / 中部医療圏増床問題

出席 / 医師会、当協会、京都府病院協会

▶1989年5月29日 於・京都府医師会館
テーマ / 京都市立病院増改築問題

出席 / 医師会、当協会、産婦人会医会

▶1989年7月11日 於・京都府医師会館
テーマ / 京都市立病院増改築問題

出席 / 医師会、当協会、京都府病院協会

●共催・協賛

くらしと健康展（第12回～16回）

1986年～1989年 毎年9月 於・大丸京都店

4 京都府病院協会

京都にあるもう1つの病院団体としての京都府病院協会とは、会の活動内容を異にするものの、共通する課題も多く、今日まで多くのことと一緒にやってきた。

その1つは京都病院学会の開催である。年々盛会となり、演題数、参加者数共に増加している。また、1973年に開始された両会合同理事会、病院問題協議会は、1983年まで約10年ほどの間開催し、京都府、京都市へ両会よりの要望や行政指導に対する見解を述べ、一定の成果を収めた。また、ともに近畿病院団体連合会へ加盟しており、病院の問題について協議を行っている。

その他、地域医療行政について、京都府医師会、京都府病院協会、当協会がいわゆる医療側三者となり、事前に十分協議した上で行政交渉などを行ってきた。

●合同理事会

▶1987年2月9日 於・京都府医師会館

テーマ / ①病院問題協議会再開 ②62年度近病

連開催。

▶1988年10月4日 於・京都府医師会館
 テーマ / ①京都における看護婦需給計画 ②精神科救急 ③近病連第12回委員会へむけて ④病院問題協議会開催。

5 京都府精神病院協会

京都府精神病院協会の会員はすべて当協会の会員でもあり、日常活動の中で十分意志疎通がはかられているが、問題によっては担当理事を通じ、また、会長間の話し合いなどにより解決に努めた。

1987年度より当協会の大きな事業として取り組んだ京都保健衛生専門学校の学舎建設にかかわる特別会費について、会長間で数度の話し合いがなされ、合意に達することが出来た。また新たな問題として、京都府下における精神科救急問題が浮上し、精神科救急のなんらかの制度化を望む当協会としては、京都府精神病院協会との協議が重要となっている。

6 京都府保険医協会

京都の医療界で新参者である当協会が、老舗の京都府保険医協会と会合を持つようになったのは、1981年のいわゆる6.1改定以降である。

薬価および診療報酬の同時マイナス改定という国の政策に対し、怒りを爆発させ、公取委員会への提訴、国会への請願活動を開始した。そうした活動のなかで、京都府保険医協会との情報交換、協議をおこなう懇談の場が生まれ、討論集会を共催したりした。

しかしながら、医師会同様、保険医協会は診療所中心の医師の組織であり、多種多様な職種を抱え込んでいる病院とは立場も異なり、医療、保険診療という点では一致するものの、立場が

変われば考え方も違い、次第に共同して行動することよりもお互いの立場を理解し、尊重するといった形に変化してきている。

●懇談会の開催

▶1986年10月9日 於・京都府医師会館
 テーマ / ①老人保健法の一部負担金、老健施設問題 ②病診連携

▶1988年3月11日 於・京都府医師会館
 テーマ / ①精神科救急 ②診療報酬改定 ③京都における審査、基準問題

●「医療危機突破のための保険医討論集会」に参加
 1988年9月21日 於・京都府医師会館

●「90年代医療改革反対京都保険医討論集会」に協賛

1989年9月28日 於・京都府医師会館

総務部

4 行政や政党への対応



1 行政への対応

医療、福祉の見直しが叫ばれ、医療制度の改変が次から次へとうち出され、病院は先行きの不安と現実への対応に苦慮しているのが、ここ数年の病院の状況である。

当協会としては、行政より出来るだけ情報を集め、会員へ周知し、また、個々の会員の問題についても行政へ積極的に働きかけ、会員の立場に立った活動を心掛けてきた。

特に病床規制を目的とした京都府地域医療計画については、医療圏の設定をはじめ運用についても会員保護の立場を貫いてきた。1988年4月8日京都府医療計画が策定され、策定後の病院病床申請問題（特に中部医療圏）には、当協会の主張を通し、会員の希望を満たすことが出来たと確信している（別記）。

また、1988年、「院内保育所の充実を求める請願」に京都医療労働組合連合会と共に取り組み、6月に京都府議会、京都市議会へ提出した。府議会、市議会共に継続審議となったが、1989年度京都府予算で「院内保育所運営費補助」による単費助成が年間10万円から25万円にアップされた。

行政の求めに応じ、各種審議会等へ委員を派遣し、民間病院の立場から意見を述べ、また、指導のあり方や運用に対する要望を行ってきた。

2 政党への対応

国会議員や京都府、京都市首長、地方議員選

挙について候補者並びに関係政党より推薦依頼があり、その都度理事会において協議し、対応を行った。

1985年度 京都市長、城陽市長、京都府知事選挙があり、当協会は「保健医療行政に対する当協会の主張」を示し、推薦基準とした。

1986年7月に行われた衆参同日選挙においても「保健医療行政に対する当協会の要望」を示し、衆参あわせて複数の候補者の推薦を行った。

1987年4月に行われた統一地方選挙も同様の扱いとし、複数の推薦を行った。

1989年8月に行われた京都市長選挙は、当協会前会長をはじめ、当協会と関係の深い方々が多数立候補したため、理事会で慎重審議の結果、推薦をしないことを決め、会員の了解を得た。

また、1987年10月 衆議院社会労働委員会委員で、自民党医療基本問題調査会のメンバーでもある伊吹文明議員と今日の厚生行政について懇談を行った。

京都府や京都市へ種々の要請や請願を行うに際し、各政党の議員へ積極的に働きかけ理解を求め、賛同を得るよう努めた。その結果、院内保育所運営費補助のアップがあり、1988年の京都保健衛生専門学校学舎建設に関する京都府・京都市の助成には大きな力となった。

総務部

5 広報活動



「京都私立病院報」(私病報)は、1964年11月創刊以来、現在まで当協会基幹広報誌の役割を果たしてきており、1990年には第300号を数える。編集委員会は担当理事、事務長会、婦長部会より委員が出席し、企画・編集を行っている。

緊急を要する会員への情報については、「私病協通信」として、1984年より設置推進に努めてきたファクシミリを利用して送付している。ファクシミリは現在153の会員病院に設置され(設置率85%)、緊急連絡時のファクシミリ連絡網も定着してきている。

医療の動向を社会的情報のなかから得ていただく、新聞記事の切り抜きを「情報サービス」として、1985年11月より有料配布を開始した。現在講読も増え、110部を発行している。

当協会は1984年秋に創立20周年を迎え、『20年誌』を1985年2月に発刊した。これは、創立20周年記念事業の一環として、このための「編さん委員会」で編集をおこない、作成したもので、ハードカバーで367頁という立派なものに仕上がった。

●私病報編集委員会

委員会は毎月1度、下旬に開催し「京都私立病院報」の編集を行っている。私病報は、定期発行分を毎月1回、1日に発行している。従来表紙には写真を使用していたが、1988年1月号より版面などモノクロ印刷に映える作品を掲載している。内容は従来のスタイルを踏襲しつつ、病院医療制度検討委員会や事務長会、婦長部会へも原稿を依頼し、更に充実したものにするため努力している。新入会員の紹介などもおこない、会員相互の連帯、意見交換の場としても重要で、これからも会員からの投稿を期待している。

臨時増刊は、会員から年頭に当たっての抱負などを語っていただく「新年特別号」、協会主催の講演会の内容を伝える「講演録」を発行する形が定着してきている。

発行部数は年々増加し、現在は2,400部を印刷している。多くは会員病院に配布しているが、関係行政や議員、全国関係団体などにも送付している。

委員 / 1985～1986・藤森克彦(ユニチカ中央) 吉川順介(吉川) 日下部功(武田) 米沢鉄志(高雄、1985年まで) 西村清(久野、1986年から) 木村久子(丸太町) 細井恵美子(京都南) 1987～1988・吉川順介 安藤正昭 西村清 西川成史(ユニチカ中央) 木村久子(1987年まで) 細井恵美子 庭山英介(長岡、1988年から) 1989～・安藤正昭 姫野純也(上京) 伊藤誠一(伊藤) 横井一夫(吉川) 永井佑二(九条) 庭山英介(9月まで) 細井恵美子

●私病協情報サービス

事務局でおこなっていた一般新聞の医療関係記事のファイリングを、資料冊子として会員にたいし有料で配布する事業を1985年11月より開始した。内容は、医療に関わる政策から身近な話題までを掲載しており、この種のものとしては非常に充実したものとなっている。会員からも好評を博し、情報資料として、また情勢を認識するための読み物として有効に活用いただいている。

発行部数は現在110で、月2回発行。購読希望

会員には年間12,000円の契約で、配布している。

●『京都私立病院協会20年史』

1964年10月16日に京都私立病院協会が誕生して以降、その20年の歴史を綴った『20年史』が発刊された。内容は、①年をおった主な動き ②私病協闘争の歴史と対外関係史 ③事項別活動の足跡 ④20年の思い出(座談会・随想など) ⑤資料編——などとなっており、活動別に関わりの深かった役員などが執筆している。

なかでも、「闘争の歴史」は私病協組織論からはじまり、運動によってさまざまな要求を勝ちとってきた当時の熱気を生々しく伝えている。そのほか、写真や資料なども豊富に使用して、読み易いものとなっている。

体裁はB5版、367頁ハードカバー、ケース付き。少し残部があるので、希望者には頒布できる。
編さん委員 / 明石朗(明石) 高城正(太秦)
板坂勉(宇治) 岡部登美子(京都武田)



6 医療従事者無料職業紹介事業

現在、病院医療に必要な技術者については、医療法をはじめ種々の医療関係法規の中で、その雇用が義務づけられている。しかも、日進月歩する医療技術の進歩とともに、国民の医療サービスへの要望も高まってきており、それに応じるための高度医療技術者の確保が求められている。

このような状況の中で、医療従事者の安定的な確保は、個々の病院にとって最も重要な問題のひとつであり、特に民間の中小病院にとっては深刻な問題として受けとめられているのが実情である。そこで当協会では、1987年度の事業計画において、会員病院での安定的な人材確保を合理的かつ組織的な対応をもって推進するための職業紹介事業を開始すべく、監督官庁に対し申請手続きを行った。

そして、1988年1月25日付で、職業安定法第33条1項に基づく労働大臣の許可を受けることができ、「(社)京都私立病院協会医療従事者無料職業紹介所」を設立する運びとなり、この年の

4月より実質的な紹介事業に取り組むことになった。このことは、京都府下ではもとより、全国の地方レベルの病院団体としては初めての試みであり今後の医療従事者の安定供給の円滑化に少なからず貢献をしてゆくものと思われる。

許可を受けた取扱職種は、医師・薬剤師・看護婦・放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士・言語療法士・栄養士の9職種である。

●職業紹介事業運営委員会

運営委員会のほか、当協会の職種別各委員会で、運営協力委員を定め、必要に応じ情報提供を受けている。

委員 / 1988・相馬秀臣(担当副会長) 奈良静鴻(担当理事) 永井佑二(事務長会代表) 松阪富(婦長部会代表) 吉田多美(事務局長) 木村勇(紹介責任者) 1989～・吉川順介(担当理事) 奈良静鴻(担当理事) 西川成史(事務長会代表) 関和香子(婦長部会代表) 吉田多美 木村勇

総務部

7 看護婦養成への取り組み

● 京都保健衛生専門学校増定員と学舎建設

創立以来、看護婦確保対策には継続的に取り組んできた。その主たる活動は看護婦養成であり、1969年堀川高等看護学院（現“京都保健衛生専門学校第1看護学科”の前身）に始まり、1977年京都保健衛生専門学校第2看護学科開設1983年京都中央看護専門学校設立と会員のニーズに合わせ、質量共に充実をはかってきた。

しかし、近年の増床や多様化する医療ニーズに対応するためには、今まで以上に看護婦の確保が必要となり、京都保健衛生専門学校の増定員をはかり、併せて老朽化した校舎を改築することが第13回通常総会（1987年5月）において決議された。

総会終了後直ちに学舎建設委員会を設置、委員会を建築、資金調達、増定員学科検討の3部会に分け、各々の課題について取り組んだ。建築部会は設計事務所数社に競技設計を依頼し、設計内容の検討をし、資金調達部会は、会員へ特別会費を依頼すると同時に京都府・京都市および自転車振興会へ補助金の要請をおこなう活動をはじめた。増定員学科検討部会は、アンケートによる会員の意向調査をおこない、第1看護学科の増員の方向をうち出した。

1988年4月、埋蔵文化財の発掘調査の開始、6月工事着工と順調にすべり出し、袖助金についても、自転車振興会より満額の内定通知を受け、京都府、京都市においても要請通りの補助金予算を取りつけることができた。

これは学舎建設委員会をはじめ会員の力の結集の結果であることはもちろんのこと、行政の暖かいご指導と医療にご理解をいただいている植木先生、徳田先生、西尾先生、木俣先生、加

藤先生、津田先生ら国会および府・市会議員の先生方のご協力の賜物である。

1989年2月末工事完了。3月29日竣工式・竣工披露を無事おこない、4月には新校舎に増定員となった第1看護学科80名、第2看護学科40名、第1・第2臨床検査学科80名の新入生を迎えることが出来た。

▶学舎の概要（別記）

▶改築事業の概要（別記）

▶学舎建設委員会

委員長 / 武田隆男 委員 / 冨田仁 大川原康夫 伊藤誠一 谷口政春 清水勉 奈良静鴻 相馬秀臣 岡本隆一 安藤正昭 内田實（内田）増田耕三 事務局 / 吉田多美 河上喜秀

● 看護教育問題検討委員会

当委員会が必要に応じて開催している。1985年からこの間には、京都保健衛生専門学校第1看護学校の推薦制導入問題や同学校の増改築問題に伴う学校教育の方向、あるいは看護婦の卒後教育のあり方などについて検討した。

委員 / 1985～1986・相馬秀臣（相馬） 武田隆男（武田） 大川原康夫（愛生会山科） 河上嘉秀（京都保健衛生専門学校） 佐々木由紀子（京都保健衛生専門学校） 井本千鶴子（京都保健衛生専門学校） 菅沼惇（京都中央看護専門学校） 鈴木昇（京都中央看護専門学校） 盛田宗次郎（京都中央看護専門学校・1986から） 石井松代（堀川） 田川熊雄（第二岡本） 1987～1988・武田隆男 大川原康夫 清水勉（シミズ） 西村幸隆（室町） 吉川順介（吉川） 河上嘉秀 佐々木由紀子 横山洋子（京都保健衛生専門学校） 井本千鶴子 菅沼惇 盛田宗次郎 藤腹明子（京都中央看護専門学校） 石井松代 永井佑二（九条）

総務部

8 事務局体制のうごき

1985年4月、当協会事務局は6名、吉田事務局長、篠田主任、杉林・野村・木村・池田事務職員で前年5月よりの体制である。京都保健衛生専門学校32名、京都府病院協同組合7名、京都府病院厚生年金基金4名、京都中央看護専門学校11名と、関係事業所をあわせると総勢60名の大所帯である。

1986年、87年度は、会員にむけた活動のより一層の充実のため、職種職能別活動の点検など内部充実に力を注いだ。また、87年5月に開催された第13回通常総会において、京都保健衛生専門学校の増改築が採択され、これの実現にむけて学校職員とともに動き、精力を傾注した。このように活動が質量ともに増えたことにより1988年2月、1名増員が決まり、西川賀代が採用された。

事務局体制をより機能的なものとするため、会長の断により協同組合との人事交流の話がまとまり、1988年8月20日をもって篠田美津代を協同組合へ転任、協同組合より富田昌則を当協会へ転任させることが決まった。富田に関しては、業務上の都合により明けて1989年2月よりの勤務となった。

1988年12月末、池田繁樹退職。1989年1月、原田桂子採用。1988年度は、学校学舎建設、増定員に伴う認可申請と大きな事業に取り組んだが、1988年1月に労働大臣の認可を受け開設した「(社)京都私立病院協会医療従事者無料職業紹介所」の方向づけをすることも大きな仕事となった。

1989年8月、新たな職制として副主任制を採用し、杉林、野村、木村の3名が任命された。主任は不在であるが、新しい副主任のもとで業



務の整理もおこない、事務局体制の充実が図られている。

▶職員名簿（1989年9月現在）

事務局長 / 吉田多美

事務局職員 / 杉林修（副主任） 野村浩（副主任） 木村勇（副主任） 西川賀代、原田桂子 富田昌則



医制部

1 医療制度の検討と健全な病院経営への取組み

当協会の医制部会のなかでも、医療政策とその活動の方向づけを1981年以降「病院医療危機対策本部会」を中心に検討し、数々の運動を担ってきたが、1985年度からは「病院医療制度検討委員会」として発展的に解消し、ここで国や行政から次々に示される政策や医療の潮流に対応している。

それぞれの制度的問題については、事情に通じた講師による講演会を企画したり、会員の意識調査やアンケートなどの実施あるいは各会場で情報提供をおこない、会員意識の向上に努めている。

●病院をとりまく情勢

病院経営の要である医療費の改定は、1981年の“6.1改定”以降、診療報酬の僅かな引き上げと薬価基準の同時引下げによる“実質マイナス改定”として定着してきており、物価・人件費の上昇と相まって、当協会など病院団体が主張する“原価割れの是正と適正な診療報酬体系の確立”は実現されないままである。この間の医療費改定を以下に示す。

()内の数字は医療費への換算数

- ▶1985年 3月 診療報酬+ 3.3%
薬価基準- 6.0% (-1.9%)
- ▶1986年 4月 診療報酬+ 2.3%
薬価基準- 5.0% (-1.6%)
- ▶1988年 4月 診療報酬+ 3.4%
薬価基準-10.2% (-2.9%)
- ▶1989年 4月 診療報酬+0.11%
薬価基準+ 2.7% (+0.65%)
(※ただし消費税転嫁措置)

改定の内容では、1986年には病院・診療所の機能分化、長期入院等に対する制限、検査の大



巾なマルメ、1988年には入院時医学管理料および基準看護への期間区分による逓減制の導入、1類看護の廃止と特3類（急性期患者）の設定など、厚生省の長期展望にそった形での医療費抑制の方向が具体的に現われている。

医療法人への管理強化と地域医療計画の作成を内容とする1985年末の第一次医療法の改定は、医療供給体制の側から医療費抑制を目指すところとなった。京都府においては1987年10月から委員会が設置され、次年4月に公示された。当協会からも委員2名が出席し、協会の意向を反映させた。公示後の具体的問題として、京都市立病院増床問題と中部医療圏問題が浮上、医療審議会で検討がおこなわれた。また第二次医療法改定は1990年に法案提出が伝えられており、病院の施設を類型化するなど病院経営の根幹に関わる改定が準備されているところである。

厚生省の第一次の医療改革のもうひとつは、1986年12月の老人保健法の改定であった。自己負担の引き上げ、加入者案分率の段階的アップ、老人保健施設の創設など、老人医療・福祉のあり方についての十分な論議がなされないまま、財政優先の施策がおこなわれた。厚生省がすすめる病床転換型の老人保健施設は、1987年11月に示された施設基準が厳しいため、現在のところほとんど進んでいない状況である。

医療の効率的変革をめざして、厚生省は国民

医療総合対策本部を1987年1月に設置し、半年間の審議結果を「中間報告」としてまとめた。ここでは、「良質で効率的医療をめざす」ため老人医療のあり方や長期入院の是正、患者サービスの向上など“医療構造の改革プラン”の実現に向けて提言されており、以降の厚生省の各種の施策の基本理念となっている。

1987年3月と1988年10月にはそれぞれ、あるべき長寿社会の実現に向けて、医療・年金・福祉の将来的政策の方向が「福祉ビジョン」として出された。社会の活力を損わないための国民負担の公平化を口実に、医療費の適正化やガイドラインの設定に名を借りて実質的な医療費の削減を企図している。

こうした医療費抑制策は、財政の悪化する国保あるいは政管健保でも高医療費地域を指定することにより、医療費適正化やレセプト点検の強化などをその地域で計画的におこなわせることにも現われている。

特に最近になって厚生省には各種の懇談会や検討会が設置され、患者サービスや病院の機能あるいは医療関連産業の参入といった問題にたいし、ガイドラインの形をとった報告書が次々と提出されている。これらの内容は、日常の医療を実践している医療機関にとっては不満のあるところであるが、このような流れを、我々私的病院はどのように把握、対応していくべきかを真剣に考えていかなければならない時期にきている。

●病院医療制度検討委員会

矢継ぎ早に出される各法案とその改定など厳しさを増す医療情勢の変化に対応し、検討するなかで、当協会としての理論構築をおこなうため、従来の「病院医療危機対策本部会」を発展的に解消して、1985年6月以降、当協会の医療制度問題を担当する中枢となっている。

これまで検討をおこなった中心テーマは前述の「病院をとりまく情勢」のなかに概ね記しておいた。具体的取り組みとしては、別項で以下

に示したもののほか、理事会や政策部会で検討を要請された問題を討議し、提言を行っている。また、当協会の広報を通じて会員にできるだけ早く情報を提供するよう努めたり（ニュース記事の選択と執筆者の選考、私病協通信のピックアップなど）、会員調査や講演会の企画など会員対策に取り組んできた。

委員 / 1985～1986・富士原正保（委員長、富士原） 中村仁一（副委員長、高雄） 岡本隆一（第一岡本） 安藤正昭（京都南） 武田隆男（武田） 吉川順介（吉川） 奈良静鴻（洛陽） 増田耕三（西陣） 米沢鉄志（高雄、1986年1月まで） 関和香子（ユニチカ中央） 久世郁子（シミズ） 1987～1988・堀澤真澄（委員長、堀澤） 中村仁一（副委員長） 岡本隆一 明石朗（明石） 安藤正昭 谷口政春（堀川） 西村幸隆（室町） 増田耕三 松阪富（三菱京都） 福島喜代子（小沢、1986年1月から） 出射靖生（京都回生、同） 中野種樹（長岡、同） 山下幸造（京都桂） 平田忠敏（河端） 吉岡秀憲（吉岡） 鶴飼五郎（丸太町） 1989～・大川原康夫（委員長、愛生会山科） 中村仁一（副委員長） 我妻節子（武田） 安藤正昭 板坂勉（宇治） 出射靖生 岡本隆一 関和香子 谷口政春 中野種樹 西村幸隆 平田忠敏 増田耕三 山下幸造 吉岡秀憲

●討論集会・講演会・懇談会などの開催

- ▶公開討論会「中間施設について」 37名参加
1985年6月27日 於・京都府医師会館
- ▶一木中医協支払側委員とのこん談 51名参加
1986年10月13日 於・京都府医師会館
- ▶拡大委員会「民間医療保険を考える」
1986年5月15日 於・京都府医師会館
- 説明 / 日本生命保険・日動火災海上保険担当者
- ▶拡大委員会「薬価算定方式」
1987年7月9日 於・京都府医師会館
- 講師 / 武田公一氏（元・保険薬価研究会委員）
- ▶研修会「国民医療総合対策本部中間報告を受けて～問題点を考える」

1987年 8月 6日 於・京都府医師会館
講師 / 小山秀夫氏 (厚生省病院管理研究所)

▶講演会「国民医療総合対策本部の今後の動向を読む」(新春会員懇親会として) 200名参加

1988年 1月 16日 於・京都全日空ホテル
講師 / 岡田玲一郎氏 (社会医療研究所長)

▶伊吹文明氏 (衆議院議員) との懇談「医業税制について」

1988年 10月 9日 於・京都府医師会館

●京都府医療計画と地域医療政策への取り組み

医療供給体制の再編を目的とした第1次医療法改定(1985年12月)を受けて、京都府では遅れて1988年4月8日に京都府地域医療計画が公示された。それまでは全国的規模で増床申請が相次ぎ、厚生省は各府県に厳格な取り扱いを強く求めた。

京都府は1987年10月に医療計画検討委員会を設置し、計画作成の作業にとりかかった。委員会へは、当協会からも堀澤副会長と中村理事が委員として出席し、協会として意見を述べ計画作成に関わった。協会がおこなった会員の意識調査でも、90%近くが病床規制については慎重に対処すべきとの結果が出ており、関心も高かった。

厚生省から示されている計画の骨子は、必要的記載事項(①医療圏の設定 ②必要病床数の算定)と任意的記載事項(③その他医療を提供する体制の確保に関する事項)とから成っており、京都府では、①については府を6ブロックに分け、②では京都・乙訓ブロックが過剰地域との結論になった。当協会としてはこれに同調することは避けてきたが、中丹ブロックにおける精神病院については考慮すること、1年毎に統計をやり直すこと、医療施設の整備に力を注ぐこと——の附帯事項をつけ、合意に至った。また、最終委員会での協会代表委員の付帯意見としては、①病床過剰地域における弾力的運用 ②必要病床数の毎年の見直し ③(計画が医療供給体制の規制だけに終らぬよう)任意的記載

事項を論議できる委員会の設置——であった。(詳細は『私病報』No.262、263、267、270号に掲載)

いずれにしても計画公示により、京都における医療圏毎の一般病床および府全域の精神/核病床の必要数が定められ、超過地域での病床増加や種別の変更については医療審議会の意見を聞き、中止等の勧告がなされることになった。

一方病床不足地域においては、中部医療圏での問題が具体化してきた。230床の不足に対し、新設・増床あわせて3倍近い申請が出されたもので、関係機関での慎重な審議が重ねられた。当協会としても、4つの会員からの申請について支援を行い、医療審議会において5つの既存病院の230床の増床が認められた(1989年2月)。

また、京都市立病院の増床計画が医療団体の間で問題となり、超過地域における一般116床増のこの計画が、例外的措置となるのかが議論になった。当協会は計画の不備な点も指摘し、基本的に反対の立場をとった。当協会も含めた関係団体での協議が重ねられ、最終的には医療審議会において市当局から出された修正案が、特例扱いは今回限りとするなどいくつかの条件のもとに了承されるに至った(1989年7月)。

●病診・病病連携に向けての取り組み

前述、第1次医療法の改定に伴う地域医療計画策定にあたっての任意項目のなかでは、医療施設間の機能分担と連携により地域医療のシステム化、抱括的で継続的・合理的な医療供給体制の確立をめざすことが肝要であるとされ、医師会でも生涯教育制度の推進の面からも病院との連携が言及されるようになった。当協会は病院医療制度検討委員会で「病院サイドから見た病診連携」について数回にわたって議論をおこない、提言としてまとめている(『私病報』No.254)。

病診の連携にとって病院は期待される存在であるにもかかわらず、文化的・経済的・病院側の問題、診療所側の問題が存在し、その推進を阻んでいるのが現実である。しかしながら、医

の公共性・社会性を考えれば、病診あるいは病病連携はなんとしても広げていかなければならない。病院側からの取り組みが遅れば、将来、行政側の都合に合わせた取り組みに先取りされることを予想しなければならない。

これに関する当協会の具体的取り組みは、1987年に初めて行った会員病院の医療機器保有状況調査であった。数字の公表だけであったが、次年度には更に充実した調査を行い、「会員病院における主要医療機器・設備設置状況」(1988年10月現在)という冊子として公表した。これは会員のうち133施設の設置の状況を、①機器別に設置されている病院の一覧 ②病院別保有機器の一覧として掲載したもので、今後も逐次改訂していく予定になっている。

医療機器とは別に、会員に関するソフト面での機能を調査することも検討された。医療機関相互の連携にとって有効に機能すると思われるが、今後、会員の理解を得ながら実現させていく方向で作業が進められている。

●消費税実施への対応

1988年12月、税制改革六法案が強硬採決により成立し、国税史上はじめての消費税が翌年4月より実施された。

医療においては、社会保険等の診療分は非課税、自動車保険診療以外の自由診療や差額室料、文書料金などは課税の対象となった。したがって非課税扱い分については、税の仕組みから患者に転嫁できないまま、医療機関が消費者になる事態が生じることになり、薬剤・医療機器・材料といった課税対象の仕入れにかかる税の上乗せ分がそのまま医療機関に影響してくるはずである。そのため同時に、診療報酬・薬価の改定がなされたが、この引き上げ率については病院にとっては大いに不満の残るものであった。

また、課税/非課税の区分の解釈をはじめ税務処理上の諸問題において不明確な点多岐にわたって露見し、窓口や経理担当部局では相当の混乱が予想され、税の転嫁方法や表示方法に

ついて会員からの問い合わせも多く、協会としてもその対策を迫られた。

限られた期間ではあったが、理事会や事務長会で再三にわたり協議し、患者向けPR用窓口ポスター、課税対象一覧などを作成した。また日本病院会との共催で「消費税対応実務者講習会」を開催した(2月21日)。転嫁方法に関する共同行為の締結が望まれたが、独禁法の規制により会員個々の判断に委ねることになった。

消費税は1989年7月の参議院選挙で国民からの批判が鮮明になり、野党からは廃止法案が、与党からは見直し法案が出されることになった。消費税の福祉目的税化の論議も再燃しており、医療界からは社会保障(保険制度、福祉)や産業税制などの点で注目していかなければならない問題であろう。



医制部

2 保険・諸法に関する取組み

病院における医療保険制度にかかわる諸問題に対する取組みは、当協会の主要事業のひとつとして位置づけられ、この5年の間も様々な対応を行ってきた。また近年の国の医療費抑制政策の波は、病院医療を取り巻く諸情勢の中にもいたるところに顕在化し、行政側からの指導監督は日増しに強化される一方である。これに対し協会では、特に京都府保険課との関係を重視し連絡を密にするとともに、会員病院に対しても適宜指導助言を積極的に進めてきた。

●三基準・施設基準への対応

1976年に保険課との間で、三基準に関する「申し合わせ」を締結して以降、当協会是对保険課における会員病院側の窓口として、三基準・施設基準の整備推進および病院医療の質の向上をめざし種々の努力を重ねてきた。

しかし、先に述べたごとく、最近の行政側の対応は、承認日の先送りや実質的な観察期間の復活など、現在なおその効力が確認されているはずの「申し合わせ」事項から逸脱した行政指導が多分に見られるなど、医療費抑制策がそのままこの場においても反映されている。

そのような状況の中で当協会は、あくまで会員病院の立場での対応を堅持しつつ、申請前の事前相談および保険課との調整、会員に対する実地調査への立合い、調査後の事後処理への協力など、多方面にわたって活動してきた。

その結果、1989年3月末の会員病院基準取得率は、看護55%、給食82%、寝具95%に達し、他府県と比較しても極めて高い比率を示している。▷三基準相談/最近では会員との日程調整により随時相談を受付けている。申請上の事務手続きに関するものについては担当事務局員が、ま

た看護や給食などの専門的な内容については、協会の婦長部会、栄養士部会からの指導委員の協力を得ながら対処してきた。

▷京都府保険課との折衝/日常的な事務連絡を軸に、会員に関する諸問題で調整を進め、手続などの円滑処理を促してきた。1986年8月、三基準問題について以下の確認を行った。

- ①1976年の申し合わせ事項は現在も有効である
 - ②指導内容も含め保険課と当協会は今後更に事務連絡を密に行う
 - ③場合によっては実地調査時に当協会の理事が立ち合う
 - ④保険課は今後検討を行い当協会の要望に沿えるようにする
- などである。

1987年8月「基準給食関係帳票マニュアル」の作成に関し懇談会を開催、意見交換を行った。そのほか、保険課と会員との間で問題が発生した折には適宜、処理のための交渉を行った。

●室料差額実態調査への協力

この5年間も、当協会は保険課からの依頼を受け、毎年7月1日現在の会員病院における室料差額実態調査に従来通り協力を行ってきた。

●生保指定医療機関に対する指導への立合い

京都市民生局による生活保護法指定病院への個別指導・懇談会が対象病院に対して行われるのに際し、当協会はこの適正に行われるよう担当理事による立合いを行ってきた。

●保険請求上のトラブル処理対策

1985年の京セラ人工骨使用問題、1988～89年のミドリ十字などの放射性検査薬をめぐる問題など、会員病院の保険請求上のトラブルに対し、当協会は当該病院間の情報交換の取りまとめを行うとともに、あくまで会員擁護の立場から、その補償問題を含めメーカー側と交渉を進めた。

医制部

3 救急・休日・時間外診療体制に関する取組み

京都市下における救急休日時間外診療体制の取組みは、当協会の主要事業のひとつであり、協会設立当初より様々な形で社会に貢献するとともに大きな役割を担ってきた。また、この問題に対応できる医療機関（2次救急）の大半が当協会傘下の私的病院であることから、行政側の期待も大きく、協会もこれまで積極的にその整備推進に協力してきた。

●京都市2次病院群輪番体制

1977年に国の救急体制整備に対する国庫補助成度の概要が発表され、1979年10月より正式に発足した市の輪番制度は、開始当初の種々の問題を克服し、今日まで順調に運営されてきている。なお、この5年間を見ても、制度そのものが京都市域の医療機関の中にすっかり定着し、急患発生時の対応に効果を上げてきている。また1985年4月からは、乙訓地区の2市1町（向日市・長岡京市・大山崎町）がこの制度に参入されたため、ブロックの一部変更を行なった。さらにこの間、協力病院数も増加の一途を辿り、年4回当協会がおこなう当番編成会議も非常にスムーズにできるようになった。

▶当協会協力病院数の推移

1985年度：57病院（小児13病院）、1986年度：62病院（小児17病院）、1987年度：65病院（小児18病院）、1988年度：70病院（小児16病院）、1989年度：72病院（小児17病院）

▶当協会搬送患者数の推移（当協会会員協力病院分）

1985年度：入院191、外来856 計1,047、1986年度：入院257、外来813 計1,070、1987年度：入院276、外来841 計1,117、1988年度：入院277、外来1,212 計1,489

▶補助金の推移（当協会会員協力病院分）

1985年度：129,320,000円、1986年度：129,480,000円、1987年度：129,880,000円、1988年度：129,800,000円

●小児後送に於ける対応

1984年度から整備され、一般医療機関からの小児後送に対する「小児輪番」と、「休日診療所からの後送」に対する別枠レーン制度の運営についても、関係医療機関の協力で現在まで順調に推移してきた。当協会は、小児輪番での平日の全てを担当するとともに、休日診後送についても、年末年始の際にはその当番体制にも参画し、2レーンの円滑な運営のために努力してきた。

●京都府下における2次病院群輪番制度

京都市域のほかに、府下では南山城（宇治市・城陽市）と中丹（舞鶴市・綾部市・福知山市・大江町・夜久野町・三和町）の2地区において、日祝日と年末年始を対象とした輪番制度が敷かれている。両地区とも、その編成などについては当協会は直接関わっていないが、協力病院の多くが会員病院であることから、常時協力体制をとるとともに、将来の広域輪番制導入に向けて行政に対する協議を行ってきた。

▶南山城地区/宇治、城陽2市の休日診療センターからの後送病院を確保するこの制度は、発足以来今日まで、宇治久世医師会病院部会の全面協力により円滑に進められている。

▶中丹地区/舞鶴、綾部、福知山の各行政当局が持廻りで運営しているが、当協会の会員病院の多くがこの制度に参画している。

●精神科救急体制確立にむけての取組み

当協会は、未だ整備が立遅れている精神科救急体制にメスを入れるべく、1988年に精神科救

急問題検討委員会を設置し、その確立に向けての検討を開始した。

すなわち、一般病院にとって重要な問題は、精神病患者を外科的・内科的に救急処置した後の後送先であろう。現状でも円滑に解決できるケースもあるが、制度化を望む声は高い。これまで当委員会は関係団体や医療機関と接触を持ったが、それぞれの事情もあって、体制を確立するまでにはなお一定の期間が必要のように思われる。今後とも、行政・精神病院協会・医師会・消防局など関係方面とともにこの問題に取り組むことになっている。

委員/ 1988・堀澤真澄（堀澤） 明石朗（明石）
出射靖生（京都回生） 藤村和正（第二北山）
真鍋克次郎（八幡中央） 1989～・大川原康夫
（愛生会山科） 真鍋克次郎 出射靖生 藤村
和正 谷口政春（堀川）

医制部

4 救急医療をめぐる問題への取組み

交通事故における医療に関しては、従来より自由診療が原則であり、この原則が救急病院の体制を維持していくうえでのよりどころとなっているにもかかわらず、支払い側は、財政的問題等より特殊医療体制をしく救急病院の実情を考慮しないために、時として治療費の円滑な支払いが行われないケースも見受けられる。

当協会はこうした損保会社の支払い遅延・値切りなどに対し、適正な医療に対する適正な治療費の支払いを求めて、事務サイドから救急搬入事故対策委員会（以下「事故対」という）を中心に損保協会との交渉を通じて、運動をおこなってきた。しかしこの問題は、自賠責保険制度そのものの問題もあって、明確な解決を得られるに至っていないのが実情である。

1984年10月、国の自賠責審議会が保険料率の改定と同時に医療費支払いの適正化の促進を求める答申をおこなったのを契機として、日本医師会と損保協会とが診療報酬基準案作りを開始した。また各都道府県においても、医療側と損保協会とによる協議会を設置し、問題解決に努力することが求められた。

京都府においては、当協会が損保協会と話し合いをおこなってきたこともあり、協議会の設置に向けた準備会に理事を送り、私的病院の立場に立って意見を述べてきた。1987年1月に「京都府交通事故医療連絡協議会」が発足し、自動車保険取り扱いのルール化を求めて協議をおこなっている。また、1987年7月より本協議会に苦情処理委員会が設置され、医療機関および損保会社からの苦情を取り扱っているが、当協会では事故対から2名を委員として派遣している。

1989年6月になって、中央での合意がなされ、

労災保険を準用した診療費算定基準が示されたが、これは現在の私的病院の実情からはほど遠く、納得できない内容であり、各地域の協議会でも今後の課題となっている。したがって事故対が1981年に損保協会との間に交わした申し合わせ事項は、協議会で正式な申し合わせができていない現在においては、まだ有効であり、各医療機関では従来通りの申し合わせ事項にのって処理を行っている現状である。

当協会の救急医療についての政策および医療内容に関して、方向づけを協議する救急医療委員会が1984年に設けられ、事故対と連携して必要時に開催される体制になった。ここでは前述の交通事故医療に関する問題のほか、休日・時間外体制の問題（別記）、救急告示制度など救急問題全般を包括している。

救急告示取扱要領が1987年2月に改正され、告示病院は3年毎の更新を義務づけられたが、当協会は、救急病院のほとんどが会員であることもあり、できる限り手続きの簡素化を医師会に要請してきた。

1 救急搬入事故対策委員会

当委員会は救急搬入にともなう医療および医療費をめぐるトラブルの解消をめざして活動をおこなっており、原則として月1回の会合をもっている。中心はやはり交通事故の医療費問題であるが、損保協会京都地方委員会と折衝するなかで、1981年8月に明細書・診断書の記載、請求・支払い、症状照会などについての「確認事項」が交わされてからは、これに基づいて各

医療機関が請求をおこなっている。が、損保会社の支払い保留や値切り交渉は続き、確認事項の遵守を求めて連絡会を何度もおこなってきた。

京都府交通事故医療連絡協議会(別記)が発足して以降は、正式な交渉の窓口はそちらに移ったものの、協議会で確認事項に代わる申し合わせが策定されるまでは、確認書の内容は存続しているものと当協会では理解している。この問題については当委員会でも重視し、事務サイドからの要望や意見を担当理事を通じて協議会の場に反映させてきた。また、協議会に設置された苦情処理委員会に委員を派遣し、実際の苦情の処理にあたるほか、この制度の利用を会員にも積極的にPRしてきた。

そのほか当委員会では、救急搬入をめぐる問題について会員からの相談に応じたり、事務処理段階での問題解決に積極的に取り組んでいる。1985年度以降の具体的な取り組みについて列举すると、①自賠担当者連絡会(会員病院事務担当者の全体会議)を開催し、委員会の活動報告や情報交換・意見交換をおこない、会員とのコミュニケーションを図っている ②交通事故相談所と会合を持ち、同機関の市民への指導に関し要望した(1986年3月) ③事故処理に関して京都府警に対し申し入れをおこなった(1986年3月) ④「交通事故医療請求マニュアル」を作成した(1986年) ⑤自賠責の入院料上限額と室料差額の引き上げを関係機関に要望した(1986年11月) ⑥交通事故の治療手続きに関する患者向けパンフレットを作成した(1986年) ⑦人身事故の証明書の発行について京都府警に要望した(1987年5月) ⑧「会員病院交通事故担当者名簿」を作成した(1987年10月、1989年9月改訂) ⑨任意保険一括請求に伴う未収金の実態把握調査をおこなった(1987年) ⑩京都乗用自動車協会とごん談を持ちトラブル解消に努めた(1987年6月、1988年10月) ⑪院内掲示用患者向けポスターを作成した(1988年)

2 救急医療委員会

当協会の救急医療問題全般について、協議する場であり、当協会の救急医療問題に対する政策を方向づける会として機能している。

協議の必要が生じた時のみの開催となっているが、これまで協議した問題を以下に示す。

●京都府交通事故医療連絡協議会への参画問題 (1985年8月)

医師会からの働きかけで京都府における損保との協議会が設置される見通しとなり、当協会も対応にせまられた。これまで当協会の救急搬入事故対策委員会が損保との折衝を強硬におこなってきたこともあり、参画することによって不利な条件で妥協させられるのではないかとの懸念もあったが、現状のままでは改善も望めないとの判断もあり、より明確で強固な合意を期待し、当協会として参画する方向をとった。協議会発足後も、協会の立場とその後の対応について協議してきた。

委員 / 1985~1986・竹内正三(委員長、京都南) 梅野辰郎(副委員長、久野) 神田ミツ子(小柳) 諏訪健次(安井) 中村政一(シミズ) 中村秀喜(田辺中央) 中村嘉明(武田) 坂東聡(富士原) 細見和弘(大和) 村上忠男(中村) 村山靖男(京都五条) 1987~1988・村上忠男(委員長) 梅野辰郎(副委員長) 竹内正三 海辺洋次(京都市づ川) 川北進(蘇生会) 神田ミツ子 中村政一 細見和弘 村山靖男 山室渡(第二京都回生) 1989~・明石純(委員長、明石) 梅野辰郎(副委員長) 前川輝男(宇治川) 今井隆久(大島) 海辺洋次 川北進 神田ミツ子 中村政一 細見和弘 村山靖男 山室渡
担当理事 / 1985~1986・高城正 真鍋克次郎 1987~1988・真鍋克次郎 増田耕三 1989~・真鍋克次郎 奈良静鴻

●京都市2次病院群輪番制における編成方法と
ブロック割の改正問題（1987年3月）

（別項に記載）

●救急告示病院の更新手続き問題（1987年～
1988年）

1987年2月、「救急病院等の告示取扱要領」の改正にともない、従来から救急告示をおこなっている病院についても新規申請をし、3年を経過した時点で更新手続きをおこなわなければならなくなった。救急告示病院の大半が当協会の会員であることから、当該会員に説明をおこなうとともに、会員の意向調査を実施して、申請手続きに対する府医師会の病院視察の方法について病院側の負担を極力軽減するよう、医師会に申し入れをおこなった。

委員 / 1985～1986・花房節哉（委員長、花房）
金在河（西京） 児玉浩一（大和） 清水勉（シミズ） 高城正（太秦） 真鍋克次郎（八幡中央） 村田隆（小柳） 1987～1988・花房節哉
真鍋克次郎 清水勉 増田耕三（西陣） 1989
～・花房節哉 真鍋克次郎 出射靖生（京都回生） 奈良静鴻（洛陽）

3 京都府交通事故医療連絡協議会

交通事故医療に於ける自動車保険の適正で円滑な運営を図る目的で1987年1月に発足した。国の自賠責審議会の答申を受けて各都道府県で設置されたが、会の実態は地域によってさまざまである。京都府では、1985年以降の準備会に当協会から担当理事が出席し、私的病院の立場を反映できるよう努め、医療側は京都府医師会、当協会、京都府病院協会の三者で構成されることになった。

本協議会設置に先立ち医療側三者は、①協議会における医療側は三者で構成されること ②医療側の代表は医師会であること ③協議会で

の討議にあたっては事前に三者で意見調整をおこなう——との申し合わせをおこなった。

協議会は必要に応じ随時開催しているが、発足直後は、苦情処理機関の設置に向け苦情処理の取り扱い方法を中心に比較的ひんばんに協議された。また、交通事故医療の現状と問題点について、相方より資料をもとに議論をおこなったが、損保側は京都における診療費が全国平均からみて高いことを、また医療側は当協会がおこなった未収金調査の結果を公表することにより治療費の支払い保留が慢性的にあり、医療機関がその対処に苦慮している実態をそれぞれ提示し、各委員が実態を認識することによって問題解決に向けた話し合いの第一歩となった。

苦情処理委員会が機能し始めてからは、医療機関側からの申請が数多く出されたが、争点の明確でない支払い保留が多く委員会では対処しきれないところから、治療費請求および支払いのルール化が望まれた。それを受けて協議会では「自動車保険診療費の取り扱い」が以降の大きなテーマになり、現在までその調整が続いている。現在の検討項目は、①請求（レセプト作成、請求時期、レセプト様式・記載） ②支払い（時期、通知、保留要領） ③一括払い（通知） ④社会保険の適用（適用の際の規則、レセプト添付） ⑤症状紹介（方法、料金） ⑥診断書（記載方法、料金）——などとなっている。

1989年6月に日医と損保協会の「自賠責保険の診療費算定基準」(労災保険算定基準に準拠し、モノは単価12円、技術料はこれに20%を加算した額を上限とするというもの) が示されたことにより、これまでの協議会でのルール化に向けて協議されてきた内容にも影響を与えるのではないと思われる。今後この基準に京都府ではどう対応するかが、本協議会で論議されていくことになる。医療側の意見としては、出されたそのままの基準では医療機関にとって大巾な減収につながることから、反対の声が強い。

なお、苦情処理委員会は1989年10月現在で99

の案件（医療機関から97件、損保会社から2件）を扱い、全て何らかの形で解決に至っている。

▶当協会からの派遣委員

協議会 / 1986～・花房節哉（花房） 真鍋克次郎（八幡中央） 苦情処理委員会 / 1987～・村上忠男（中村、1989年6月まで） 明石純（明石、1989年7月から） 梅野辰郎（久野）

学術研修部

1 京都病院学会

京都病院学会は京都私立病院協会の学術研修事業として、1965年3月21日第1回京都地方病院学会の形で始まり、1977年の第13回からは京都府病院協会との共催で開催。名実ともに京都府下の全病院を対象とした学会となり今日に至っている。

本学会の特色としては、医師をはじめ看護、薬剤、放射線、リハビリテーション、臨床検査、栄養管理、事務、学校などあらゆる部門の病院職員が参加し、日常の医療活動を通じて第1線の臨床現場での研究成果を発表しあう貴重な場として関係各方面から高い評価を受けている。

第21回から第25回までの5年間の推移をみると演題数も倍近くになるという盛況ぶりであり、最近では、本学会を院内の年間スケジュールに組み入れている会員病院も少なくない。

特に第25回では、これまでのシンポジウム形式の討論会に代えて教育講演のスタイルをとり入れ、広く一般的な内容での開催で成功をおさめている。また、部門別ではリハビリテーション部門を新設した。ここでは理学療法を中心に看護や言語療法の立場からの発表もあり、高齢化社会にむけ今後ますます発展充実していく部門と思われる。

▶第21回 1985年6月16日 於・京都府医師会館
参加者数 / 969名 演題数 / 113題

▷特別講演

テーマ / 生きること学ぶこと

講師 / 広中平祐(京都大学数理解析研究所教授)

▷シンポジウム

テーマ / 病院における高齢者看護について

司会 / 中橋彌光 (西陣)

シンポジスト / 西岡和子 (京都武田) 藪上英



子 (府立洛東) 三宅一博 (京都市立) 下条都 (西陣) 三淵浩道 (安井) 香月英彦 (右京) 学会役員 / 伊藤誠一 (学会長、伊藤) 宇山理雄 (副学会長・京都第二赤十字) 大川原康夫 (愛生会山科) 久保田信孝 (ムツミ) 中元俊夫 (丸太町) 富田仁 (京都博愛会) 森吉猛 (国立療養所宇多野) 南里一光 (鞍馬口) 米田道正 (京都市立) 緒方豊 (監事、京都桂) 実行委員 / 富田仁 (実行委員長) 米田道正 (副実行委員長) 我妻節子 (武田) 大久保一枝 (国立療養所宇多野) 村上文臣 (京都博愛会) 武内杉治 (京都第二赤十字) 芦田暢夫 (京都府立医大付属) 並河茂 (京都市立) 田中成一 (京都市立) 近藤良三 (岡本) 小路義文 (なぎ辻) 伊藤真澄 (京都第二赤十字) 三反園芳子 (京都保健衛生専門学校) 宮野亘 (京都保健衛生専門学校) 藤腹明子 (京都中央看護専門学校)

▶第22回 1986年6月15日 於・京都府医師会館
参加者数 / 1,157名 演題数 / 152題

▷特別講演

テーマ / 科学と人生

講師 / 福井謙一 (京都工芸繊維大学学長)

▷シンポジウム

テーマ / 集中治療室のかかえる諸問題

司会 / 西尾義典 (京都第二赤十字)

シンポジスト / 石井奏 (国立京都) 坂本教子

(京都第二赤十字) 谷原智恵子 (京都桂)

中田笑子 (京都南) 久保茂 (武田)

学会役員 / 宇山理雄 (学会長) 富田仁 (副学会長) 森吉猛 (副学会長) 南里一 亮 野村博 (三菱京都) 伊藤誠一 大川原康夫 養和田卓郎 (西山) 相馬秀臣 (監事、相馬)

実行委員 / 南里一 亮 (実行委員長) 大川原康夫 (副実行委員長) 桜井陽子 (鞍馬口) 平塚市子 (国立京都) 我妻節子 関和香子 (ユニチカ中央) 武内杉治 (京都第二赤十字) 西村清 (久野) 芦田暢夫 並河茂 竹下清治郎 (京都第一赤十字) 田中清隆 (宇治) 伊藤真澄 川内きみの (京都保健衛生専門学校) 鈴木由美子 (京都保健衛生専門学校) 浜本純子 (京都中央看護専門学校)

▶第23回 1987年6月21日 於・京都府医師会館
参加者数 / 1,072名 演題数 / 135題

▷特別講演

テーマ / 新しい医用材料へどこに問題があるか
講師 / 筏義人 (京都大学医用高分子研究センター教授)

▷シンポジウム

テーマ / 病院の活性化

司会 / 中野進 (京都四条)

シンポジスト / 堺幹太 (国立京都) 河上素子 (西陣) 沖一 (舞鶴市民) 武田隆男 (武田)

学会役員 / 富田仁 (学会長) 谷道之 (副学会長・済生会京都府) 大川原康夫 藤田洋一 (公立南丹) 藤森克彦 (ユニチカ中央) 養和田卓郎 宇山理雄 森克己 (京都市立) 野村博緒方豊 (監事)

実行委員長 / 大川原康夫 (実行委員長) 藤田洋一 (副実行委員長) 関和香子 松阪富 (三菱京都) 佐藤きみゑ (済生会京都府) 小林文子 (公立南丹) 村上文臣 原城修 (京都第一赤十字) 芦田暢夫 伊藤真澄 並河茂 竹下誠次郎 芝山哲二郎 (堀川) 宮野亘 安田睦美 (京都保健衛生専門学校) 御沖洋子 (京都中央看護専門学校)

▶第24回 1988年6月12日 於・京都府医師会館
参加者数 / 1,213名 演題数 / 164題



▷特別講演

テーマ / ウイルス肝炎の予防と対策～特に院内感染について

講師 / 鈴木司郎 (三重大学医学部第三内科教授)

▷シンポジウム

テーマ / 医療職場におけるコンピュータ

座長 / 高橋隆 (京都大学医学部付属)

シンポジスト / 桜井恒太郎 (京都大学医学部付属) 林寺忠 (国立京都) 林恭平 (京都府立医科大学公衆衛生学教室) 空地啓一 (姫路市医師会) 湊小太郎 (京都大学医学部付属)

学会役員 / 谷道之 (学会長) 大川原康夫 (副学会長) 南里一 亮 (副学会長) 藤田洋一 森克己 三宅健夫 (国立京都) 武田隆男 藤村和正 (第二北山) 藤森克彦 宇山理雄 (監事) 富田仁 (監事)

実行委員 / 藤田洋一 (実行委員長) 武田隆男 (副実行委員長) 佐藤きみゑ 小林文子 松阪富 谷本なつ (大原記念) 佐藤節雄 (済生会京都府) 村上忠男 (中村) 田中清隆 衣笠松男 (京都市立) 芦田暢夫 角南昌三 (京都大学医療技術短期大学部) 大藪加代子 (京都市立) 田尻睦 (京都保健衛生専門学校) 谷川寛子 (京都保健衛生専門学校) 大谷百合子 (京都中央看護専門学校)

▶第25回 1989年6月11日 於・京都府医師会館
参加者数 / 1,296名 演題数 / 173題

▷特別講演

テーマ / 我が国における臓器移植の現況とその展望

講師 / 岡隆宏 (京都府立医科大学教授)

▷教育講演①

テーマ / 職場の人間関係

講師 / 平田芳郎 (人間関係総合研究所所長)

▷教育講演②

テーマ / 在宅医療の実践と課題

講師 / 谷口政春 (堀川病院院長)

学会役員 / 大川原康夫 (学会長) 野村博 (副

学会長) 武田隆男 (副学会長) 藤森克彦

藤村和正 三宅健夫 藤田洋一 西谷裕 (国立

療養所宇多野) 富田仁 (監事) 宇山理雄 (監事)

実行委員 / 藤森克彦 (実行委員長) 藤田洋一

(副実行委員長) 橋本正夫 (愛生会山科)

角野英機 (三菱京都) 松阪富 角田麻千子 (愛

生会山科) 大内美代子 (京都市立) 平田八

重子 (国立京都) 橋本博史 (宇治) 衣笠松

男 浅野恵生 (岩倉) 四井猛士 (宇治徳洲会)

角南昌三 生駒俊和 (京都保健衛生専門学校)

吉松節子 (京都保健衛生専門学校) 泉川孝子

(京都中央看護専門学校)

学術研修部

2 教育・研修への取組み

1 教育訓練初級コース



1965年より毎年春期に開催している教育訓練初級コース（接遇訓練）は、各医療機関での新入職員を対象としている。新入職員が病院職員として、基本的な知識と心得を習得し、医療機関における組織人としての自覚を養ふことを目的とした本研修会は、現在では会員病院に定着し、期待も大きい。

本コースは京都市内開催とともに北部地区を対象に、福知山、舞鶴各医師会と隔年共催の形で開催されており、当協会会員施設のみならず各医師会会員施設の新入職員や医師会看護学校学生の参加を得、毎年好評である。毎年、数多くの新入職員が受講し、研修後は新たな目標をもって今後の業務に役立てていることと思われる。なお、講師は主として当協会の担当理事や事務長会・婦長部会から派遣された担当者がおこなっている。

▶1985年度

▷京都市内開催 / 1985年 5月16日・17日

於・京都府医師会館

講師 / 久保田信孝（ムツミ） 中元俊夫（丸太町） 石田愷一（新河端） 藤春千恵子（洛和会音羽）

▷北部地区開催 / 1985年 6月20日 於・福知山市保健センター

講師 / 大川原康夫（愛生会山科） 石田愷一（新河端） 関和香子（ユニチカ中央）

▶1986年度

▷京都市内開催 / 1986年 5月21日・22日

於・京都府医師会館

講師 / 武田隆男（武田） 冨田仁（京都博愛会）
西村清（久野） 小山君子（岡本）

▷北部地区開催 / 1986年 6月21日 於・舞鶴メデイカルセンター

講師 / 大川原康夫（愛生会山科） 西村清（久野） 関和香子（ユニチカ中央）

▶1987年度

▷京都市内開催 / 1987年 5月18日・19日

於・京都府医師会館

講師 / 吉川順介（吉川） 冨田仁（京都博愛会）
日下部功（武田） 岡部登美子（京都武田）

▷北部地区開催 / 1987年 6月27日 於・福知山保健センター

講師 / 吉川順介（吉川） 日下部功（武田）
岡部登美子（京都武田）

▶1988年度

▷京都市内開催 / 1988年 5月16日・17日

於・京都府医師会館

講師 / 武田隆男（武田） 藤村和正（第二北山）
吉本滯子（日本マネジメント協会）

▷北部地区開催 / 1988年 6月25日 於・舞鶴メデイカルセンター

講師 / 大川原康夫（愛生会山科） 西村清（久野） 岡部登美子（京都武田）

▶1989年度

▷京都市内開催 / 1989年 5月15日・16日

於・京都府医師会館

講師 / 中村仁一（高雄） 藤村和正（第二北山）
中野種樹（長岡） 藤春千恵子（修学院）

▷北部地区開催/1989年6月24日 於・福知山市保健センター

講師/大川原康夫(愛生会山科) 中野種樹(長岡) 岡部登美子(京都武田)

2 中堅幹部職員研修



この研修会は、事務長会が中心となって企画運営され、病院内各職種の中堅幹部を対象に実施している。以前は外部講師を招き開催していたが、病院の特殊性に触れられることが少ない一般的な講義であったため、事務長会ではこの研修会を病院の日常業務に沿った具体的な内容となるように検討を重ね、1985年よりオリジナルのテキストをつくり、講師は事務長会から派遣するという改革を行い、現在まで確実にその成果を上げている。1986年では、新しくビデオを取り入れた研修を行い非常に好評であった。毎回とり入れているグループワークではその時代にあったテーマが設けられ、いろいろな意見を自由に述べ情報交換を行う活気のある討論会になっている。年々、内容もますます充実し、病院において主要な位置にある中堅幹部職員の育成研修として、今後の活躍が期待される。

▶1985年11月14日・15日 於・亀岡ハイツ
講師/奈良静鴻(洛陽) 家辺隆雄(吉川)
高城正(大養) 田川熊雄(第二岡本) 日下部功(武田) 村上文臣(京都博愛会) 石田信一(新河端) 板坂勉(宇治) 中野種樹(長

グループワーク指導/米澤鉄志(高雄) 永井佑二(九条)

▶1986年11月11日・12日

講師/奈良静鴻(洛陽) 山口孝男(第二岡本)
中村仁一(高雄) 西村清(久野) 増田耕三(西陣) 板坂勉(宇治)

グループワーク指導/永井佑二(九条) 米澤鉄志(高雄)

▶1987年11月19日・20

講師/増田耕三(西陣) 米澤鉄志(高雄)
山口孝男(第二岡本) 西村清(久野) 西川成史(ユニチカ中央) 板坂勉(宇治)

グループワーク指導/永井佑二(九条) 土居皓(松ヶ崎)

▶1989年2月16日・17日 於・京都厚生年金休暇センター

講師/増田耕三(西陣) 米澤鉄志(高雄)
西川成史(ユニチカ中央) 西村清(久野)
横井一夫(吉川) 山口孝男(第二岡本総合)
グループワーク指導/西川成史 西村清 鶴飼五郎(丸太町) 永井佑二(九条)

3 看護卒後教育



看護部門の教育において、院内での教育が比較的難しいとされる中堅層にスポットをあて、その教育プログラムを卒後教育検討委員会で検討してきたが、1985年度には年間を通しての婦長、主任対象の連続講座や卒後3年目対象の研

修会などを企画運営し、本格的にスタートすることになった。

現在では、婦長・主任コースの「看護中間管理者研修」(毎月1回、計12回の開催)、卒後3年の看護職を対象にした「リーダーシップ研修」、前年度の中間管理者研修の修了者を対象としたフォローアップ研修の3つは定着したものとなっている。

●卒後教育検討委員会

この項で扱う研修会の具体的企画・運営を本委員会が担当している。

委員 / 1985～1986・石井松代(委員長、堀川) 関和香子(ユニチカ中央) 浜島花江(京都桂) 小山君子(岡本) 大島幸子(高雄) 木村久子(丸太町) 白川英子(宇治川) 福田美智子(西陣) 松川房子(大島) 佐々木由紀子(京都保健衛生専門学校) 井本千鶴子(同) 森幸(京都中央看護専門学校) 1987～1988・石井松代(委員長) 関和香子 浜島花江 平田とみ(北) 稲岡静子(京都大橋総合) 上久美子(吉川) 白井英子 谷本なつ(大原記念) 福田美智子 松川房子 佐々木由紀子 横山洋子(京都保健衛生専門学校) 塩見千恵子(同、1988年から) 藤腹明子(京都中央看護専門学校) 1989～・石井松代(委員長) 松阪富(三菱京都、1989年9月まで) 我妻節子(武田) 谷本なつ 平田とみ 福田美智子 藤春千恵子(比叡) 浜塚五十鈴(京都桂) 佐々木由紀子 横山洋子 塩見千恵子

●中間管理者研修(婦長・主任コース)

本研修は、1984年に始まり、1986年には毎月1回、全12回の現在の形になった。これは病棟婦長・主任を対象としたもので、特徴として①連続講座としてプログラムを組んだこと ②参考図書を指定して予・復習ができるようにしたこと ③受講後、問題意識をもたせるため、5～6人によるグループワークをおこない、担当者レポートを提出させたこと ④実習やグループワークをとり入れた講義を持ち、受講者全

体で問題を討論しあったこと——などが挙げられる。なお、会場を京都中央看護専門学校の協力を得て、開催している。

▶1985年度

参加者 / 32病院 50名

- ①4月23日 「スポーツを通じての自己開発」 講師 / 半田百合子(元東京オリンピックバレーボール選手) ②5月24日 「看護研究」 講師 / 西田晃(茨木・藍野看護短大教授) ③6月25日 「リーダーシップ～指導性の開発」 講師 / 大川一雄(神戸女学院大学教授) ④7月23日 「青年心理」 講師 / 秋葉英則(大阪教育大学教授) ⑤9月24日 「看護管理」(1) 講師 / 出垣冴子(兵庫県塚口病院看護部長) ⑥10月22日 「看護管理」(2)～実践場面を通して 講師 / 森幸(京都中央看護専門学校教務主任) ⑦11月19日 「P. O. S(問題解決技法)」 講師 / 中本高夫(滋賀医科大学第二内科) ⑧12月20日 「看護記録と申し送り」 講師 / 城ヶ端初子(聖隷学園浜松衛生短期大学) ⑨2月21日 「他から看護婦を見る」 講師 / ベっしょちえこ(詩人) ⑩3月26日 「グループワーク」 講師 / 佐々木由紀子・井本千鶴子(京都保健衛生専門学校教務主任)

▶1986年度(以下、前年度と同じ講義はテーマのみ示す)

参加者 / 41病院 63名

- ①4月23日 「これからの女性の生きかた」 講師 / 水島照子(生活評論家・労力銀行主宰) ②5月19日 「看護研究」 ③6月26日 「リーダーシップ」 ④7 / 22 「青年心理」 ⑤8月29日 「P. O. S(問題解決技法)」 ⑥9月26日 「看護記録と申し送り」 ⑦10月30日 「看護と人間関係」 講師 / 道端良秀(光華女子大学名誉教授) ⑧11月26日 「看護診断」 講師 / 松木光子(大阪大学医療技術短期大学部) ⑨12月26日 「グループワーク」(1)～病棟責任者としての対処を考える ⑩1月21日 「看護管理」(1) 講師 / 高島妙子(聖隷浜松病院総婦

長) ⑪2月25日 「看護管理」(2) ⑫3月26日 「グループワーク」(2)～婦長・主任業務とその役割 講師/横山洋子・井本千鶴子

▶1987年度

参加者/45病院 64名

①4月21日 「豊かな言語生活」 講師/福知正温(立命館大学文学部講師) ②5月21日

「看護研究」 ③6月21日 「リーダーシップ」

④7月20日 「青年心理」 ⑤8月19日 「P. O. S(問題解決技法)」

⑥9月17日 「看護診断」 ⑦10月28日 「看護記録と申し送り」

⑧11月27日 「豊かな人生を生きるために」

講師/上原恵美(滋賀県商工労働部部長) ⑨

12月25日 「グループワーク」(1) ⑩1月26日

「看護管理」(1) ⑪2月26日 「看護管理」(2) ⑫

3月25日 「グループワーク」(2)～病棟内の問題に対する解決法

▶1988年度

参加者/48病院 69名

①4月26日 「生きがいのある人生」 講師/瀧野直三郎(財団法人モラロジー研究所参与)

②5月26日 「看護研究」 ③6月21日 「リーダーシップ」 ④7月21日 「青年心理」

⑤8月23日 「P. O. S(問題解決技法)」 ⑥9月20日 「看護診断」 講師/端章恵(滋賀県立短大看護学部)

⑦10月26日 「看護記録と申し送り」 ⑧11月29日 「生きがい療法について」 講師/伊丹仁朗(倉敷市・柴田病院医師)

⑨12月26日 「グループワーク」(1) ⑩

1月19日 「看護管理」(1) ⑪2月22日 「看護管理」(2) ⑫3月28日 「グループワーク」(2)

▶1989年度

参加者/52病院 88名

①4月27日 「生涯教育と女性」 講師/小倉美津子(仏教大学教育学部社会教育学科助教授)

②5月22日 「看護研究」 ③6月28日 「リーダーシップ」 ④7月18日 「P. O. S(問題解決技法)」

⑤8月28日 「青年心理」 ⑥9月18日 「看護診断」

●中間管理者研修修了者のための研修

▶59年度修了者 1986年6月3日

参加者/24病院 31名

於・京都私学会館

講師/佐藤房子(元大阪市立大学附属病院総婦長)

▶60年度修了者 1986年12月13日

参加者/17病院 25名

於・京都市社会教育総合センター

▶61年度修了者 1987年7月3日

参加者/22病院 33名

開催場所/京都労働者総合会館

▶59・60年度修了者(インシデント法による事例検討研修会) 1987年12月2日

参加者/20病院 33名

講師/門田邦代(洛和会音羽病院総婦長)

▶62年度修了者 1988年9月6日

於・京都府医師会館

参加者/24病院 32名

▶63年度修了者 1989年9月2日

参加者/30病院 37名

●リーダーシップ研修(於・京都府医師会館)

▶1985年度

①5月20日 「組織人としての看護婦さんとみんなですすめる患者医療」 ②6月20日 「看護婦さんの仕事関係と人間関係の円滑化」

③7月15日 「看護における協働と指導性の大切さ」

参加者/23病院 46名

講師/硯川真旬(仏教大学教授)

▶1986年度

①5月13日、27日 リーダーシップ研修「リーダーシップと自己のあり方を見つめて」

参加者/25病院 47名

講師/硯川真旬(以下、全ての①の講師)

②6月18日 「看護計画」

参加者/28病院 60名

講師/上野範子(京都府立医大附属病院副総看護婦長)

▶1987年度

①6月4日、12日 リーダーシップ研修

参加者 / 27病院 47名

② 6月19日 カウンセリング

参加者 / 25病院 53名

講師 / 大段智亮（龍谷大学教授、次年度分も）

▶ 1988年度

① 6月3日、6月10日 リーダーシップ研修

参加者 / 27病院 54名

② 6月24日 カウンセリング

参加者 / 32病院 61名

③ 9月27日 対象に外れた方のための研修

参加者 / 38病院 67名

講師 / 杉野元子（地域活動研究所、次年度分も）

▶ 1989年度

① 6月1日、6日 リーダーシップ研修

参加者 / 38病院 69名

② 6月30日 カウンセリング

参加者 / 38病院 81名

講師 / 西光義敏（龍谷大学教授）

③ 9月22日 対象に外れた方のための研修

参加者 / 51病院 89名



1 経営問題への取組み

1 外部委託問題への取組み

近年、医療の現場においては様々な部署で業務の外部委託化が進んでいる。当協会では設立当初より、寝具問題を中心に病院側の立場に立っての種々の活動を展開し、常にその部分の質の向上に努めてきた。またこの5年間を見ても新たに給食部門の委託化が活発化し、この問題についても対応をせまられるようになってきた。

●寝具委員会

今や京都府下の約92%の病院が基準寝具の承認病院であり、そのほとんどすべての寝具が外注でまかなわれている。よって寝具問題は病院共通の問題といっても過言ではなく、当委員会も、寝具料金問題での業者交渉を主に、あくまで病院側の主張をもって対応してきた。主な取り組みを以下に示す。

▶1985年度 ①近畿の各病院団体と情報交換を行う ②会員病院価格調査（業者別33病院抽出）を実現 ③業者との懇談および日本羽毛医療寝具の工場見学を行う

▶1986年度 ①料金値上げ要請にともなう業者との懇談および綿久工場見学を行う ②羽毛寝具の使用について京都府保険課と話し合いを行う

▶1987年度 （特になし）

▶1988年度 ①業者側からの値上げ要請をめぐって京都府医師会と担当理事間の話し合いを行う ②近畿における京都の料金が低い実態にもとづき値上げを否定する一方、対業者交渉のための資料づくりとして、病院側の原価計算の実施と他府県の実態を詳細に調査することを決め、作業を始める。消費税問題の出現で価格交渉は実

質棚上げとなる。

▶1989年度 ①前年に続き、業者側より値上要求があり、それに対し委員病院ならびに事務長会医事部員病院において病院側の原価計算を実施し交渉を続ける。

委員 / 1985～1988・梶並溢弘（担当理事、西京都） 板坂勉（宇治、1986年まで） 岡崎展也（富士原） 蔭山弘（比叡） 田川熊雄（第二岡本） 永井佑二（九条） 増田耕三（西陣） 吉田美義（宇治黄檗） 米澤鉄志（高雄） 1989～・梶並溢弘 岡崎展也 蔭山弘 田川熊雄 永井佑二 米澤鉄志 鶴飼五郎（丸太町） 室崎宗美（北山）

2 クレジットカード取扱いの推進

当協会では、1984年の健保本人一割負担の導入を契機に、患者サービスのひとつとして、また未収金の防止や早期受診の促進の一環として、会員病院の窓口におけるクレジットカード取扱いの推進を図ってきた。この取組みについては、事務長会経営部を中心に検討を重ね、独自の提携条件を盛り込んだ覚書を大手カード会社と締結し、病院負担を可能な限り軽減した形で会員への斡旋を行っている。

提携カード会社については、1985年6月より近畿しんきんクレジットサービス(VISA)、京都クレジットサービス(DC)、安田ユニオンクレジット(UC)、新京都信販の4社と締結し、1988年4月からは新たに、ジェーシービー(JCB)、日本信販、大信販の3社からの参入を受け入れ現時点の国内における銀行系、信販系それぞれの

最大手7社との提携となっている。

現在では、会員病院のうち、36の医療機関でクレジットカードの取扱いが行われている。

3 購買担当者会議

会員病院の購買担当者が集まり、購入価格の情報交換を中心にして、用度関係の勉強会などを通じて、より良質な商品を安価に購入することで、会員病院の購買事業に資することを目的に京都府病院協同組合との共催で実施して、以来7年目を迎える。

毎回のテーマは、会員の要望の多いものに併せ、これまでに調査したものの経年変化の状況とその対応を検討するため、一貫した商品を取り上げての調査・検討をも行ってきた。これらの成果をもとに、今後更に一層情報価値の高い会議にするとともに、会員病院へのより有効な還元方法を検討して行きたいとしている。

▶1985年度

- ①ディスプレイ等の価格情報交換 ②CTスキャナーのメンテナンス料金についての情報交換（4月16日）
- ③コンピューター用レセプト用紙の統一化と共同購入についての検討を開始（検討会の発足）
- ④CTスキャナーの保守アンケートの発表（6月18日）
- ⑤心電計・脳波計用記録紙の共同購入について検討を開始（検討会の発足） ⑥レセプト検討会の中間報告（9月27日）
- ⑦「レセプト・X線フィルム等の保管方法について」の勉強会開催 講師/玉川雄司（京都南病院）（11月19日）

▶1986年度

- ①円高、原油安に伴う医療機器、消耗品の購入についての情報交換（レントゲンフィルムを中心に） ②「診療科新設と医療機器導入について」の勉強会 講師/桐村健（富士原病院）（6

月17日）

- ③尺角ガーゼ、裁断ガーゼの共同購入について
- ④「ガーゼの価格構成等について」の勉強会 話題提供/日伸商店（9月18日）
- ⑤輸液セット、翼状針の価格情報交換 ⑥ガーゼの拡販について（11月18日）
- ⑦ディスプレイ、ディスプレイ針、バルンカテーター、滅菌バックの価格情報 ⑧これからの講演会開催についての意見交換（3月18日）

▶1987年度

- ①手術用ゴム手袋、プラスチック手袋、検尿コップの価格情報交換 ②物品請求、発注、納品システムについての意見交換 於・京都府医師会館（6月16日）
- ③購買担当者研修会「用度業務のすすめ方と改善方策」 講師/塩山雅英（聖路加国際病院）
- ④購買担当者懇親会 於・ホリデイン京都（9月18日）
- ⑤レントゲンフィルム、電子体温計の価格情報交換 ⑥医療機器の購入、保守点検等についての情報交換 ⑦事務制服アンケートに関する情報交換 於・京都府医師会館（11月17日）

▶1988年度

- ①輸液セット、翼状針、連結管の価格情報交換
- ②特定治療材料等の請求洩れ防止のための工夫についての意見交換（4月19日）
- ③ディスプレイ、留置針他の価格情報交換
- ④価格交渉の方法についての意見交換（6月16日）
- ⑤レントゲンフィルムの価格情報交換 ⑥不織布の品質、価格、使用状況等について（10月19日）
- ⑦サージカルテープ、バルンカテーター、モニター用ディスプレイ電極の価格情報交換 ⑧印刷物の発注について（12月15日）
- ⑨CT、コンピューター保守料の価格情報交換 於・京都府病院協同組合（各回とも）（2月14日）

▶1989年度

- ①輸液セット、翼付針の価格情報交換 ②勉強会「在庫管理について」 発表者/原忠司（京都桂病院） 於・京都府病院協同組合（5月16日）

③レントゲンフィルムの価格情報交換 ④勉強会「レントゲンフィルムの基礎知識について」講師/竹内弘行（デュボンジャパン）

4 融資幹旋

●年末幹旋融資

1976年以来制度的に行っている。幹旋しているいくつかの制度の中で、最も重要な制度は、⑧制度（京都府救急告示病院等運転資金融資制度）である。この⑧融資の利率は、一般の利率に較べてかなり低く、会員病院には有難い制度といえる。また、京都府へ要望書を提出する中で、現在融資総枠が10億円と拡大し、融資限度額も1法人5千万円、複数病院を有する法人7千5百万円まで引き上げられた。

この間の利率と利用状況は以下の通りである。

〈幹旋融資利率表〉

区分	制度	融資限度額	期間	年 度			
				1985	1986	1987	1988
京都府	⑧	5,000万円	3年	6.0%	5.2%	4.2%	4.5%
	⑨	7,000万	3年	6.8	6.2	4.9	5.7
			3年超	7.0	6.4	4.9	5.7
⑩	3,000万	10ヶ月	6.0	5.2	4.2	4.5	
京都市	⑧	7,000万	3年	6.8	6.2	5.7	5.7
			3年超	7.0	6.4	5.7	5.7
	⑩	3,000万	10ヶ月	6.0	5.2	4.2	4.5

〈利用状況〉

区分	制度	1985年		1986年	
		件数	総額	件数	総額
京都府	⑧	25	10億円	25	9.95億円
	⑨	0	0	0	0
京都市	⑧	1	2千万円	0	0
	⑩	0	0	0	0
区分	制度	1987年		1988年	
		件数	総額	件数	総額
京都府	⑧	25	10億円	25	9.5億円
	⑨	0	0	0	0
京都市	⑧	1	2千万円	0	0
	⑩	0	0	0	0

●京信メディックローン

病院の幹部職員を対象に、京都信用金庫との間で締結し実施しているこの制度も定着し、大体、年間コンスタントに利用されてきている。金利については、市場金利が下がった場合は、すみやかに引き下げ、また、より一層の便宜を図るために、保証人などの件についても簡略化の申し入れを行った。

利用状況は以下の通りである。

年度	1985	1986	1987	1988
件数	4	8	2	4
金額(万円)	920	1,765	440	800

●中信病院職員ローン

会員病院の一般職員向ローンを、京都中央信用金庫と1986年4月に締結した。無担保、無保証（しんきん保証基金の保証つき）で500万円、5年間を限度とし、中信の各支店で直接受付をおこなっている。利用状況は1988年12月末で職員ローン69件、カードローン254件である。

経営・厚生部

2 福利厚生活動

1 病院対抗野球大会

京都私立病院協会の設立趣旨の大きな柱のひとつとして、会員病院とそこに働く職員相互の親睦・福利厚生活動があげられる。なかでも病院対抗野球大会は当協会が設立された次の年から開催され、まさに協会の歴史とともに歩んできたと言える。

ただ近年のスポーツ熱とも相まって、グラウンドの確保困難のために、毎年遠隔地での試合が多くなってきた。今後の課題としては、例年通りのグラウンド確保難の問題解決と、運営経費の高騰による参加費の見直しが残る。

また第24回より実行委員会を組織し、実行委員主導型の大会運営をしているが、1988年度選手登録の職員資格問題が発生したが、実行委員会によって適切な問題処理が行われ今後の運営の厳格化が確認された。

なお、本大会は、(株)公益社および(株)セレマ（旧・互助センター）より各回交互にご協賛をいただいている。

▶第21回 参加44チーム

球場 / 横大路、比叡平ワコール、洛西浄化センター、京都学園大、太陽ヶ丘

優勝 / 洛和会音羽病院 準優勝 / 三菱京都病院
三位 / 西陣病院、丸太町病院

▶第22回 参加43チーム

球場 / 亀岡月読橋、森下製薬野洲工場、トラック協会西山、洛西浄化センター、織商久御山総合、比叡平ワコール

優勝 / 北山病院 準優勝 / 洛和会音羽病院
三位 / 宇治黄檗病院、シミズ病院



▶第23回 参加44チーム

球場 / ユアサ木の浜、洛西浄化センター、市営横大路

優勝 / 北山病院 準優勝 / 三菱京都病院
三位 / 京都桂病院、丸太町病院

▶第24回 参加49チーム

球場 / 京都市横大路、ユアサ木の浜、東レ瀬田

優勝 / 洛和会音羽病院 準優勝 / 医仁会武田総合病院

三位 / 富士原病院、丸太町病院
実行委員会委員 / 西条雅一（委員長、京都桂）
白坂勝弘（蘇生会総合） 吉村修一（西陣）

津田明（丸太町） 今井秀夫（比叡） 齊藤政彦（京都南）

▶第25回 参加46チーム

球場 / ユアサ琵琶湖スポーツランド

優勝 / 洛和会音羽病院 準優勝 / 蘇生会総合病院

三位 / 京都桂病院、新河端病院
実行委員会委員 / 西条雅一（委員長） 齊藤政彦
白坂勝弘 武田勝久（長岡） 吉村修一

2 病院対抗女子バレーボール大会

京都私立病院協会の二大事業厚生活動のひとつであり、会員病院に勤務する女子職員を対象に開催されている。1978年以降、毎年開催され、各病院クラブの日常練習の励みになっている。年を追うごとに参加チームも増え、レベル向上には目ざましいものがある。

第7回よりははじめた3日間開催（予選大会1日、決勝トーナメント2日）が定着し、勤務多忙な中を日程に合わせていただき、棄権チームがほとんどなくなった。

しかし、会場確保に関しては、相変わらず困難を極めているが、関係者のご協力によりそれぞれ解決することができ、大会運営も順調に行なわれてきた。

なお、本大会は野球大会同様、㈱公益社および㈱セレマ（旧・互助センター）のご協賛を各回交互にいただいている。

▶第8回 参加50チーム

会場/京都市スポーツセンター、京都市武道センター、京都府立体育館第二競技場

優勝/シミズ病院 準優勝/富士原病院

三位/武田病院、京都武田病院

▶第9回 参加52チーム

会場/京都市スポーツセンター、京都エミナース体育館

優勝/シミズ病院 準優勝/富士原病院

三位/大原記念病院、京都桂病院Bチーム

▶第10回 参加59チーム

会場/向日市民体育館、京都市横大路体育館

優勝/シミズ病院 準優勝/愛生会山科病院

三位/京都南病院、洛和会音羽病院

▶第11回 参加58チーム

会場/向日市民体育館、京都市横大路体育館、京都エミナース体育館

優勝/岩倉病院 準優勝/京都南病院Bチーム

三位/堀川病院、医仁会武田病院

▶第12回 参加53チーム

会場/京都市立体育館、京都市横大路体育館

優勝/堀川病院 準優勝/医仁会武田総合病院

三位/岩倉病院A、京都南病院

なスポーツ大会としてファミリーボウリング大会、スキューバダイビング講習会などを行なっている。

ファミリーボウリング大会は、1971年に第1回が行われ毎年開催されてきたが、参加者数はボウリング熱の衰退を反映してか回を追って減少傾向にあり、過去5年間で2回開催されたにとどまった。

そこで、レジャーの個人化・高級化が進んできていることもあって、新しい試みとして、スキューバダイビング講習会を開始した。多数の参加をいただき、参加者の構成をみても医師、看護婦をはじめ全職種からの参加があり、年令的にも20才代から50才代までと幅広いものとなっている。

今後の取り組みについては、実施経験とニーズを考慮して企画検討していく必要があると思われる。

▶第11回 ファミリーボウリング大会

1986年3月29日 於・京都スターレーン

参加/83名 16施設

優勝/男子の部 西山隆夫（長岡河上病院）

女子の部 二宮範子（市田病院）

▶第12回 ファミリーボウリング大会

1988年3月12日 於・京都スターレーン

参加/56名 15施設

優勝/男子の部 藤村和正（第二北山病院）

女子の部 今西美子（修学院病院）

▶第1回 スキューバダイビング講習会

1988年12月～1989年4月

参加/28名 15施設

①学科講習 於・京都府病院協同組合 ②プール講習 於・八瀬スポーツパレー京都 ③海洋講習 於・越前海岸 厨、紀伊白浜

指導スタッフ/永井佑二（当協会世話人、九条病院） 塩見淳 加藤幸（関西潜水連盟インストラクター）

3 その他の厚生活動

野球・バレー大会のほかに、個人参加が可能

関連事業所5年間のあゆみ

京都保健衛生専門学校

京都府病院協同組合

京都府病院厚生年金基金

京都中央看護専門学校

京都保健衛生専門学校

●校舎地の取得

旧京都市衛生研究所の跡地と建物を借り受け校舎として1971年より使用してきたが、施設の老朽化と空間の不足に苦慮して、その問題を解決するためには土地・建物を取得し増改築を行わねばならない状況にあった。1986年、京都市の理解と協力が得られ、売買交換が成立。これにより学舎の建築へ大きく踏み出すことが可能となった。

●臨床検査技師養成制度の改定

臨床検査技師学校養成所指定規則の改正が1986年に行われ、これに基づく指導要領・カリキュラムが1987年入学生から適用された。

1. わらい

臨床検査技術のめざましい発展と医療に占める重要性の増大に対し、技師教育の観点だけでなく医療の現場における適正な検査業務をおこなえる技師の養成。

2. カリキュラムの特徴

①大学と養成所の両者に容易に用いることが出来る ②高等学校新課程に対応できる ③将来の一層の技術進歩に対応できる基礎的学力の習得 ④専門職としての倫理観の涵養を行う ⑤精度管理を含む検査管理、検査機器の保守管理、検査業務に直結する科目の実習等の充実 ⑥いままで明文化されていなかった学外実習が「臨床実習」として明文化され、授業時間に組み込まれた

3. 学校制度上の種々の影響

①夜間定時制の課程に特例的に認められてい



た「実習時間の半分を限度として、昼間、学生の所属施設での業務を授業時間とみなしてよい」が撤廃され、夜間定時制課程は4年制となった ②そのため夜間定時制課程の廃校があいつぎ、結果として夜間定時制は京都保健衛生専門学校を含め4校のみとなった。

●看護学科増定員と学舎改築

校舎地購入が実現したのにあわせて、老朽化した旧校舎を改築し、教育設備を更新するとともに、看護学科の増定員を行うことが、1987年の京都私立病院協会第13回通常総会で議決された。

資金は京都府、市の補助金と日本自転車振興会よりの補助金と会員病院よりの協力金を受けることができた。工事日程上の最難関と考えられた埋蔵文化財発掘調査も懸念されていた埋蔵物がなかったという好運に恵まれて、工事は予定された工期内に無事完了した。

工事期間中は、建物の取り壊し、第一看護学科の成安女子学園での授業、第二看護学科・事務室の仮住まいなどに職員はもちろん学生にとっても厳しい悪条件下での仮校舎生活を強いられたが、新校舎完成へ向け、一致協力の取り組みがなされた。

一方、看護学科増定員については第一看護学科の増員（40名）をおこなうことが決まり、その申請の段階では、厚生省の厳しい指導を受けたが、1989年4月より進学コースの増定員が実現した。

1. 施設の概要

- ①構造 / 鉄筋コンクリート造地下1階地上6階建
- ②建築面積 / 476.13㎡
- ③延床面積 / 476.13㎡（竣工後の総延床面積 4,827.90㎡）
- ④敷地面積 / 1,612.35㎡

2. 学舎改築事業の概要

- ①事業費 / 667,750,000円
- ②財政 / 京都府補助金 187,500,000円
京都市補助金 187,500,000円
日本自転車振興会補助金 112,750,000円
私病協会特別会費 180,000,000円
- ③工事請負業者 / 清水建設株式会社

3. 第一看護学科増定員内容

2年課程3年定時制、40名募集より80名募集へ1989年度入学生から実施する。

●看護婦志望者の増加と高校生の動向

近年、高校生の医療系専門学校（とくに看護婦）への志望者数は増加の傾向にある。

競争倍率

学 科	1985年度	1986年度	1987年度	1988年度	1989年度
第一看護学科	3.3	3.2	3.9	3.5	4.1
第二看護学科	3.7	6.3	9.3	8.6	7.1
第一臨床検査学科	3.1	3.3	3.5	2.8	2.6
第二臨床検査学科	1.6	1.0	2.0	1.9	1.6

本校の特徴は次の通り。

1. 第二看護学科（3年課程）

高校生の看護婦志望の傾向がそのまま現れている。1989年度は前年度の反動でやや減少した。

2. 第一看護学科（2年課程）

1989年度より募集定員が80人となり、推薦制が取り入れられた。

3. 臨床検査学科は横這い傾向だが受験者層の質は大幅によくなってきている。

●事務業務の合理化と教育活動への活用

教育機関では人力をできるだけ教育に集中させるため、本校でも事務業務の合理化に取り組んできた。

1. 成績管理システム

1984年度に看護学科へパソコンを導入し、成績管理システムを活用し、業務を整理した。

2. 入試業務

入学試験業務をコンピューター処理することにより、文書作成、データ処理の迅速化と正確化を計った。得られるデータを教育活動へ活用すること、学生募集へフィードバックすることを、これからの課題としている。

3. 会計業務

会計業務・授業料請求・講師料支払いなどの業務をシステム化し、機械化を計った。

4. 教育へのコンピューター導入

臨床検査学科では、従来より、物理学実習の一部にコンピューター教育をいれてきたが、臨床検査技師養成所指定規則改定に伴うカリキュラム改定で、情報処理の科目を設け、1987年入学生より本格的なコンピューター教育の実施に踏み切った。

●視聴覚教育

医学教育にとって、教育の視聴覚化は重要な課題である。既成ソフトの開発は未だ不十分で

あるが、今後の発達が期待されるため、設備面の取り組みを行った。

すでに、オーバーヘッドプロジェクター・16ミリ映写機・プロジェクター・顕微鏡テレビなどは導入済みである。

▶1985年 ①ビデオカメラ購入 ②看護学科各教室にビデオシステムを設ける。 ③臨床検査学科実習室にビデオシステムを設ける。

▶1989年 ①本館改築に伴い、看護学科実習室・臨床検査学科実習室にビデオシステムを設ける ②新校舎には、全学科共用の視聴覚室を設けた。

今後は、ソフト面の充実と利用法の工夫をしてゆくことが必要である。

●冷暖房設備の更新

教室・実習室の暖房の中心であったガスクリンヒーターは、暖房能力が不十分のため補助暖房を要した。また、老朽化のため、故障が続発してきたため、新しい機種に更新した。

また、1989年の本館改築により、実習室は新校舎に全面的に移り、実習室はエアコンとなり、衛生面でも向上した。

●看護婦養成所指定規則の改定

1989年3月29日付で「保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則」の一部を改正する省令が公布され、1990年4月1日より施行されることになった。現在この指定規則に基づく新カリキュラムに合わせた授業形態や学外実習の方法等を検討準備中である。

●看護学科増定員についての検討

厚生省はすでに統計的には看護婦は充足しているとの判断をしていた。しかし、私的病院での看護婦不足は解消されておらず看護学科増定

員に取り組む必要があった。

1. 看護学科増定員の必要性

①私病協会員病院の病床数はこの20年で大幅に増加し、看護の量的な需要も増大した。

②基準看護への取り組み上、必要性がある。

③在宅医療ニーズが増大し訪問看護の必要性も出てきた。

2. 第一看護学科（2年課程・進学コース）の増定員を行った理由について

①1985年11月実施の上記アンケートにおいて進学を希望する准看護婦（士）の総数は1,022名にのぼった。

②増定員すべき課程を決定するため、1987年6月に行った私病協会員病院に対し行ったアンケート結果、2年課程の増定員の希望が70%を占めた。

③看護職員に占める看護婦（士）の比率を高める必要性がある。

私的病院の看護職員に占める准看護婦（士）の比率は国・公立および公的病院と比較して非常に高い（京都府下の国立：15.3%、公立：18.7%、私的病院：53.1%）。看護職員の質の向上をはかるうえで進学課程の増員は必要である。

3. 推薦制を導入した理由

①私病協会員病院には、資質は優れていても入試の競争試験では不利なベテランの准看護婦が多く存在し、進学を希望している。施設側にとってもこれらベテランの准看護婦が看護婦資格を取ることを期待している。

②第一看護学科（進学コース）学生の在学中の動向を調査の結果、衛生看護学科新卒入学生の留年率・退学率が、准看護婦学校卒業生や臨床経験のある衛生看護学科卒業生に比べ、異常に高いことがわかった。したがって有効な看護教育を行って行くにはこれらのことを配慮した「推薦入試」の導入は必要となってきた。

●最近の主なうごき

▶1987年

- 2月12日 臨床検査技師学校養成所指定規則改正に伴う臨床検査技師養成所の変更承認を厚生大臣より受ける。
- 3月31日 学則変更届（学費改定および条文表現の適正化）厚生大臣提出承認
- 5月27日 第13回私立病院協会通常総会で看護学科40名の増員、そのための学舎建築について承認される。
- 6月10日 京都保健衛生専門学校学舎建設委員会を設置。
- 9月18日 日本自転車振興会へ補助金申請の副申書を京都市長より受ける。
- 9月21日 日本自転車振興会へ補助金申請の副申書を京都府知事より受ける。
- 9月24日 補助金交付要望書を日本自転車振興会に提出

▶1988年

- 3月7日 旧校舎解体工事開始
- 3月12日 看護婦養成所の校舎各室用途変更（校舎改築に伴う仮校舎への移転）承認を厚生大臣より受ける。
- 4月6日 自転車振興会より補助金交付内定通知を受ける。
- 5月26日 清水建設と新校舎建築工事請負契約
- 6月1日 新校舎建築工事着工
- 9月10日 校舎変更届を府文教課に提出受理
- 12月22日 校舎改築に関し厚生省看護課の現地調査

▶1989年

- 2月2日 学則変更並びに校舎各室用途変更（第一看護学科入学定員増と仮校舎から新校舎への移転について）厚生大臣より承認を受ける。
- 3年3月 新校舎消防署検査
- 3月4日 新校舎建築検査（市住宅指導課）
- 3月12日 校舎改築に関し厚生省現地調査（臨

床検査学科)

- 3月25日 全国3年課程（定時制）看護学校協議会平成元年度運営委員会於・名古屋
- 3月28日 新校舎完成
- 3月29日 新校舎竣工式挙行。竣工披露
- 3月29日 看護婦養成所指定規則一部改正
- 3日31日 学則変更届（第一看護学科定員増）府文教課に提出、受理される。
- 4月1日 臨床検査学科、校舎各室用途変更厚生大臣より承認を受ける。
- 4月1日 新校舎披露（昭和63年度講師懇親会）
- 4月17日 校舎各室等の整備状況について府医療課看護係へ提出
- 6月17日 全国3年課程（定時制）看護学校協議会専門部会
- 6月27日 看護婦カリキュラム改正に係る会議於・京都府公館
- 7月1日 全国3年課程（定時制）看護学校協議会総会
- 9月13日 日本自転車振興会、調査で来校

●役員の変遷

▶1985～1986

- 学校長 / 相馬秀臣（相馬病院）
- 副校長 / 冨田仁（京都博愛会病院）
- 理事 / 伊藤誠一（伊藤病院） 大川原康夫（愛生会山科病院） 武田隆男（武田病院） 谷口政春（堀川病院） 奈良静鴻（洛陽病院）

▶1987～・

- 学校長 / 武田隆男（医仁会武田総合病院）
- 副校長 / 冨田仁（京都博愛会病院）
- 理事 / 伊藤誠一 大川原康夫 清水勉（シミズ病院） 谷口政春 奈良静鴻

●職員名簿（1989年9月未現在）

- 事務局長 / 河上嘉秀
- 事務局長 / 奥村隆（主任） 野田照子（主任）

岸本靖子（主任） 辻川富美子 磯田典子

安馬好美 石井順子

教務 / 第一看護学科＝佐々木由紀子（部長）

横山洋子（主任） 森沢静 川内きみの 古谷

恭子 岩下チエ子 谷川寛子 萩田千榮 芝田

香代子 榊美智代 新井見子 安田美佐江

第2看護学科＝塩見千恵子（主任） 角田富久

子 三反園芳子 藤睦美 吉松節子 外山絹子

山崎美代子 岡むつ美

臨床検査学科＝田尻睦（主任） 前川由起子

石田洋一 宮野亘 佐藤真喜子 生駒俊和

油小路隆季 小沢優

京都府病院協同組合

経営建て直しのための新体制が発足して、5年余りが経過した。

病院協同組合にとって、今日に至る5年間は、再建にかける試練と試行錯誤の日々であったし、また、そのための努力が少しずつではあるが着実に成果を挙げつつあることを実感できる年月でもあった。

経営的には、昭和58年度以来黒字決算となり順調に推移しているが、昭和60年度の配当金復活をもってほぼ再建を達成した。

そうしたなかで、昭和63年6月、創立20周年を迎えた。

記念事業として新築された京都市南区の組合事務所、また、創立記念式典、協同組合まつりに寄せられた組合員ほか多数のご支援は、今後の組合活動の大きな基盤となった。

この間、清水理事長から明石理事長へ、明石理事長から相馬理事長へと体制が移り変わり、また事務局も私病協との人事交流、増員で体制を強化し、一層の発展をめざして業務拡充に臨んでいる。

● 5年間の主なうごき

▶1985年

- 5月29日 第18回通常総会開催 於・ホテル京阪京都
- 6月22日 ベッドの共同購入に関する会議 第1回開催 於・府医師会館
- 7月3日 臨時総会開催 於・京都東急ホテル 都倉理事退任、新理事・町塚昭氏就任
- 10月27日 第2回病院協同組合まつり開催 於・白沙村荘 参加者2,000名



▶1986年

- 5月28日 第19回通常総会開催 於・京都国際ホテル 事業拡張のため理事の定数を増加
- 11月9日 第3回病院協同組合まつり開催 於・白沙村荘 参加者2,000名

▶1987年

- 5月27日 第20回通常総会開催 於・京都全日空ホテル
- 8月 京都病協カードの発足
- 9月18日 購買担当者研修会開催『用度業務の進めかたと改善策』 講師/塩山雅英 於・ホリデイ・イン京都 参加者60名
- 10月20日 組合事務所建設・地鎮祭

▶1988年

- 3月7日 事務所新築工事・落成、事務所移転
- 5月25日 第21回通常総会開催 於・京都全日空ホテル 清水理事長退任 新理事長に明石朗氏就任
- 9月25日 創立20周年記念式典 於・国立京都国際会館 参加者50名 創立20周年記念病院協同組合まつり開催 (写真・芸術展) 於・国立京都国際会館 参加者3,000名

▶1989年

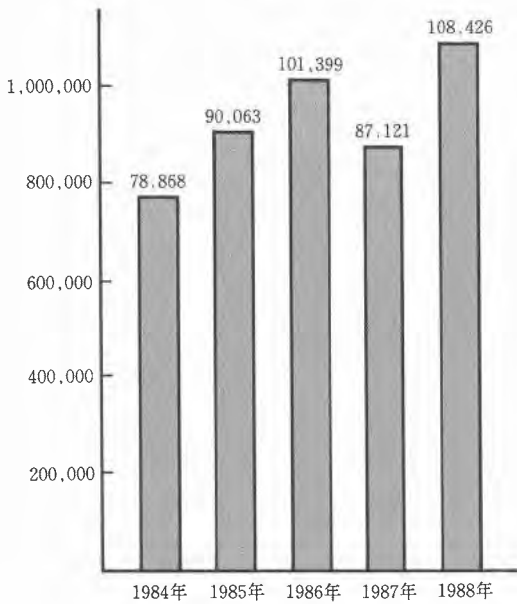
- 5月24日 第22回通常総会開催 於・京都全日空ホテル

明石理事長退任、新理事長に相馬秀臣氏就任

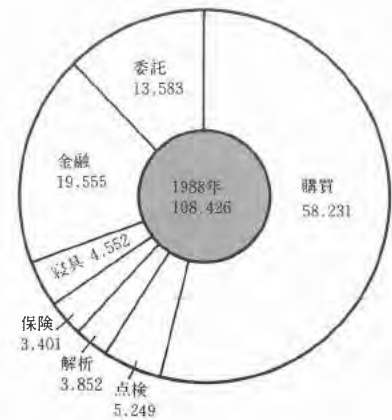
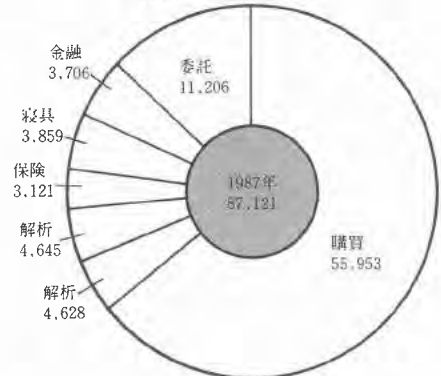
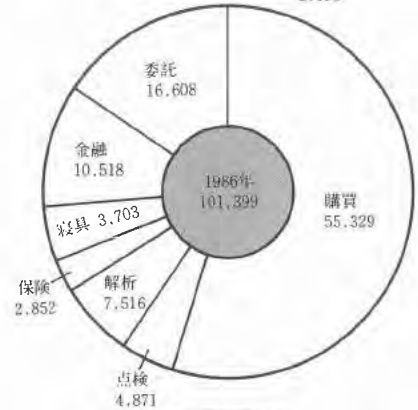
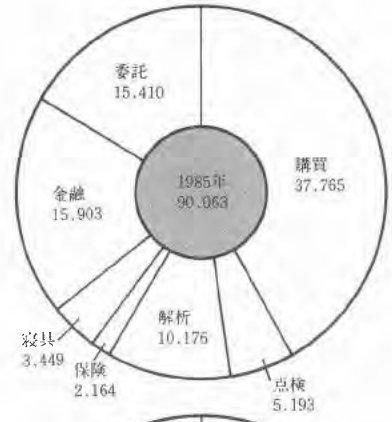
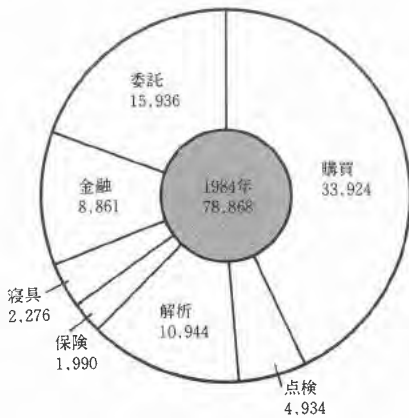
●組合員数および出資口数の推移

	組合員数	出資口数
1985年	123	1,474
1986年	126	1,491
1987年	127	1,496
1988年	130	1,511
1989年	134	1,531

●売上利益推移 (単位：千円)



●事業部門別売上利益の推移 (単位：千円)



● 役員の変遷

▶ 1984年5月～1986年4月

理事長 清水 幸太郎 (清水病院)
副理事長 梶 並 溢 弘 (西京都病院)
 〃 渡 辺 剛 夫 (渡 辺 病院)
理事 武田 隆 男 (武田病院)
 〃 城 守 茂 治 (北山病院)
 〃 高 城 正 (太 秦 病院)
 〃 蔭 山 弘 (比 叡 病院)
 〃 都 倉 一 郎 (都 倉 病院)

(1985年7月まで)

 〃 中 野 進 (京都四條病院)
 〃 増 田 耕 三 (西 陣 病院)
 〃 吉 川 順 介 (吉 川 病院)
 〃 町 塚 昭 (町 塚 病院)

(1985年7月から)

監 事 山 本 寿 (洛 陽 病院)
 〃 出 射 靖 生 (京 都 回 生 病院)

▶ 1986年5月～1988年4月

理事長 清水 幸太郎 (清水病院)
副理事長 渡 辺 剛 夫 (渡 辺 病院)
 〃 梶 並 溢 弘 (西京都病院)
専務理事 蔭 山 弘 (比 叡 病院)
常務理事 高 城 正 (太 秦 病院)
 〃 増 田 耕 三 (西 陣 病院)
理事 城 守 茂 治 (北山病院)
 〃 中 野 進 (京都四條病院)
 〃 町 塚 昭 (町 塚 病院)
 〃 吉 川 順 介 (吉 川 病院)
 〃 武 田 保 秀 (医仁会武田病院)

(1986年8月まで)

監 事 出 射 靖 生 (京 都 回 生 病院)
 〃 山 本 寿 (洛 陽 病院)

▶ 1988年5月～1989年4月

理事長 明 石 朗 (明 石 病院)
副理事長 渡 辺 剛 夫 (渡 辺 病院)
 〃 梶 並 溢 弘 (西京都病院)
専務理事 蔭 山 弘 (比 叡 病院)

常務理事 増 田 耕 三 (西 陣 病院)
 〃 米 沢 鉄 志 (高 雄 病院)
理 事 泉 谷 守 (泉 谷 病院)
 〃 内 田 実 (内 田 病院)
 〃 城 守 茂 治 (北 山 病院)
 〃 中 野 進 (京 都 四 条 病 院)
 〃 町 塚 昭 (町 塚 病院)
 〃 山 本 潔 (洛 陽 病院)
 〃 吉 川 順 介 (吉 川 病院)
監 事 出 射 靖 生 (京 都 回 生 病院)
 〃 相 馬 秀 臣 (相 馬 病院)

▶ 1989年5月～

理事長 相 馬 秀 臣 (相 馬 病院)
副理事長 渡 辺 剛 夫 (渡 辺 病院)
副理事長 梶 並 溢 弘 (西京都病院)
専務理事 蔭 山 弘 (比 叡 病院)
常務理事 増 田 耕 三 (西 陣 病院)
常務理事 米 沢 鉄 志 (高 雄 病院)
理 事 泉 谷 守 (泉 谷 病院)
理 事 内 田 実 (内 田 病院)
理 事 城 守 茂 治 (北 山 病院)
理 事 中 野 進 (京 都 四 条 病 院)
理 事 町 塚 昭 (町 塚 病院)
理 事 山 本 潔 (洛 陽 病院)
理 事 吉 川 順 介 (吉 川 病院)
監 事 出 射 靖 生 (京 都 回 生 病院)
監 事 岡 本 豊 洋 (第 一 岡 本 病 院)

● 職員名簿 (1989年9月末現在)

事務局長 / 平池 恵一

事務局員 / 須賀 修 司 杉浦 瑞江 今井 晃一
村上 衛 篠田 美津代 西村 清美 塚本 芳雄

京都府病院厚生年金基金

●病院年金加入の状況

1. 加入事業所数

加入病院の増減は次のとおりで、昭和63年度末では71事業所（施設数80）となった。

年度	区分	当期中増	当期中減	年度末現在
1984年度		— 件	— 件	67 件
1985年度		1	0	68
1986年度		2	1	69
1987年度		1	0	70
1988年度		1	0	71

2. 加入員数

加入員数は年々増加し、1988年度末では、7,952名となった。各年度の増減状況は下表のとおりである。年間平均1,467名の資格喪失者（退職者等）があつて、脱退率は高いが、1980年度～1983年度の脱退率と比べると低下傾向にあり、加入員の定着性が高まってきた。

1986年度に資格喪失者が多いのは、法律改正によって65歳以上の方が厚生年金に加入できなくなったことによるものである。また1988年度

は新設病院があり、関連病院と加入員の異動があつたので、資格喪失者および資格取得者のいずれもが多くなっている。

3. 加入員の平均年齢

加入員の平均年齢は、厚生年金基金の財政に大きな影響をもたらす要因のひとつであるが、当基金の平均年齢の推移は次のとおりで、年々若くなっている。このことが財政決算に好結果をもたらしている。

性別	年度	1985年度	1986年度	1987年度	1988年度
男子		40.1 歳	38.6 歳	38.3 歳	37.7 歳
女子		34.5	33.9	33.8	33.5

4. 加入員の平均標準給与月額

標準給与月額とは、給与月額を31等級（上限47万円）に区分し、掛金や給付金の計算の基礎としているものであるが、各年度の平均標準報酬月額は次のとおりである。1985年度は、10月に標準報酬月額の上限が41万円から47万円に引上げられたので、その影響が1985年度及び1986年度に表われている。

加入員数

区分	年度	当期中増		当期中減		年度末現在		
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	計
	1984年度	— 名	— 名	— 名	— 名	1,571 名	4,854 名	6,425 名
	1985年度	295	1,302	232	1,015	1,634	5,141	6,775
	1986年度	297	1,411	304	1,208	1,627	5,344	6,971
	1987年度	394	1,492	266	1,140	1,755	5,696	7,451
	1988年度	432	1,771	338	1,364	1,849	6,103	7,952

加入員の平均標準給与月額

年度	区分	男子		女子		平均	
		金額	対前年比	金額	対前年比	金額	対前年比
1985年度		299,622 ^[P]	105.6 %	199,619 ^[P]	103.3 %	223,765 ^[P]	104.0 %
1986年度		316,321	105.6	205,752	103.1	231,559	103.5
1987年度		321,610	101.7	210,689	102.4	236,338	102.1
1988年度		327,975	102.0	216,223	102.6	242,388	102.6

● 給付状況

1. 年金受給者数および年金額

当基金の年金給付は、加入員期間が10年以上の人が退職したときに本来の加算年金（第1種退職年金）が支給されるが、基金設立後9年しか経過していないので、まだ第1種退職年金の受給者は発生していない。現在までの年金受給者は、第2種退職年金の受給者であって基本年金のみが支給されている。したがって、加入員期間が短いこと、給付率が低いこともあって、現在の平均年金額は男子121,766円、女子87,528

円である。1990年11月以降の退職者から第1種退職年金の受給者が表われることになり、年金額も次第に高くなっていく。

各年度の受給者の増減及び年金額は下のとおりである。

2. 一時金給付の決定件数および金額

一時金給付は、加入員期間が3年以上10年未満の人が退職したときに支給される給付である。加入員期間が短いと、基金本来の目的である加算年金を受けられない人に、加算給付を一時金で清算する性格の給付と言える。各年度の支給決定件数および決定額は下のとおりである。

受給者数
および年金額

年度別	区分	当期中増(新規裁定等)		当期中減(失権)		年度末現在		
		人数	年金額	人数	年金額	人数	年金額	1件当り年金額
1984年度	男子	—	—	—	—	189	12,196,900 ^円	64,534 ^円
	女子	—	—	—	—	318	13,770,700	43,304
	計	—	—	—	—	507	25,967,600	51,218
1985年度	男子	33	3,820,800	7	643,500	215	15,374,200	71,508
	女子	71	6,972,100	7	503,300	382	20,239,500	52,983
	計	104	10,792,900	14	1,146,800	597	35,613,700	59,654
1986年度	男子	22	7,356,800	8	1,137,900	229	21,593,100	94,293
	女子	75	11,493,500	4	104,400	453	31,628,600	69,820
	計	97	18,850,300	12	1,242,300	682	53,221,700	78,038
1987年度	男子	37	6,201,900	6	567,800	260	27,227,200	104,720
	女子	58	8,717,700	6	504,900	505	39,841,400	78,894
	計	95	14,919,600	12	1,072,700	765	67,068,600	87,671
1988年度	男子	51	10,537,500	7	747,800	304	37,016,900	121,766
	女子	59	9,847,800	8	1,023,700	556	48,665,500	87,528
	計	110	20,385,300	15	1,771,500	860	85,682,400	99,631

一時給付の
決定件数
および金額

年度別	区分	脱退一時金		遺族一時金		計		
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	1件当り金額
1985年度	男子	91	16,620,300 ^円	5	1,219,800 ^円	96	17,840,100 ^円	185,834 ^円
	女子	371	32,933,900	2	487,400	373	33,421,300	89,601
	計	462	49,554,200	7	1,707,200	469	51,261,400	109,299
1986年度	男子	140	40,632,800	1	602,400	141	41,235,200	292,448
	女子	418	55,613,400	5	1,251,500	423	56,864,900	134,432
	計	558	96,246,200	6	1,853,900	564	98,100,100	173,936
1987年度	男子	108	28,708,700	3	962,200	111	29,670,900	267,305
	女子	375	46,846,000	2	483,800	377	47,329,800	125,543
	計	483	75,554,700	5	1,446,000	488	77,000,700	157,788
1988年度	男子	90	31,422,200	3	962,200	93	32,384,400	348,219
	女子	344	47,713,400	2	483,800	346	48,197,200	139,298
	計	434	79,135,600	5	1,446,000	439	80,581,600	183,557

●基金の財政状況

基金は、将来支払うことになる給付費をあらかじめ見込み、毎月納入する掛金が将来にわたり一定率で済むように掛金を積立てる事前積立方式で財政運営を行っている。したがって、基金発足後相当年数が経過し制度が成熟するまでは、掛金収入が給付支出を上回り年金資産（積立金）が増加して行くことになる。積立金が将来にわたり必要な費用を賄うに十分であるかどうか、言い替えば、財政が健全に運営されているかどうかは、年金資産と責任準備金（数理的に評価した額）を対比して検証することになる。保有資産が責任準備金を超えている場合は剰余金が、反対に不足する場合は不足金が生じる。

当基金の決算状況および年度末資産の内訳は次のとおりで、責任準備金との対比においても良好な決算結果となっている。

年金経理・決算
状況

項 目	1985年度	1986年度	1987年度	1988年度		
前年度繰越資産額(A)	3,449,207,335 ^円	4,464,781,907 ^円	5,490,044,689 ^円	6,663,901,630 ^円		
収 入	掛 金	902,476,444	966,123,968	1,059,354,048	1,163,851,472	
	受 換 金	18,849,973	27,925,098	28,440,812	41,570,959	
	国 庫 負 担 金	5,240,055	1,505,057	196,138	15,201	
	受 入 金	取 益 受 入 金	350,708,486	456,443,399	562,894,064	585,786,426
		業 務 会 計 からの受入金	30,973	38,502	10,417	16,770
	雑 収 入	69,016	5,334	783	12,825	
	合 計 (B)	1,277,374,947	1,452,041,358	1,650,896,262	1,791,253,653	
支 出	給 付 費	年 金	31,887,424	51,111,363	66,093,079	77,643,810
		一 時 金	52,615,000	97,153,200	76,968,600	78,890,800
	移 換 金	145,278,934	189,671,592	225,198,853	232,687,626	
	信 託 報 酬	固 有 報 酬	19,661,326	24,789,104	31,182,606	32,927,823
		業 務 委 託 報 酬	12,357,691	13,053,317	13,596,183	13,974,033
	繰 入 金	0	51,000,000	64,000,000	95,800,000	
	雑 支 出	0	0	0	0	
	合 計 (C)	261,800,375	426,778,576	477,039,321	531,924,092	
年度末資産(A+B-C)	4,464,781,907	5,490,044,689	6,663,901,630	7,923,231,191		
年度末資産のうち固定(信託)資産	4,304,770,951	5,323,428,948	6,479,672,232	7,724,763,279		

年金経理・年度
末資産の内訳

項 目	1985年度	1986年度	1987年度	1988年度
責 任 準 備 金	3,899,271,263 ^円	4,585,713,000 ^円	5,347,221,000 ^円	6,606,117,623 ^円
別 途 積 立 金	564,802,624	564,802,624	902,983,884	1,314,890,912
繰 越 不 足 金	0	0	0	0
当年度剰余(△不足)金	0	338,181,260	411,907,028	0
支 払 備 金	708,020	1,347,805	1,789,718	2,222,656
計(年金資産)	4,464,781,907	5,490,044,689	6,663,901,630	7,923,231,191

(注) 1985年度は、法改正による財政再計算を、また1988年度は5年ごとの財政再計算を行ない、当年度過不足を零として掛金率を検証した。

●業務経理・福祉施設会計

京都病院年金会館建設を目標に、1986年度から福祉施設会計を設けて会館建設資金の積立てを始めた。財源は、年金経理の収益の一部（利差益）

項目	1986年度	1987年度	1988年度	計
年金経理からの受入金	51,000,000 ^円	64,000,000 ^円	95,800,000 ^円	210,800,000 ^円
業務会計からの受入金	3,000,000	5,000,000	5,000,000	13,000,000
受取利息及び配当収入	1,297,111	3,711,289	7,232,330	12,240,730
計	55,297,111	72,711,289	108,032,330	236,040,730

と業務会計の剰余金の一部をあてているが、各年度の積立状況は上のとおりである。

●福祉事業への取り組み

事業主および加入員にたいして、事業資金および福祉資金（消費者ローン）の融資斡旋を行っているが、各年度の利用状況は右のとおりである。なお、住宅資金の融資も取扱っているが、1985年度以降の利用者はなかった。

区分 年度	事業資金・短期		事業資金・長期		福祉資金		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
1985年度	4	14,800 ^{万円}	0	0 ^{万円}	2	400 ^{万円}	6	15,200 ^{万円}
1986年度	6	19,200	1	6,700	0	0	7	25,900
1987年度	7	34,800	0	0	3	350	10	35,150
1988年度	9	38,300	0	0	1	200	10	38,500

●役員および代議員の変遷

▶第4期（1986年11月15日～1988年11月14日）

選 定			互 選		
役職名	氏名	所属事業所	役職名	氏名	所属事業所
理事長	中野 進	(医法)啓信会	理事	石田 愼一	(医法)医修会 新河端病院
常務理事	野間 康治	京都府病院年金基金	〃	清水 勉	(医法)社団 シミズ病院
理事	安藤 正昭	(医法)健康会 京都南病院	〃	奈良 静鴻	(医法)洛陽病院
〃	城守 茂治	(医法)三幸会	〃	早田 昭	(医法)楽生会 鈴木病院
〃	高城 正	(医法)和交会 太秦病院	〃	平松 鉄城	(医法)社団 西陣健康会 堀川病院
〃	中元 俊夫	(医法)社団 洛和会	〃	吉川 順介	(医法)社団 貴順会 吉川病院
〃	富士原正保	(医法)医誠会 富士原病院	〃	米沢 鉄志	(財法)高雄病院
監事	清水幸太郎	(医法)清水病院	監事	蔭山 弘	(医法)頌徳会
代議員	岡本 隆一	(医法)岡本病院	代議員	板坂 勉	(社福法)宇治病院
〃	梶並 溢弘	西京都病院	〃	鶴飼 五郎	(医法)社団 洛和会
〃	清水 三郎	(財法)川越病院	〃	大羽 喜雄	(医法)大羽病院
〃	相馬 秀臣	(医法)相馬病院	〃	小沢 利夫	(医法)竜王会 小沢病院
〃	武田 隆男	(医法)医仁会 武田病院	〃	玉田 弘美	(医法)社団 和松会
〃	都倉 一郎	都倉病院	〃	中橋 弥光	(社福法)京都社会事業財団 西陣病院
〃	原田 稔	原田病院	〃	薮見 泰子	(医法)医誠会 富士原病院

*学識経験監事 山脇 吉一

▶ 第 5 期 (1988年11月15日～1990年11月14日)

選 定			互 選		
役 職 名	氏 名	所 属 事 業 所	役 職 名	氏 名	所 属 事 業 所
理 事 長	清水幸太郎	(医法)清水病院	理 事	石田 愷一	河端病院
常務理事	野間 康治	京都府病院年金基金	◇	清水 勉	(医法)社団 シミズ病院
理 事	安藤 正昭	(医法)健康会 京都南病院	◇	竹村 俊一	(医法)社団西陣健康会堀川病院
◇	城守 茂治	(医法)三幸会	◇	奈良 静鴻	(医法)洛陽病院
◇	小林 昌樹	(医法)社団 洛和会	◇	早田 昭	(医法)寮生会 鈴木診療所
◇	高城 正	(医法)和交会 太秦病院	◇	吉川 順介	(医法)社団 貴順会 吉川病院
◇	富士原正保	(医法)医誠会 富士原病院	◇	米沢 鉄志	(財法)高雄病院
監 事	中野 進	(医法)啓信会	監 事	藤山 弘	(医法)頌徳会
代 議 員	大槻 秧司	(医法)亀岡病院	代 議 員	板坂 勉	(社福法)宇治病院
◇	梶並 滄弘	西京都病院	◇	鶴飼 五郎	(医法)社団 洛和会
◇	相馬 秀臣	(医法)相馬病院	◇	大羽 喜雄	(医法)大羽病院
◇	武田 隆男	(医法)医仁会 武田病院	◇	小沢 利夫	(医法)竜王会 小沢病院
◇	田川 熊男	(医法)岡本病院	◇	細見 和弘	(医法)社団 和松会
◇	都倉 一郎	都倉病院	◇	増田 耕三	(社福法)京都社会事業財団西陣病院
◇	原田 稔	原田病院	◇	森見 泰子	(医法)医誠会 富士原病院

* 学識経験監事 山脇 吉一

● 職員名簿 (1989年 9 月末現在)

常務理事 / 野間康治

事務長 / 中沢 浩

事務局員 / 西羽恒子

京都中央看護専門学校

深刻、かつ慢性的な看護婦不足の医療情勢を背景に、「私病協」の看護婦養成対策として、1981年3月、京都中央看護婦養成事業団を発足させ、京都府、京都市および日本自転車振興会の助成を受けて、1983年4月、全日制3年課程の看護婦養成所として京都中央看護専門学校が開校した。

1986年3月には、初陣の第1期生が巣立ち、本年3月現在、第4期生までの約200人の卒業生を京都私立病院協会の会員病院へ送り出すに至った。

1989年度より、協会の看護婦養成対策強化の方針を受けて、本校の学生定員（1学年50名）を2倍に増員するための取り組みを、現在進めており、平成4年度入学生からの実施を目標としている。

1989年7月、協会の理事会において、「看護婦養成推進委員会設置要綱」が策定されたのを受けて、8月には本校の母体である京都中央看護婦養成事業団の理事会で「定員増員事業推進要綱」を策定した。10月に入り、この件について京都府医療課および京都市衛生局に協議・要望をおこなっている。また、協会と事業団の推進委員会もスタートしたところである。

● 5年間の主なうごき（理事会記録より）

▶第20回（1985年5月17日）

①監事の変更 ②専任教員の異動 ③59年度決算報告 ④60年度予算の決定 ⑤61年度入試要項

▶第21回（1985年7月15日）

①私病協の役員改選に伴う役員の変更 ②諸規則の改正 ③第1期生の卒業と国家試験対策
『卒業試験及び国家試験対策の実施計画につい



て』を決定 ④61年度入試要項

▶第22回（1986年2月14日）

①第1期生の卒業認定と卒業式 ②61年度の入試の承認 ③専任教員の退職

▶第23回（1986年5月13日）

①京都市の人事異動に伴う役員の変更 ②60年度補正予算及び決算報告 ③61年度予算の決定 ④62年度入試要項

▶第24回（1986年7月22日）

①62年度入試要項 ②夏休期間の一部変更

▶第25回（1987年2月19日）

①第2期生の卒業認定 ②62年度の入試の承認 ③61年度補正予算 ④専任教員の異動及び事務職員の採用

▶第26回（1987年6月5日）

①61年度補正予算及び決算 ②62年度予算の決定 ③63年度の入試要項 ④任期満了に伴う役員改選

▶第27回（1987年11月6日）

①創立5周年について ②開校記念日の変更 ③学則の一部変更

▶第28回（1988年3月1日）

①63年度入試について ②第3期生卒業式について ③62年度補正予算について ④進級判定

●入学試験の状況

年 度	分 類	出願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者	定 員
1985年 (3期生)	推 薦	12	12	12	1.0	12	15
	一 般	52	50	26	1.9	23	35
	一 般	74	51	17	3.0	15	
	計	138	113	55	2.0	50	50
1986年 (4期生)	推 薦	18	18	17	1.1	17	20
	一 般	355	339	48	7.1	33	30
	計	373	357	65	5.5	50	50
1987年 (5期生)	推 薦	17	17	17	1.0	17	20
	一 般	298	280	55	5.1	33	30
	計	315	297	72	4.1	50	50
1988年 (6期生)	推 薦	19	19	18	1.1	18	20
	一 般	433	419	68	6.2	32	30
	計	452	438	86	5.1	50	50
1989年 (7期生)	推 薦	18	18	18	1.0	18	20
	一 般	250	228	53	4.3	34	30
	計	268	246	71	3.5	52	50

について ⑤開校5周年記念誌について

▶第29回(1988年5月27日)

- ①62年度事業報告、補正予算及び決算について
- ②63年度予算について ③64年度入学試験について
- ④事業団役員の変更について ⑤「5年間のあゆみ」について
- ⑥給与改定及び夏期手当について

▶第30回(1988年11月8日)

- ①事業報告 ②就業規則等規定整備 ③常務理事及び事務局長の専決規定の制定

▶第31回(1989年3月22日)

- ①事業報告 ②平成元年度入試事務について
- ③教員の人事異動について ④消費税問題について(授業料の増額改定)
- ⑤諸規定の整備について

▶第32回(1989年5月31日)

- ①事業報告 ②昭和63年度事業報告、補正予算及び決算について
- ③平成元年度予算について ④退職金支給規程の一部改正について
- ⑤平成2年度の入試要綱について ⑥役員改選について

て(理事2名増員) ⑦職員の給与改定及び夏季手当について

▶第33回(1989年8月2日)

- ①事業報告 ②新理事の紹介 ③カリキュラムの改正について
- ④学生定員の増員計画について ⑤職員の昇格について
- ⑥役員給与の改定について

●京都中央看護婦養成事業団

役員の変遷

▶1985年4月～1987年3月

- 理 事 長 / 岡本 隆一(岡 本 病 院)
- 副理事長 / 菅沼 惇(学 校 長)
- 〃 / 武田 隆男(武 田 病 院)
- 常務理事 / 盛田宗次郎(京都中央看護専門学校)
- 理 事 / 清水 勉(シ ミ ズ 病 院)
- 〃 / 花房 節哉(花 房 病 院)
- 〃 / 安藤 正昭(京 都 南 病 院)
- 〃 / 村上 昭(京 都 市 衛 生 局)

監 事 / 相馬 秀臣(相 馬 病 院)
 ♪ / 川端 良一(京 都 市 衛 生 局)

▶1987年4月～1989年3月

理 事 長 / 岡本 隆一(第 一 岡 本 病 院)
 副理事長 / 菅沼 惇(学 校 校 長)
 副理事長 / 清水 勉(シ ミ ズ 病 院)
 常務理事 / 盛田宗次郎(京都中央看護専門学校)
 理 事 / 花房 節哉(花 房 病 院)
 ♪ / 安藤 正昭(京 都 南 病 院)
 ♪ / 大澤 直(大 澤 病 院)
 ♪ / 古田 正己(京 都 市 衛 生 局)
 監 事 / 相馬 秀臣(相 馬 病 院)
 ♪ / 川端 良一(京 都 市 衛 生 局)

▶1989年4月～

理 事 長 / 岡本 隆一(岡 本 病 院)
 副理事長 / 清水 勉(シ ミ ズ 病 院)
 ♪ / 菅沼 惇(学 校 校 長)
 常務理事 / 盛田宗次郎(京都中央看護専門学校)
 理 事 / 花房 節哉(花 房 病 院)
 ♪ / 安藤 正昭(京 都 南 病 院)
 ♪ / 大澤 直(大 澤 病 院)
 ♪ / 山本 潔(洛 陽 病 院)
 ♪ / 板坂 勉(宇 治 病 院)
 ♪ / 古田 正己(京 都 市 衛 生 局)
 監 事 / 相馬 秀臣(相 馬 病 院)
 ♪ / 寺崎 晨泰(京 都 市 衛 生 局)

●職員名簿(1989年9月末現在)

事務局長 / 盛田宗次郎

事務局員 / 武村雄一(事務局次長) 石蔵節子
 笹原明美

教 務 / 藤腹明子(主任) 泉川孝子 伊藤
 洋子 井上ひさ子 江南百合子 斎藤洋子 高
 橋浩美 辻絹代 浜本純子 松永明美 米山浩
 子

〈資料〉

京都私立病院協会 役員の変遷と業務分担

1985～1986年度		1987～1988年度	
<p>——《役員》——</p> <p>会長 中野 進(京都四条)</p> <p>副会長 清水幸太郎(清水) 岡本 隆一(岡本)</p> <p>理事 相馬 秀臣(相馬) 富士原正保(富士原)</p> <p>明石 朗(明石)</p> <p>安藤 正昭(京都南) 伊藤 誠一(伊藤)</p> <p>大川原康夫(愛生会山科) 蔭山 弘(比叡)</p> <p>梶並 滄弘(西京都) 児玉 浩一(大和)</p> <p>清水 勉(シミズ) 高城 正(太秦)</p> <p>武田 隆男(武田) 冨田 仁(京都博愛会)</p> <p>中村 仁一(高雄) 奈良 静鴻(洛陽)</p> <p>花房 節哉(花房) 姫野 純也(上京)</p> <p>藤森 克彦(ユニチカ中央) 真鍋克次郎(八幡中央)</p> <p>箕和田卓郎(西山) 山下 幸造(京都桂)</p> <p>吉川 順介(吉川)</p> <p>清水 三郎(川越) 谷口 政春(堀川)</p> <p>——《業務分担》——</p> <p>中野 進 清水幸太郎 岡本 隆一</p> <p>相馬 秀臣 富士原正保 明石 朗</p> <p>清水 三郎</p> <p>部長/清水幸太郎 副部長/清水 勉</p> <p>庶務担当/清水 勉 山下 幸造</p> <p>経理・労務担当/山下 幸造 奈良 静鴻</p> <p>地区担当/富士原正保(北部)</p> <p>藤森 克彦(南部)</p> <p>姫野 純也 武田 隆男</p> <p>清水 勉</p> <p>児玉 浩一(市内)</p> <p>事務長会担当/奈良静鴻</p> <p>婦長部会担当/大川原康夫(1985年)</p> <p>相馬 秀臣(1986年)</p> <p>医療技術部門担当/姫野 純也</p> <p>広報担当/藤森 克彦 吉川 順介</p> <p>渉外担当/清水幸太郎(京都関係)</p> <p>富士原正保(近病連関係)</p> <p>岡本 隆一(日本病院会関係)</p> <p>部長/富士原正保 副部長/花房 節哉</p> <p>地域医療担当/花房 節哉 高城 正</p> <p>児玉 浩一 真鍋克次郎</p> <p>保険担当/児玉 浩一 高城 正</p> <p>中村 仁一</p> <p>医療制度担当/富士原正保 中村 仁一</p> <p>武田 隆男 安藤 正昭</p> <p>部長/相馬 秀臣 副部長/伊藤 誠一</p> <p>学会担当/冨田 仁 伊藤 誠一</p> <p>大川原康夫 箕和田卓郎</p> <p>教育訓練担当/伊藤 誠一 大川原康夫</p> <p>箕和田卓郎</p>		<p>経営・厚生部 部長/明石 朗 副部長/梶並 滄弘</p> <p>経営管理担当/明石 朗 蔭山 弘</p> <p>山下 幸造</p> <p>福利厚生担当/梶並 滄弘 蔭山 弘</p> <p>協同組合担当/梶並 滄弘 高城 正</p> <p>年金基金担当/富士原正保 奈良 静鴻</p> <p>保健衛生 部長/相馬 秀臣 副部長/冨田 仁</p> <p>専門学校 担当/伊藤 誠一 大川原康夫</p> <p>武田 隆男 谷口 政春</p> <p>奈良 静鴻</p> <p>中央看護婦養 部長/岡本 隆一 副部長/武田 隆男</p> <p>成事業団 担当/安藤 正昭 清水 勉</p> <p>相馬 秀臣 花房 節哉</p>	
<p>監事 清水 三郎(川越) 谷口 政春(堀川)</p> <p>政策部 中野 進 清水幸太郎 岡本 隆一</p> <p>相馬 秀臣 富士原正保 明石 朗</p> <p>清水 三郎</p> <p>総務部 部長/清水幸太郎 副部長/清水 勉</p> <p>庶務担当/清水 勉 山下 幸造</p> <p>経理・労務担当/山下 幸造 奈良 静鴻</p> <p>地区担当/富士原正保(北部)</p> <p>藤森 克彦(南部)</p> <p>姫野 純也 武田 隆男</p> <p>清水 勉</p> <p>児玉 浩一(市内)</p> <p>事務長会担当/奈良静鴻</p> <p>婦長部会担当/大川原康夫(1985年)</p> <p>相馬 秀臣(1986年)</p> <p>医療技術部門担当/姫野 純也</p> <p>広報担当/藤森 克彦 吉川 順介</p> <p>渉外担当/清水幸太郎(京都関係)</p> <p>富士原正保(近病連関係)</p> <p>岡本 隆一(日本病院会関係)</p> <p>部長/富士原正保 副部長/花房 節哉</p> <p>地域医療担当/花房 節哉 高城 正</p> <p>児玉 浩一 真鍋克次郎</p> <p>保険担当/児玉 浩一 高城 正</p> <p>中村 仁一</p> <p>医療制度担当/富士原正保 中村 仁一</p> <p>武田 隆男 安藤 正昭</p> <p>部長/相馬 秀臣 副部長/伊藤 誠一</p> <p>学会担当/冨田 仁 伊藤 誠一</p> <p>大川原康夫 箕和田卓郎</p> <p>教育訓練担当/伊藤 誠一 大川原康夫</p> <p>箕和田卓郎</p>		<p>——《役員》——</p> <p>会長 清水幸太郎(清水)</p> <p>副会長 相馬 秀臣(相馬) 岡本 隆一(第二岡本)</p> <p>明石 朗(明石) 堀澤 真澄(堀澤)</p> <p>理事 武田 隆男(医仁会武田総合)</p> <p>安藤 正昭(京都南) 伊藤 誠一(伊藤)</p> <p>大川原康夫(愛生会山科) 大澤 直(大澤)</p> <p>蔭山 弘(比叡) 梶並 滄弘(西京都)</p> <p>谷口 政春(堀川) 冨田 仁(京都博愛会)</p> <p>中村 仁一(高雄) 奈良 静鴻(洛陽)</p> <p>西村 幸隆(室町) 花房 節哉(花房)</p> <p>姫野 純也(上京) 藤村 和正(第二北山)</p> <p>藤森 克彦(ユニチカ中央) 増田 耕三(西陣)</p> <p>真鍋克次郎(八幡中央) 山下 幸造(京都桂)</p> <p>吉川 順介(吉川)</p> <p>監事 清水 三郎(川越) 清水 勉(シミズ)</p> <p>——《業務分担》——</p> <p>清水幸太郎 相馬 秀臣 岡本 隆一</p> <p>明石 朗 堀澤 真澄 武田 隆男</p> <p>部長/相馬 秀臣 副部長/冨田 仁</p> <p>庶務担当/伊藤 誠一 奈良 静鴻</p> <p>経理・労務担当/山下 幸造 奈良 静鴻</p> <p>会員相談担当/相馬 秀臣</p> <p>職種・職務別組織担当/</p> <p>院長・理事長会—相馬 秀臣</p> <p>事務長会—増田 耕三</p> <p>婦長部会—伊藤 誠一</p> <p>医師部会—冨田 仁</p> <p>薬事小委員会—姫野 純也</p> <p>薬局長会—大澤 直</p> <p>放射線技師部会—大澤 直</p> <p>栄養士部会—蔭山 弘</p> <p>臨床検査部会—姫野 純也</p> <p>地区別組織担当/京都市内—姫野純也</p>	

<p>医 制 部</p>	<p>吉川 順介 北部—堀澤 真澄 南部—藤森 克彦 広報担当/吉川 順介 安藤 正昭 無料職業紹介事業担当/明石 朗(1987年) 相馬 秀臣(1988年) 渉外担当/全般—相馬 秀臣 医師会—大川原康夫 精神病院協会—藤村 和正 日本病院会—岡本 隆一 近畿病院団体連合会—相馬秀臣 医療法人協会—相馬 秀臣 部長/堀澤 真澄 副部長/花房 節哉 地域医療担当/花房 節哉 谷口 政春 真鍋克次郎 増田 耕三 救急医療委員会—花房節哉 真鍋克次郎 清水 勉 増田 耕三 救急搬入事故対策委員会— 増田 耕三 真鍋克次郎 京都府交通事故医療連絡協 議会—花房 節哉 真鍋克次郎 保険担当/岡本 隆一 中村 仁一 西村 幸隆 真鍋克次郎 藤山 弘 医療制度担当/堀澤 真澄 中村 仁一 安藤 正昭 西村 幸隆 山下 幸造</p>	<p>京都保健衛生 専門学校 京都中央看護 婦養成事業団 京都保健衛生専門 学校学舎建設準備 委員会</p>	<p>給食委託実施病院連絡会—藤山 弘 福利厚生担当/梶並 溢弘 協同組合担当/藤山 弘 年金基金担当/奈良 静鴻 部長/武田 隆男 副部長/富田 仁 担 当/伊藤 誠一 大川原康夫 清水 勉 谷口 政春 奈良 静鴻 部長/岡本 隆一 副部長/清水 勉 担 当/安藤 正昭 相馬 秀臣 花房 節哉 大澤 直 委員長/武田 隆男 委員/安藤 正昭 伊藤 誠一 内田 実 大川原康夫 岡本 隆一 清水 勉 相馬 秀臣 谷口 政春 富田 仁 奈良 静鴻 増田 耕三</p>
1989年～			
<p>学 術 研 修 部</p>	<p>初級者教育訓練—教育研修 担当全員 看護卒後教育検討委員会— 武田 隆男 中堅幹部職員研修— 増田 耕三 看護教育問題検討委員会— 武田 隆男</p>	<p>会 長 副 会 長 理 事 監 事</p>	<p>清水幸太郎(清水) 相馬 秀臣(相馬) 岡本 隆一(第二岡本) 堀澤 真澄(堀澤) 武田 隆男(徳仁会副総会) 大川原康夫(愛生会山科) 安藤 正昭(京都南) 伊藤 誠一(伊藤) 出射 靖生(京都回生) 大澤 直(大澤) 藤山 弘(比叡) 梶並 溢弘(西京都) 谷口 政春(堀川) 富田 仁(京都博愛会) 中村 仁一(高雄) 奈良 静鴻(洛陽) 西村 幸隆(室町) 花房 節哉(花房) 藤村 和正(第二北山) 藤森 克彦(エフ中央) 増田 耕三(西陣) 真鍋克次郎(八幡中央) 山下 幸造(京都桂) 吉川 順介(吉川) 清水 三郎(川越) 清水 勉(シミズ)</p>
<p>経 営 厚 生 部</p>	<p>部長/武田 隆男 副部長/大川原康夫 学 会 担 当/武田 隆男 大川原康夫 藤森 克彦 藤村 和正 教育研修担当/武田 隆男 大川原康夫 藤森 克彦 藤村 和正 増田 耕三 初級者教育訓練—教育研修 担当全員 看護卒後教育検討委員会— 武田 隆男 中堅幹部職員研修— 増田 耕三 看護教育問題検討委員会— 武田 隆男</p>	<p>政 策 部 総 務 部</p>	<p>——《業務分担》—— 清水幸太郎 相馬 秀臣 岡本 隆一 堀澤 真澄 武田 隆男 大川原康夫 部長/相馬 秀臣 副部長/富田 仁 庶務担当/伊藤 誠一 山下 幸造 経理・労務担当/山下 幸造 奈良 静鴻 会員相談担当/相馬 秀臣 職種・職務別組織担当/ 理事長・院長会—相馬秀臣 事務長会—増田 耕三 婦長部会—谷口 政春 医師部会—富田 仁 薬事小委員会—姫野 純也 薬局長会—大澤 直 放射線技師部会—大澤 直</p>
<p>経 営 厚 生 部</p>	<p>部長/明石 朗 副部長/梶並 溢弘 経営管理担当/明石 朗 梶並 溢弘 藤山 弘 増田 耕三 医療情報システム研究— 梶並 溢弘 寝具委員会—梶並 溢弘</p>		

	<p>栄養士部会—藤山 弘 臨床検査部会—姫野 純也 地区別組織担当/京都市内—姫野 純也 吉川 順介 北部—堀澤 真澄 南部—藤森 克彦 広報担当/安藤 正昭 姫野 純也 伊藤 誠一 無料職業紹介事業担当/吉川 順介 奈良 静鴻 渉外担当/全般—相馬 秀臣 医師会—大川原康夫 精神病院協会—藤村 和正 日本病院会—相馬 秀臣 近畿病院団体連合会—大川原康夫 全日本病院協会—武田 隆男</p>		<p>担当者全員 看護卒後教育検討委員会— 武田 隆男 中堅幹部職員研修— 増田 耕三 看護教育問題検討委員会— 武田 隆男 部長/堀澤 真澄 副部長/梶並 滄弘 経営管理担当/堀澤 真澄 梶並 滄弘 藤山 弘 医療情報システム研究会— 梶並 滄弘 寝具委員会—梶並 滄弘 給食委託実施病院連絡会— 藤山 弘</p>
医 制 部	<p>部長/大川原康夫 副部長/花房 節哉 地域医療担当/花房 節哉 谷口 政春 真鍋克次郎 出射 靖生 奈良 静鴻 救急医療委員会—花房節哉 真鍋克次郎 出射 靖生 奈良 静鴻 救急搬入事故対策委員会— 奈良 静鴻 真鍋克次郎 交通事故医療連絡協議会— 花房 節哉 真鍋克次郎 精神科救急問題検討委員会 —大川原康夫 真鍋克次郎 出射 靖生 藤村 和正 谷口 政春</p>	経営厚生部	<p>福利厚生担当/藤山 弘 協同組合担当/藤山 弘 年金基金担当/奈良 静鴻 部長/武田 隆男 副部長/富田 仁 担当/伊藤 誠一 大川原康夫 清水 勉 谷口 政春 奈良 静鴻</p>
	<p>保険担当/中村 仁一 西村 幸隆 真鍋克次郎 増田 耕三 藤山 弘 医療制度担当/大川原康夫 中村 仁一 安藤 正昭 西村 幸隆 増田 耕三 病院医療制度検討委員会— 大川原康夫 中村 仁一 安藤 正昭 西村 幸隆 増田 耕三 山下 幸造 谷口 政春 出射 靖生 岡本 隆一</p>	京都保健衛生 専門学校	<p>部長/岡本 隆一 副部長/清水 勉 担当/安藤 正昭 相馬 秀臣 花房 節哉 大澤 直</p>
学 術 研 修 部	<p>部長/武田 隆男 副部長/藤森 克彦 学会担当/武田 隆男 藤森 克彦 藤村 和正 花房 節哉 教育研修担当/武田 隆男 藤森 克彦 藤村 和正 増田 耕三 初級者教育訓練—教育研修</p>	京都中央看護 婦養成事業団	

関係諸団体への推せん委員一覧

年度	委 員 会	被推せん者	病 院
1985	京都府医療機関整備審議会	中野 進	京都 四 条
	京都府保健医療問題協議会	清水 幸太郎	清 水 房
	京都府救急医療情報システム運営懇談会	花房 節 哉	花 房
	第43回国民体育大会京都府実行委員会	中野 進	
	〃 宿泊衛生専門委員会	吉川 順 介	吉 岡 川 本
	日本病院会常任理事会	岡本 隆 一	岡
	日本病院会代議員会	中野 進 進	
	日本病院会政治連盟常任幹事会	中野 進 進	
	日本病院会政治連盟幹事会	岡本 隆 一	
	日本病院会中間施設に関する検討委員会	岡本 隆 一	
	〃	中村 仁 一	高 雄
	近畿病院団体連合会常任委員会	中野 進 進	
	近畿病院団体連合会委員会	岡本 隆 一	
	〃	富士原 正 保	富 士 原
	〃	中村 仁 一	明 京 都
	京都府医師会救急委員会	明石 一 朗	明 京 都
	〃	小河 一 夫	石 南 又 田
	〃	清水 一 勉	シ ミ
	〃	武田 隆 男	武 小 柳
	〃	村田 隆 男	
	〃	吉川 順 介	
	〃	大金 嘉 正 河	大 西 鳥 京
	京都府医師会企画委員会	中村 仁 一	
	京都府医師会会費特別検討委員会	中村 仁 一	
京都府医師会学術委員会	富田 仁 一	京 都 博 愛 会	
京都府医師会社会保険対策委員会	清水 幸太郎		
京都府保険医協会病院融資調査委員会	明石 一 朗		
1986	京都府医療機関整備審議会 (～8月)	中野 進	
京都府医療審議会 (9月～)	中野 進		
京都府保健医療問題協議会	清水 幸太郎		
京都府救急医療情報システム運営懇談会	花房 節 哉		
京都市地域保健・医療協議会	相馬 秀 臣	相 堀 馬 川	
〃 (予備)	谷口 政 春		
第43回国民体育大会京都府実行委員会	中野 進		
〃 宿泊衛生専門委員会	吉川 順 介		
日本病院会常任理事会	岡本 隆 一		
日本病院会代議員会	中野 進 進		
〃	武田 隆 男		
日本病院会政治連盟常任幹事会	岡本 隆 一		
日本病院会政治連盟都道府県幹事会	中野 進 進		
〃	武田 隆 男		
近畿病院団体連合会常任委員会	中野 進 進		
近畿病院団体連合会委員会	岡本 隆 一		
〃	富士原 正 保		
〃	中村 仁 一		
財団法人京都市休日急病診療所理事会	花房 節 哉		
財団法人京都市休日急病診療所運営委員会	児 玉 浩 一	大 和	

年度	委 員 会	被推せん者	病 院	
1987	京都府交通事故医療連絡協議会	花 房 節 哉	八 幡 中 央	
	〃	真 鍋 克次郎		
	京都府医師会地域医療委員会	谷 口 政 春		
	〃	中 村 仁 一		
	京都府医師会救急委員会	明 石 朗		医 仁 会 武 田
	〃	金 在 河		
	〃	武 田 保 秀		
	〃	村 田 隆 介		
	〃	川 順 介 仁		
	京都府医師会学術委員会	富 田 幸太郎		
	京都府医師会社会保険対策委員会	清 水 幸太郎		
	京都府保険医協会病院融資調査委員会	明 石 朗		
	京都府医療審議会	清 水 幸太郎		
	京都府保健医療問題協議会	相 馬 秀 臣	堀 澤	
	京都府救急医療情報システム運営懇談会	花 房 節 哉		
	京都府医療計画意見交換会	堀 澤 真 澄		
	〃	中 村 仁 一		
	京都市地域保健・医療協議会	谷 口 政 春		
	〃 (予備)	中 村 仁 一		
	第43回国民体育大会京都府実行委員会	清 水 幸太郎		
	〃 宿泊衛生専門委員会	吉 川 順 介		
	日本病院会常任理事会	岡 本 隆 一		
	日本病院会代議員会	中 野 進 男		
	〃	武 田 隆 介		
	近畿病院団体連合会常任委員会	中 野 進 男		
	〃	清 水 幸太郎		
	近畿病院団体連合会委員会	岡 本 隆 一		
	〃	富士原 正 保		
	〃	中 村 仁 一		
	〃	相 馬 秀 臣		
	〃	明 石 朗		
	〃	堀 澤 真 澄		
〃	武 田 隆 男			
財団法人京都市休日急病診療所理事会	花 房 節 哉			
財団法人京都市休日急病診療所運営委員会	児 玉 浩 一			
〃	吉 川 順 介			
〃	花 房 節 哉			
同・苦情処理委員会	真 鍋 克次郎	中 久 村 野		
〃	村 上 忠 男			
京都府医師会救急委員会	梅 野 辰 郎	医 仁 会 武 田		
〃	明 石 朗			
〃	金 在 河			
〃	中 西 通 泰			
〃	小 柳 博 彦			
〃	小 柳 博 彦			
〃	吉 川 順 介			
京都府医師会地域医療委員会	谷 口 政 春			
〃	中 村 仁 一			
京都府医師会学術委員会	伊 藤 誠 一		伊 藤	

年度	委 員 会	被推せん者	病 院
1988	京都府医師会学術委員会	箕和田 卓 郎	西 京 山 都 都 南
	京都府医師会社会保険対策委員会	安 藤 正 昭	
	京都府医療審議会	清 水 幸太郎	
	京都府救急医療情報システム運営懇談会	花 房 節 哉	
	京都市地域保健・医療協議会	谷 口 政 春	
	〃 (予備)	中 村 仁 一	
	シルバーサービス懇談会	中 谷 口 政 春	
	第43回国民体育大会京都府実行委員会	清 水 幸太郎	
	〃 宿泊衛生専門委員会	吉 川 順 介	
	日本病院会常任理事会	岡 本 隆 一	
	日本病院会代議員会	武 田 隆 男	
	〃	中 野 進	
	近畿病院団体連合会常任委員会	清 水 幸太郎	
	近畿病院団体連合会委員会	岡 本 隆 一	
	〃	明 石 朗	
	〃	堀 澤 真 澄	
	〃	武 田 隆 男	
	〃	中 村 仁 一	
	〃 監事	相 馬 秀 臣	
	財団法人京都市休日急病診療所理事会	花 房 節 哉	
	財団法人京都市休日急病診療所運営委員会	吉 川 順 介	
	京都府交通医療連絡協議会	花 房 節 哉	
	〃	真 鍋 克次郎	
同・苦情処理委員会	村 上 忠 男		
〃	梅 野 辰 郎		
京都府医師会救急委員会	明 石 朗		
〃	金 在 河		
〃	出 射 靖 生	京 都 回 生 泉 谷 守 谷	
〃	泉 谷 守 介		
〃	吉 川 順 介		
京都府医師会社会保険対策委員会	安 藤 正 昭	愛 生 会 山 科	
京都府医師会学術・生涯教育委員会	富 田 仁 一		
〃	伊 藤 誠 一		
1989 京都府医療審議会	清 水 幸太郎		
京都府医療審議会医療法人部会	清 水 幸太郎		
京都府救急医療情報システム運営懇談会	花 房 節 哉		
日本病院会理事会	相 馬 秀 臣		
日本病院会代議員会	武 田 隆 男		
〃	中 野 進		
全日本病院協会理事会	武 田 隆 男		
近畿病院団体連合会常任委員会	清 水 幸太郎		
近畿病院団体連合会委員会	大川原 康 夫		
〃	相 馬 秀 臣		
〃	岡 本 隆 一		
〃	堀 澤 真 澄		
〃	武 田 隆 男		
〃	中 村 仁 一		
〃	安 藤 正 昭		

年度	委 員 会	被推せん者	病 院
	財団法人京都市休日急病診療所理事会	花 房 節 哉	明 石
	財団法人京都市休日急病診療所運営委員会	出 射 靖 生	
	京都府交通医療連絡協議会	花 房 節 哉	
	〃	真 鍋 克次郎	
	同・苦情処理委員会	明 石 純	
	〃	梅 野 辰 郎	
	京都府医師会救急委員会	明 石 朗	
	〃	金 在 河	
	〃	出 射 靖 生	
	〃	泉 谷 守 介	
	京都府医師会社会保険対策委員会	吉 川 順 介	
	京都府医師会学術・生涯教育委員会	安 藤 正 昭	
	〃	富 田 仁	
	京都府医師会会費特別検討委員会	伊 藤 誠 一	
		中 村 仁 一	

年表

年代	項目	協会のおゆみ	医療界と社会の主なできごと
1985 (昭60)	4・11	未承認人工骨使用問題について、京セラと懇談	3・1 診療報酬改定 +3.3% 薬価基準引き下げ -6.0%
	4・15	京都府福祉部保険課と三基準問題で懇談	4・24 中間施設に関する懇談会発足
	5・9	クレジットカード導入に関する説明会	
	5・27	京都市域2次病院群輪番体制について乙訓医師会と懇談	
	5・29	第11回通常総会	
	6・27	病院医療危機対策本部会を病院医療制度検討委員会に改組、第一回会合	6・26 近畿病院団体連合会に事務長会発足、第一回会合開催
	6・29	「老人医療改善反対京都府医師大会」に協賛	
	7・3	臨時総会、役員27名選出	
	7・10	京都府保険課と三基準問題で懇談	
	7・16	未承認人工骨使用問題について使用病院・京セラ・理事の三者で今後の対応を検討	
	8・21	京セラと懇談、今後の対応について確認	8・— 京都市域2次病院群輪番体制に乙訓地区が参加
	8・29	プロスタンディンの納入価格問題について小野薬品工業と懇談	8・2 中間施設に関する中間答申出る
	9・19	京都市の下水道排水調査に関し再度の要望書を提出	9・2 生命と倫理に関する懇談会が報告書
	9・24	京都府交通事故医療連絡協議会（仮称）設置に向けて第一回準備会に参画	
	9・27	小野薬品工業と懇談	
10・11	「中央・地方病院団体全国会議」に参加		
11・1	「情報サービス」発行開始	11・1 厚生省にシルバーサービス振興指導室を設置	
11・12	「国民医療を守る全国病院大会」に参加		
11・14	定款検討委員会設置、第一回会合	12・6 脳死に関する研究会が判定基準をまとめる	
11・18	4日間連続の医事勉強会、第1回を開催	12・27 医療法改正法公布	
1986 (昭61)	1・23	弁護士の照会権とプライバシーについて京都弁護士会と懇談	1・9 国立病院・療養所を10年計画で削減することが決定
	1・23	第一製薬、武田薬品工業と納入価格について懇談	1・10 老人保健法改正（老人保健施設の創設）
	1・31	プロスタンディン問題について公正取引委員会へ打診	1・30 医療計画策定方針の試案でる
	3・1	京都府および京都市交通事故相談所と懇談し、同所の指導に関し要望	2・3 国保の昭和59年度決算出る（赤字自治体過去最高）
	3・7	小野薬品工業との話し合い決裂、同月下旬より同社の一部商品の不買運動開始	2・6 老人保健審議会両論併記の答申出る
	3・7	交通事故処理について京都府警に要望書送付	3・28 宇治市議会国保財政赤字を理由に“病院増床に反対”決議
	3・8	理事長・院長会発足、第一回開催、佐分利輝彦氏が講演	
	3・26	在京阪神製薬メーカー、納入会社101社に対し、薬価改定にともなう新納入価格決定に関して要望	
	4・—	病院年金会館建設資金積立開始	4・1 診療報酬改定+2.3% 薬価基準引き下げ--5.0%
	4・—	中信病院職員ローン開始	4・3 病院給食の外部委託について、厚生省が適用範囲を拡大
	5・8	寝具委員会が綿久寝具工場を見学	4・26 チェルノブイリ原発事故発生
	5・20	小野薬品にたいする不買運動に関して公正取引委員会へ事情説明	
	5・28	第12回通常総会	
6・4	小野薬品プロスタンディン問題で勝利宣言、	6・— 長寿社会対策大綱	

項目 年代	協会のあゆみ	医療界と社会の主なできごと
1986 (昭61)	<p>不買運動を中止</p> <p>6・4 民間医療保険の診断書作成について損保協会と生命保険協会に対し通告</p> <p>6・4 手術点数の新設を厚生大臣、関連学会へ要望</p> <p>6・10 京都府交通事故医療連絡協議会の設置について京都府医師会および京都府病院協会と協定</p> <p>6・24 栄養士部会発足、設立準備委員会会合</p> <p>7・6 衆議院・参議院同日選挙で衆議員7名・参議員2名を推薦</p> <p>7・11 小野薬品不買運動について公正取引委員会より口頭警告</p> <p>7・12 第2回理事長・院長会で河北博文氏が講演</p> <p>7・23 京都市地域保健・医療協議会へ初めて委員を派遣</p> <p>8・8 京都府保険課と懇談、三基準の最近の指導について確認</p> <p>8・20 京都保健衛生専門学校校舎地の京都市との売買契約完了</p> <p>9・1 定款検討委員会が、定款の一部改正と選挙規定の制定、入金金および会費規定の制定を求める答申をおこなう</p> <p>9・1 民間医療保険について生保協会と懇談</p> <p>10・一 地域医療計画に関する会員アンケート実施</p> <p>10・17 民間医療保険について損保協会と懇談</p> <p>11・1 第3回理事長・院長会で紀伊国献三氏が講演</p> <p>11・17 改定医療法に基づく京都府医療審議会第一回開催、中野進を委員として派遣</p> <p>12・3 中央・地方病院団体長との打ち合せ会議へ出席</p> <p>12・19 医師部会が発足、運営委員会第一回会合</p> <p>12・23 給食業務の業者委託実施病院連絡会開催</p>	<p>7・23 医療経営の近代化・安定化に関する懇談会設置</p> <p>8・25 「地域医療計画策定指針」を国の医療審議会が諮問案通り答申</p> <p>11・5 伊豆大島・三原山噴火</p>
1987 (昭62)	<p>1・1 京都府交通事故医療連絡協議会発足</p> <p>1・22 保健衛生専門学校、土地建物登記完了</p> <p>1・28 医薬品の納入価格について三共と協和醸酵工業に対し要望</p> <p>1・29 臨時総会で、定款の一部変更などの議案を可決</p> <p>2・一 栄養士部会が「基準給食関係帳票マニュアル」作成</p> <p>2・9 売上税の実施に反対する決議</p> <p>2・20 『京都私立病院協会20年史』発刊</p> <p>2・25 臨床検査部会が発足、設立準備委員会開催</p> <p>3・一 患者満足度調査モデル案作成</p> <p>3・3 第一回会長・監事選挙告示</p> <p>3・7 京都府病院協同組合事務所が京都市南区に新築移転</p> <p>3・14 第4回理事長・院長会で塚本幸一氏が講演</p> <p>3・25 ボランティア協会との懇談</p> <p>3・19 三共、協和醸酵との懇談</p> <p>5・12 地域医療計画策定のための「京都府患者調査」</p>	<p>1・1 改定老人保健法施行</p> <p>1・14 国民医療総合対策本部設置</p> <p>2・1 救急病院を定める要件が一部変更（内科系病院も対象に）</p> <p>4・1 国鉄が分割・民営化され、JRスタート</p> <p>4・21 新行革審発足</p> <p>4・一 「売上税」廃案</p> <p>4・28 看護制度検討会が報告書提出</p>

年代 項目	協会のあゆみ	医療界と社会の主なできごと
1987 (昭62)	<p>について申し入れ</p> <p>5・19 交通事故処理に関し京都府警に申し入れ</p> <p>5・25 前保険薬価研究会委員長長武田公一氏を講師に薬価算定方式をめぐる問題について検討会</p> <p>5・27 第13回通常総会</p> <p>6・24 京都保健衛生専門学校学舎建設委員会発足、第一回会合</p> <p>7・18 中野会長退任記念講演会・祝賀会</p> <p>7・28 京都府交通事故医療連絡協議会に苦情処理委員会が設置、事故対より委員を派遣</p> <p>8・6 基準給食に関し京都府保険課と懇談</p> <p>8・20 京都市消防局司令センターの見学と懇談会（3回開催）</p> <p>9・1 医療費支払いに関する取り扱いカード会社3者の新規参入を許可</p> <p>9・12 学校学舎建設に対する助成に関して、府知事と京都市長に要望</p> <p>10・9 伊吹文明衆議院議員と今日の厚生行政について懇談</p> <p>10・12 京都府医療計画検討委員会第一回会合、理事2名を派遣</p> <p>10・15 製薬メーカーとヒアリング実施</p> <p>10・15 基準給食委託業者と懇談</p> <p>10・24 第5回理事長・院長会で中医協の吉田清彦氏が講演</p> <p>10・26 医療機関におけるB型肝炎予防接種について、府知事と京都市長に対し助成を要望</p> <p>10・29 医療情報システム研究会発足、第一回会合</p> <p>11・5 精神科救急に関して京都市消防局と懇談</p> <p>11・10 中外製薬と懇談</p> <p>11・30 「診療報酬改定要求・国民医療危機突破全国病院大会」に協賛</p>	<p>5・25 中医協薬価算定についての建議書出る</p> <p>6・26 国民医療総合対策本部が中間報告</p> <p>8・5 B型肝炎の防止について厚生省が通知</p> <p>8・13 病院診療報酬適正化推進会議が診療報酬改定要求</p> <p>9・21 当面の病院開設・増床について厚生省保険局が通達</p> <p>9・24 医業経営の近代化・安定化に関する懇談会が報告書</p> <p>9・26 精神衛生法が改正され精神保健法に改称</p> <p>11・2 老人保健施設基準示される</p> <p>11・6 竹下内閣成立</p> <p>11・17 医療関連ビジネス検討委員会が報告書</p>
1988 (昭63)	<p>1・16 新春懇親会で社会医療研究所長岡田玲一郎氏が国民医療総合対策本部の動向と老人保健施設問題について講演</p> <p>1・21 日本シェーリングと懇談</p> <p>1・22 改定労働基準法について説明会開催</p> <p>2・1 医療従事者無料職業紹介所の開設を労働大臣より認可</p> <p>3・1 京都府医療計画案に対する意見書提出</p> <p>3・4 京都市立病院増改築問題で京都市衛生局と懇談</p> <p>3・22 新点数説明会を日本病院会と共催</p> <p>5・13 日本自転車振興会補助金交付決定</p> <p>5・19 中外製薬、日本シェーリングと懇談</p> <p>5・25 第14回通常総会</p> <p>6・4 第6回理事長・院長会で厚生省の高原亮治氏が講演</p> <p>6・4 京都保健衛生専門学校学舎改築工事着工</p> <p>6・27 院内保育所の充実を求める請願書を府議会と</p>	<p>1・4 政策ビジョン研究会が提言</p> <p>1・4 老人保健施設に関する政令で</p> <p>4・1 診療報酬が改定+3.4% 薬価基準引下げ-10.2%</p> <p>4・8 京都府医療計画公示</p>

項目 年代	協会のあゆみ	医療界と社会の主なできごと
1988 (昭63)	<p>京都市議会に提出</p> <p>6・28 京都府保険課長と懇談</p> <p>6・30 精神科救急問題検討委員会発足、第一回会合</p> <p>8・10 京都市立病院増床問題と中部医療圏問題について、京都府医師会・京都府病院協会とで協議</p> <p>8・11 未承認放射性検査薬問題についてミドリ十字と懇談（3回）</p> <p>8・30 京都市立病院増改築計画について京都府医師会および京都市衛生局と懇談</p> <p>9・25 京都府病院協同組合創立20周年記念式典</p> <p>10・22 第7回理事長・院長会で日本大学大道久助教授が講演</p> <p>10・27 中外製薬と懇談</p> <p>11・2 京都市立病院増改築に関して医療側で懇談</p> <p>11・21 パソコン教室第一回開催</p> <p>11・30 中部医療圏増床問題で医療側三者で懇談</p> <p>12・7 中部医療圏に関する意見書を京都府へ提出</p> <p>12・12 スキューバダイビング講習会開始</p>	<p>7・5 近病連が看護婦増員と4週6休実施に関する要望を各方面に送付</p> <p>7・22 改正国保法高医療費市町村「安定化計画策作指針」告示</p> <p>11・10 南山城地区の病院が看護婦養成で京都府に陳情</p>
1989 (平1)	<p>1・9 看護婦養成問題で協会内で検討開始</p> <p>1・21 新春会員懇親会で慶応義塾大学田中滋助教授講演</p> <p>1・25 中部医療圏増床問題について、京都府医師会・京都府病院協会と最終的意見調整</p> <p>2・21 日本病院会との共催で「消費税対応実務者講習会」を開催</p> <p>3・29 京都保健衛生専門学校新学舎竣工式・披露</p> <p>5・一 審査委員選出に関し京都府医師会に要望</p> <p>5・24 第15回通常総会</p> <p>5・24 医療機器設置状況調査公表</p> <p>5・31 精神科救急に関して京都市消防局救急救助課と懇談</p> <p>6・一 参議院議員選挙候補者2名を推薦</p> <p>7・11 京都市立病院増床問題で、医療側三者懇談</p> <p>7・19 京都市長選候補者推薦をしないことを決定</p> <p>7・19 看護婦養成推進委員会を設置</p> <p>7・20 南部地区事務長会が発足</p> <p>7・24 次回診療報酬改定への要望書を近畿病院団体連合会に提出</p> <p>9・21 第8回理事長・院長会で伊東光晴中医協公益委員が講演</p> <p>9・26 週休2日制に関する事務長勉強会</p> <p>9・28 京都府保険医協会の「90年代医療改革反対討論集会」に協賛</p>	<p>1・13 税制改革大綱</p> <p>2・7 ミドリ十字放射性検査薬問題で京都府が処分を発表</p> <p>4・1 消費税実施、診療報酬調整+0.11% 薬価基準調整+2.70%</p> <p>4・19 厚生省健康政策局が医療法改正で検討項目を例示</p> <p>5・19 新看護婦需給見通し</p> <p>6・一 アマシャム薬品未承認薬問題おこる</p> <p>6・27 日本医師会が損保協会と自賠責算定基準で合意</p> <p>6・30 在宅医療環境整備に関する検討会が報告書</p> <p>5・12 「患者サービスガイドライン」示される</p> <p>8・27 田辺医師会会長が京都市長に当選</p>

京都私立病院協会・創立25周年記念小史 —5年間のあゆみ—

1989年11月25日発行

発行者 清水幸太郎

発行所 社団法人 京都私立病院協会

〒604 京都市中京区御前松原下ル 京都府医師会館4階

☎(075)313-2686 FAX(075)313-5911

編集者 私病報編集委員会

安藤正昭 姫野純也 伊藤誠一 永井佑二 横井一夫

市下澄子 細井恵美子

印刷所 株式会社 六甲出版

〒657 神戸市灘区岩屋北町3丁目3番18号

☎(078)871-1231

●協賛企業一覧

アイ・シー・アイファーマ株式会社
アピカルイン京都（京都松ヶ崎会館）
井筒薬品株式会社
上羽商事株式会社
エーザイ株式会社
株式会社エス・アール・エル
小野薬品工業株式会社
要建設株式会社
株式会社関西医学検査センター
株式会社共栄薬研
株式会社京西堂
株式会社協進
京都医療用酸素株式会社
京都栄養士専門学校
京都銀行
京都信用金庫
京都ゼロックス株式会社
京都中央信用金庫
京都微生物研究所
株式会社三笑堂
株式会社三星堂
サンド薬品株式会社
島津メディカル株式会社
シーメンスメディカル旭メディテック株式会社
神医協興産株式会社
スミスクライン藤沢株式会社
住友製薬株式会社
ゼリア新薬工業株式会社
株式会社セラマ
株式会社ダイゴ
大日本製薬株式会社
大鵬薬品工業株式会社
大和銀行
武田薬品工業株式会社
田辺製薬株式会社
中外製薬株式会社
株式会社ツムラ
帝国臓器製薬株式会社
東洋醸造株式会社
中川安株株式会社
日清医療食品株式会社
日本医学臨床検査研究所
ファイザー製薬株式会社
藤沢薬品工業株式会社
萬有製薬株式会社
ブリストル・マイヤーズ株式会社
株式会社増田組
増田医科器械店
株式会社ミドリ十字
合資会社ミノファーゲン製薬本舗
明治製菓株式会社
持田製薬株式会社
山尾薬品株式会社
吉富製薬株式会社

（五十音順）

Enjoy Healthy Life with Tenormin.



テノミンだからGood Compliance

1. 1日1回1錠投与で24時間安定した効果
2. 優れた降圧効果と抗狭心症効果
3. 幅広い患者層に高い有用性
4. 長期投与に基づく豊富な臨床データ

高血圧・狭心症・不整脈用剤

テノミン[®]
（アテノロール錠）
腎臓保適用

発売元
 アイ・シー・アイ・ファーマ株式会社
〒154-1 大塚市中央区今橋2丁目5番8号 (03)1222-1002

資料請求先
ICL



【効能・効果】

- 本態性高血圧症（軽症・中等症） ●狭心症 ●頻脈性不整脈（良性頻脈、期外収縮）

【用法・用量】

通常成人には1錠（アテノロールとして50mg）を1日1回経口投与する
 なお、年齢、症状により適宜増減できるが、標準量は1日1回2錠（100mg）までとする

【使用上の注意】

- 次の患者には投与しないこと。
 1.糖尿病性ケトアシドーシス、代謝性アシドーシスのある患者 2.高度の徐脈（著しい同位徐脈）、現実ブロック（Ⅱ、Ⅲ度）、洞房ブロックのある患者 3.心原性ショックのある患者 4.低血圧による右心不全のある患者 5.うっ血性心不全のある患者
- 次の患者には慎重に投与すること。
 1.腎管狭窄症、腎管狭窄れんのおそれのある患者（観察を十分に行い、慎重に投与すること） 2.うっ血性心不全のおそれのある患者（観察を十分に行い、シキリス剤を使用するなど慎重に投与すること） 3.特発性低血糖症、コントロール不十分な糖尿病、長期間断食状態の患者（低血糖の前駆症状である頻脈等の交感神経系反応をマスクしやすいので血糖値に注意すること） 4.重篤な肝機能障害のある患者、重篤な腎機能障害のある患者（クレアチニン・クリアランス値が35ml/分、糸球体ろ過率が35ml/分以下の場合には投与間隔をの

ばすなど、慎重に投与すること） 6.高齢者

●副作用

- 1.過敏症：ときに発疹、遠位、痒疹等があらわれることがあるので、あらわれた場合には投与を中止すること 2.眼：片過断脈の投与により、眼底血管減少等の症状があらわれたとの報告があるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること 3.循環器：ときに徐脈、心不全、心動止増大、低血圧が、また、まれに胸部浮腫、動悸、四肢冷感、狭心ブロック、洞房ブロックがあらわれることがある 4.精神神経系：ときに頭痛・頭重感、のまい・眩暈が、また、まれに不眠、脱力、うつ状態、耳鳴、耳痛があらわれることがある 5.消化器：まれに吐瀉、悪心・嘔吐、食欲不振、腹部不快感、下痢、軟便、便秘、腹痛等があらわれることがある 6.肝臓：ときに肝機能異常（GOT・GPTの上昇等）があらわれることがある 7.呼吸器：まれに呼吸困難、気管支痙攣、喘鳴があらわれることがある 8.腎臓：まれに腎機能異常（BUN上昇等）があらわれることがある 9.その他、ときに倦怠・脱力感、しびれ感、浮腫・末梢性浮腫、高脂血症（血清中性脂肪値上昇、血清コレステロール上昇等）が、また、まれに赤痢、頻尿、高血糖、高尿酸血症、血清クレアチニンホスホキナーゼ上昇があらわれることがある

※その他の使用上の注意等の詳細は製品添付文書をご参照ください。



京都洛北、北山通りに面し
 豊かな自然と洗練されたセンスの中で
 美しい思い出をおつくり下さい。



ご婚礼、ご宴会、ご会合、ご宿泊、レストラン、喫茶、バー

アピカルイン京都

（京都松ヶ崎会館）

〒606 京都市左京区松ヶ崎小竹藪町3-3 TEL.(075)702-5000 FAX.(075)722-2186

医薬品総合商社



井筒薬品株式会社

代表取締役社長 嶋路源藏

本社 京都市中京区二条通烏丸東入

(〒604) 電話 075 <211>5151

京都南支店 〒613 京都府久世郡久御山町佐山新開地 190 TEL0774(43)2080

福知山支店 〒620 福知山市字天田堺谷口 184-3 TEL0773(23)2321

舞鶴支店 〒624 舞鶴市公文名馬場下 23 TEL0773(75)0161

栗東支店 長浜支店 大津支店 大阪支店

高槻支店 奈良支店 京都薬粧営業所



ウエハ

医薬品・麻薬・血清・ワクチン卸

上羽商事株式会社

本社営業所 604 京都市中京区東堀川通丸太町下ル 電話(075)231-3161番(代)

南支店 611 宇治市旗島町三十五 電話(0774)23-6655番(代)

高槻出張所 589 高槻市城北町1丁目13-15 電話(0726)75-0281番

舞鶴支店 624 舞鶴市字倉谷1604 電話(0773)75-1720番(代)

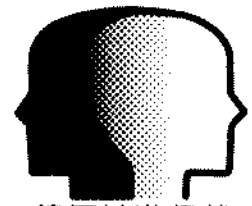
福知山出張所 620 福知山市間屋町1番2 電話(0773)22-7347番(代)

峰山出張所 627 京都府中郡峰山町字菅 電話(07726)2-0837番(代)

滋賀営業所 524 守山市今宿町261番地10 電話(0775)82-3301番(代)



新発売



薬価基準収載

脳機能・精神症状改善剤

④ **セレポート**® 錠50mg 顆粒5%

Celeport® (塩酸ピフェラン製剤)

*ご使用にあたっては、添付文書をご参照ください。



エーザイ株式会社
東京都文京区小石川5-5-5

*資料請求先は、弊社医薬部セレポート係まで。
H-G,8811

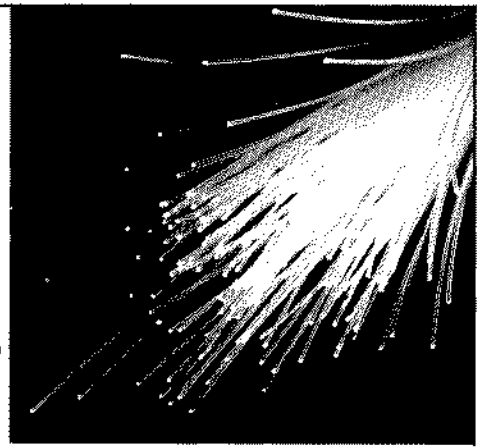
新時代を拓く

末梢循環改善に
初めての経口プロスタグランジン製剤

▶ オパルモン錠の4つの作用

1. 末梢血管拡張作用、血流増加作用
2. 血小板粘着・凝集抑制作用
3. 赤血球変形能改善作用
4. 活性酸素産生抑制作用

薬価基準収載



■効能・効果

閉塞性血拴血管炎に伴う潰瘍、疼痛、および冷感などの虚血性諸症状の改善

■使用上の注意 (1) 次の患者には投与しないこと 妊婦または妊娠している可能性のある婦人。(2) 副作用 1) 過敏症 ときに発疹等の過敏症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。2) 消化器 ときに下痢、悪心、嘔吐、腹部不快感、腹痛、腹部膨満感があらわれることがある。3) 皮膚 ときに痒痒感があらわれることがある。4) 肝臓 ときにGOT、GPTの上昇等の肝機能異常があらわれることがある。5) 循環器 ときに顔面潮紅、心悸亢進、四肢のチアノーゼがあらわれることがある。6) その他 ときに乳脈腫脹、頭痛、出血(大腸門)、めまい、身ぶるい、下腿多毛があらわれることがある。 ※上記以外の使用上の注意、及び用法・用量、取り扱い上の注意等は添付文書をご参照ください。

④(要指) 経口プロスタグランジンE₁誘導体製剤

オパルモン® 錠

OPALMON

リマプロストα-シクロオキシゲニン阻害化合物

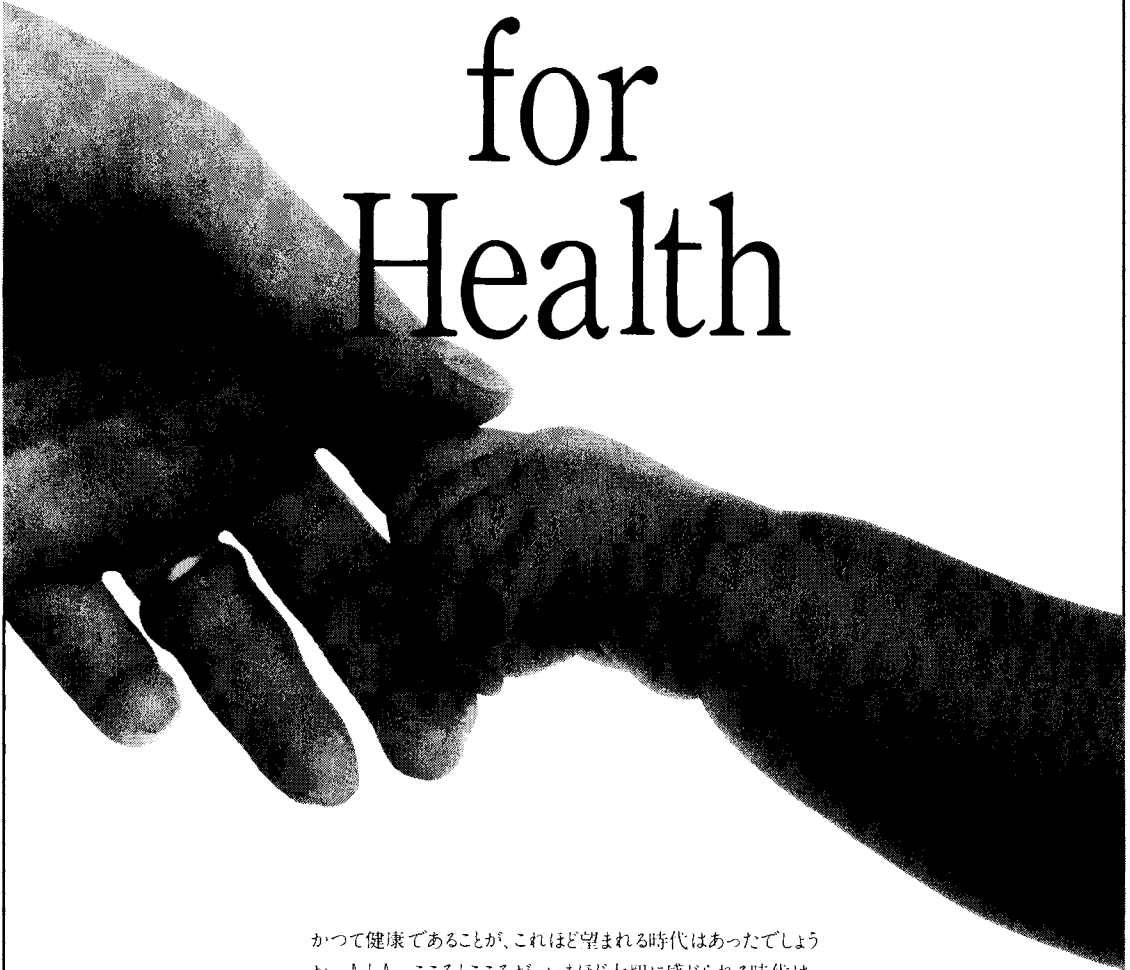
資料請求先



小野薬品工業株式会社

〒547 大阪市中央区道徳町2丁目1番5号

Communication for Health



かつて健康であることが、これほど望まれる時代はあったでしょうか。人と人、ころところが、いまほど大切に感じられる時代は、これからもあるでしょうか。やさしさ、あたたかさ、愛情。わたしたちはヒューマンなふれあいを、なにより大切にしたいと思います。人々の健康をねがい、熱意と、誠意と、愛情と、ヒューマンなころをもつて貢献したいと考えます。

臨床検査を基本に健康と医療に奉仕するSRLは、つねに先端をあゆむ技術開発と、信頼性の高い精度管理を追求し、その普及をもってみなさまに貢献しています。そして、さまざまな情報とサービスをつうじて、ヒューマンなコミュニケーションを実践しています。



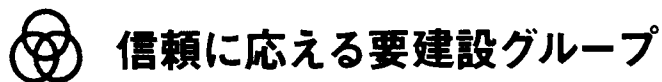
株式会社 エスアールエル

Communication for Health

本社：東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル22階

TEL：(03)344-6511(代) 〒163

洗練された
技術とセンスで築く
要建設株式会社



総合建設業務

要建設株式会社

企画設計業務

要建設一級建築士事務所

開発業務

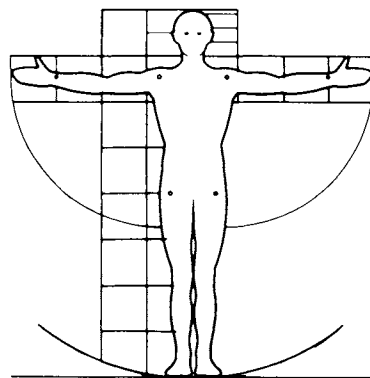
三要不動産株式会社

営繕業務

三要リフォーム株式会社

臨床諸検査

最新情報と最新技術で
良きエキスパートを
目指しております。



登録衛生検査所

関西医学検査センター

本社 〒606 京都市左京区聖護院東寺領町2-1 ☎(075)771-6006

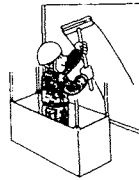
城南・四国・大阪・神戸・奈良・広島
岡山・福井・金沢・名古屋・鳥取・沖縄

清掃管理業務

- 日常清掃業務
- 定期清掃業務
- 臨時清掃業務
- ガラス清掃業務
- 貯水清掃業務

設備管理業務

- 電気設備の保守・点検・調整
- 冷暖房設備の保守・点検・調整
- 給排水設備の保守・点検・調整
- エレベーター保守・点検・調整



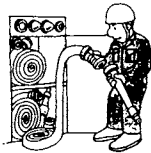
消防設備点検業務

- 総合点検
- 作動・外観・機能点検



マンションテナント 管理業務

- 入居者の斡旋
- 家賃・共益費の集金
- 光熱費の精算
- 共益費の精算
- 家賃未納者の処理
- 居住者の苦情処理
- 退室手続一切
(退室確認・諸費用精算・敷金立替)
- 営繕



その他

- ホテルベッドメイキング
- 室内環境測定業務
- 殺虫・殺鼠・害虫駆除
- 消毒・洗浄業務
- 工場メンテナンス
- 駐車場管理業務

ビル総合メンテナンス

共栄薬研

株式会社

共栄薬研

〒612 京都市伏見区桃山町和泉24-1
電話 (075) 621-5262 (代表)

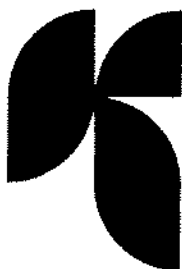
医薬品卸

株式会社

京西堂

代表取締役 米倉英彦

本社 〒615 京都市右京区西院東中水町 11 電話 (075)312-9151代
 舞鶴営業所 〒624 舞鶴市宇倉谷 1720 番地の 12 電話 (0773)75-5820代
 草津営業所 〒525 草津市南笠町字月法 524 番地の 9 電話 (0775)63-1355代
 田辺営業所 〒601-03 京都府綴喜郡田辺町大字草内小字大東45-1 電話 (07746)2-7100代
 彦根営業所 〒522 彦根市地蔵町字丁ヶ原 95 番地の 1 電話 (0749)24-4646代



人と健康をグローバルにつなぐ
医薬・医療総合商社

株式会社
協進

代表取締役社長 藤井邦夫

本 社 〒540-91 大阪市中央区本町橋1番20号
Tel.06-946-1231(大代表) Fax.06-941-5400

京滋支社 代表取締役副社長 榎垣秀一

〒604 京都市中京区西ノ京東中合町74番地
Tel.075-802-1313(代表) Fax.075-841-1456

支 店/田辺支店・滋賀支店 営 業 所/彦根営業所

医療用酸素、その他医療用ガス全般並びに各種酸素濃縮器
ほかガス関連機器一式、及び高圧ガス容器再検査の取扱
医療用ガス配管設備の設計・施工・保守点検施行

“信頼を真心込めてお届けする。”



京都医療用酸素株式会社

本社・工場 京都市伏見区横大路畔ノ内町50番地の8
電話 京都 (075) 602-7311(代表)

The Super Wellness College

学校法人 ^{ダイワ} 大和学園

京都栄養士専門学校

〒616 京都市右京区嵯峨天竜寺瀬戸川町18番地

TEL(075)872-8500

○ **栄養士科**(定員200名)

厚生大臣栄養士養成施設指定校

現場で120%の力を発揮できる

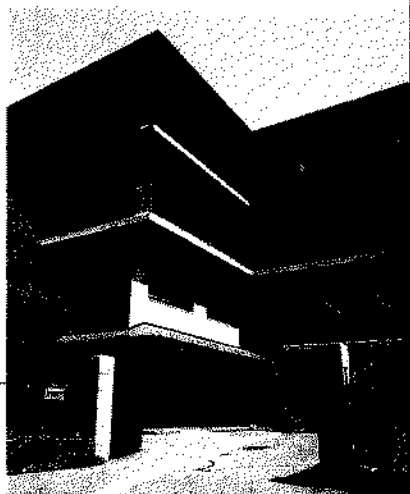
“価値ある新人”を養成します

○ **医療秘書科**(定員40名)

医療秘書士無試験制度認定校

業務を多角的にフォローする

“求められる逸材”を養成します



姉妹校

学校法人 大和学園

京都調理師専門学校

〒604 京都市中京区四条千本角

・調理師科

・製菓技術科

TEL(075)841-0191

健康こそ、 何よりの財産。

健康は、明るい家庭を築く土台となるもの。

そして豊かな暮らしづくりのお手伝いをするのが京銀の役目です。

皆さまが、地元の人々の健康を守るように、

京銀は、皆さまの暮らしを守るため

ご奉仕一途に努めてまいります。

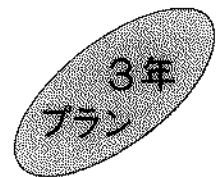
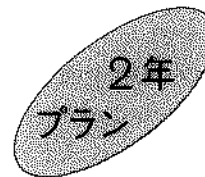
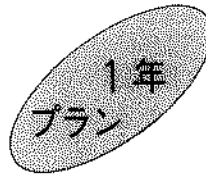
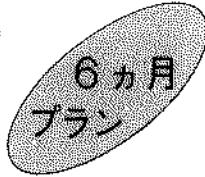
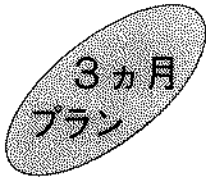


京都銀行

京信スーパーMMC

市場金利連動型定期預金

●お預け入れ期間



●お預け入れ金額/300万円以上1万円単位 ●自動継続も可能です ●総合口座としてもご利用いただけます



笑顔で
信頼の
輪を

京都信用金庫

●本店 京都西条柳馬場 TEL (075)211-2111

もっと自由に、もっと自分らしく、
富士ゼロックス・グループの新しい提案
ニュー・ワーク・ウェイ



ゼロックスグループは、これから僕々人が充実して生きることのできる環境と商品の創造を目指し、21世紀に向けた「個人と仕事の環境」のあり方を提案してゆきます。ゼロックスは、お客様に愛され続けるために、このスローガンをもとに21世紀に向け大きく変わろうとしています。

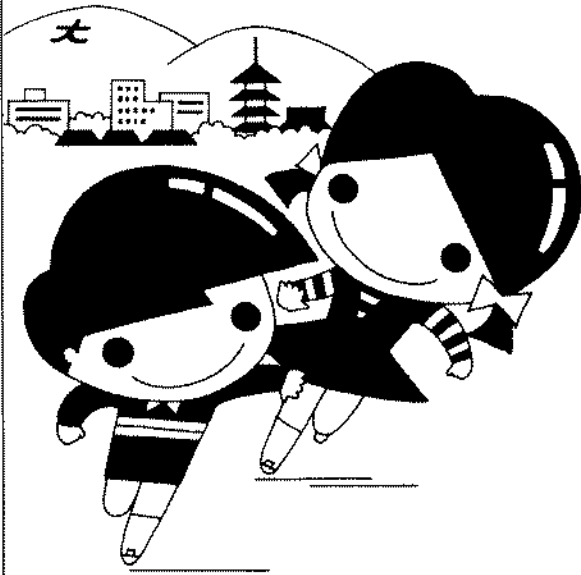
XEROX®

京都ゼロックス株式会社

京都市中京区御池通高倉西入

TEL 075-255-3091

FAX 075-255-5772



地域の発展を ねがって…

いつも笑顔のふれあいをたいせつに
だれもが楽しく暮らせる
豊かな街づくりをわたしたち中信も
おてつだいでいます。



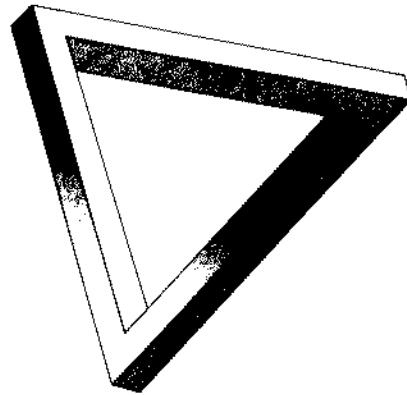
信頼に応える 確かなデータ

臨床検査

- 一般臨床検査
- 各種集団検査(老人検診等)
- 生体重金属分析

公害要因の分析と測定

- 飲料水分析
- 排水・汚水分析
- 作業環境測定
- 濃度、騒音レベル測定
- 受水槽、浄化槽法定検査
- 食品添加物等検査



社団法人京都微生物研究所

理事長 大和田 豊一

本 部 〒607 京都市山科区北花山大林町20-1 ☎京都 (075)593-1441(代)

福知山支所 〒620 福知山市字厚中町244 ☎福知山(0773)23-7311

舞鶴支所 〒625 舞鶴市磐手通八島南 ☎舞鶴(0773)62-3659

医科器械

病医院設備

レントゲン

医科用材料品

SUMIC

株式会社 三笑堂

本社 京都市南区上鳥羽大物町68番地
TEL. (075)681-5131
京都・東京・大阪・滋賀・舞鶴・亀岡

みなさまの健康と地域医療に貢献する

医薬・医療品総合商社



株式
会社

三星堂

取締役社長 山田隆史

本	社	神戸市中央区山本通2丁目14番1号	TEL (078) 231-4341 (代表)
大	阪	支社 大阪市中央区道修町1丁目6番5号	TEL (06) 203-3341 (代表)
支	店	神戸 阪神 明石 姫路 淡路 丹波 豊岡 西脇 相生 加古川 北神 伊丹	
		神戸東 西神 大阪 茨木 堺 東大阪 阪南 和泉 枚方 大阪北 大阪南	
		大阪西 箕面 泉南 宇治 京都南 京都 奈良 桜井	
薬	粧	営業所 神戸第一・第二 阪神第一・第二 明石 姫路 西脇 大阪第一・第二 茨木	
		枚方 堺 東大阪	
兵	庫	物流センター 神戸市西区玉津町丸塚字竹末129番地の2	TEL (078) 929-1234 (代表)
大	阪	物流センター 摂津市鳥飼本町1丁目7番1号	TEL (0726) 54-0521 (代表)
医	療	総合 尼崎市南塚口町5丁目16番17号	TEL (06) 428-2381 (代表)
展	示	センター (医療トータルサービスシステムの常設展示場 名神高速尼崎インター北すぐ)	
西	神	電算センター 神戸市須磨区弥栄台3丁目1-5	TEL (078) 794-3737 (代表)

気道過敏性の亢進を おさえる、ザジテン。



**新剤型追加
ザジテンライソップ
新発売**

効能・効果

気管支喘息、アレルギー性鼻炎、湿疹・皮膚炎、蕁麻疹、皮膚掻痒症
使用上の注意

1. 一般の注意

- (1) ねむけを催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。
- (2) 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイド減量をはかる場合は十分な管理下で徐々に行うこと。

2. 副作用

- (1) 過敏症 ときに発疹、まれに浮腫等の過敏症状があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。
- (2) 精神神経系 ときにねむけ、口息、倦怠感、まれに頭痛があらわれることがある。

■用法・用量、使用上の注意等の詳細については添付文書を参照ください。

アレルギー性疾患治療剤

健保適用

ザジテン®

Zaditen®

フマル酸ケチフェンカプセル・シロップ・ドライシロップ

ザジテンの特性

1. 気道過敏性を減少させる。
PAFによる気道過敏性の亢進を抑制し、かつ抗好酸球作用を示す。
2. 6ヶ月の乳児から老年者まで、あらゆるタイプの気管支喘息に優れた予防的治療効果を示す。
3. 喘息・鼻炎・皮膚炎など幅広いアレルギー性疾患に有用である。
4. 1日2回 - 在宅時のみの投与が可能である。
5. 世界101か国で発売され、有用性・安全性が確立されている。

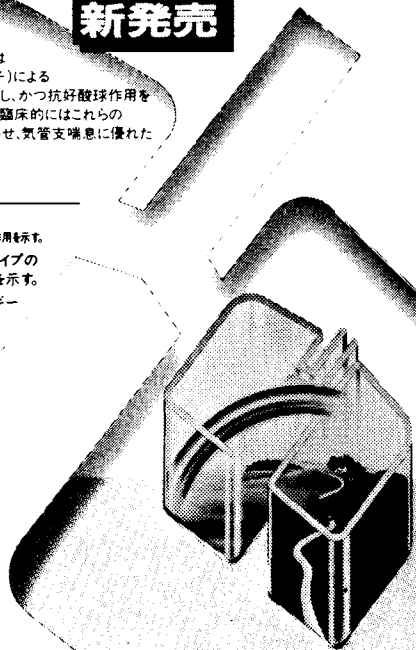
ザジテンは薬理的にはPAF(血小板活性化因子)による気道の反応性亢進を抑制し、かつ抗好酸球作用を示すことが認められています。臨床的にはこれらの作用により気道過敏性を減少させ、気管支喘息に優れた予防的治療効果を現わします。



製造元
サンド薬品株式会社
本社 東京都港区西麻布4-17-30



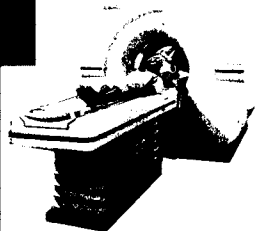
販売元
三共株式会社
本社 東京都中央区銀座2-7-12
文献請求は、東京都港区赤坂郵便局
私書箱40号サンド薬品販促資料課宛



信頼の情報 MRIイメージ



SHIMADZU



島津超電導MRIシステムは、発売以来その優れた画質はもとより、超電導シムコイルを用いた安定で高均一な静磁界特性、国産初のセルフ磁気シールドの採用、デュアルCPU・デュアルコンソールによるスループットの向上など数々の特長ある性能についても高い評価を得ています。また、血流イメージング、MRシネ、3次元表示などの新しいアプリケーション・ソフトウェアは、臨床価値の高い画像を提供いたします。

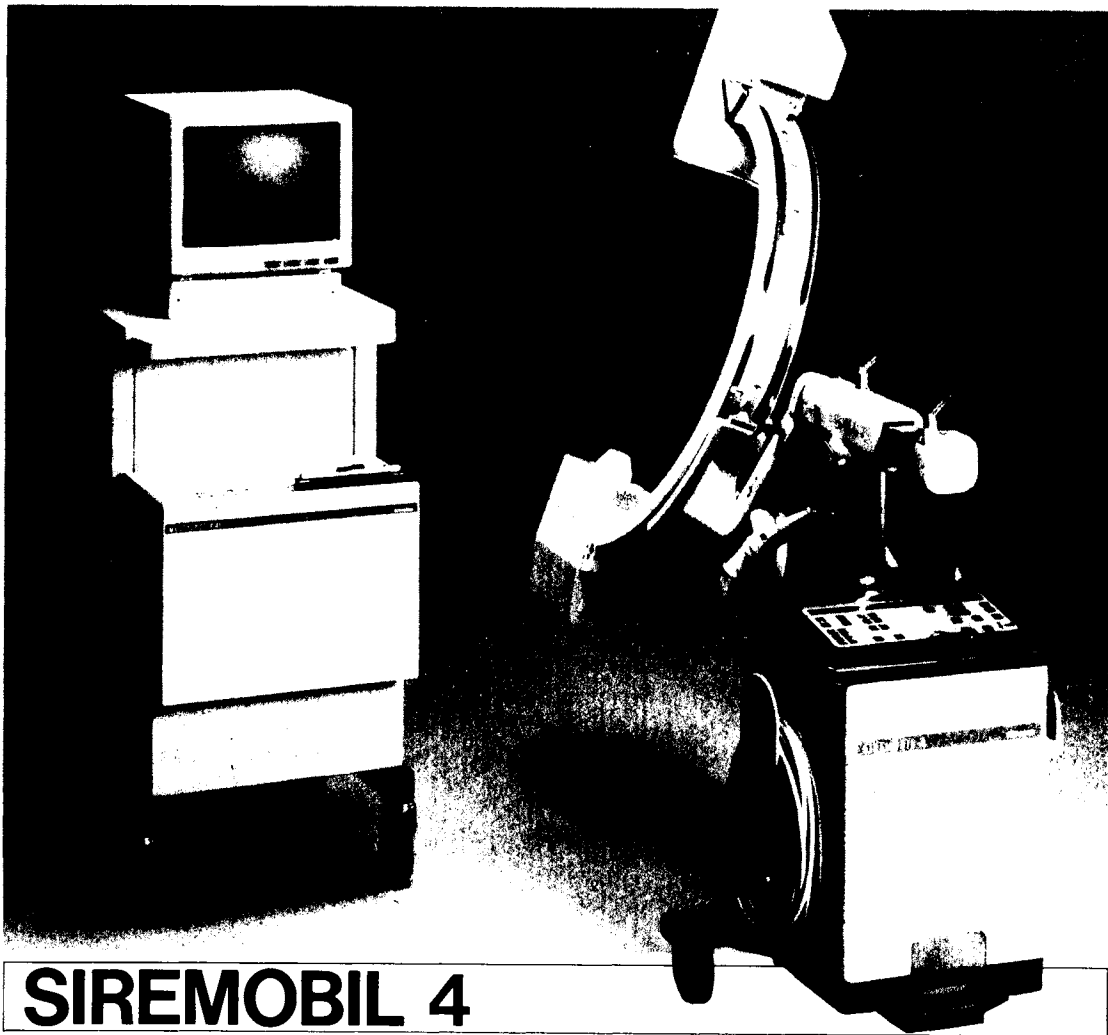
SMT-150

島津超電導MRIシステム

株式会社 **島津製作所**

島津メディカル株式会社

SIEMENS



SIREMOBIL 4

高性能Cアーム型X線テレビ装置

- 画質と操作性が一段と向上し、適応範囲が広がりました。
- プログレッシブスキャン方式と自動露出コントロールにより、手術に必要な情報をより多く、より短時間で得ることができます。
- 救急外科で望まれるあらゆるプロジェクションのセッティングにおいて、正確、迅速、かつ容易に透視ができ、カセット撮影も可能です。
- 整形外科の分野における信頼性の高い情報をより速くご提供できます。
- 実証済みのハイテクノロジーに基づく効率の高いX線発生装置を搭載しています。

シーメンス メディカル 旭メディテック株式会社

本社 〒141 東京都品川区西五反田2-11-20(五反田藤倉ビル) ☎(03)5487-4111

神医協興産株式会社

リネン課

営業内容

- 病院基準寝具のリース
- 病院基準病衣のリース

〒658 神戸市東灘区本庄町1丁目8番27号

TEL 078 (411) 0367

代表取締役 白石敏之



やはり、
タガメット。

消化性
潰瘍に
(急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期)
胃炎に

タガメットは、
消化性潰瘍には 1回200mg、1日4回投与。
または、1回400mg、1日2回投与。
胃炎には 1回200mg、1日2回投与
です。

H₂受容体拮抗剤 (シメチジン)
タガメット® 錠・注
Tagamet® 細粒
指 健保適用

SK-8 スミスクライン・藤沢株式会社

※ 効能・効果、用法・用量、使用上の注意等の詳細は、
製品添付文書をご参照ください。

製造 藤沢薬品工業株式会社
販売 藤沢薬品工業株式会社
スミスクライン・藤沢株式会社
〒250-0292 藤沢市大磯町1丁目1番1号

胃炎…

胃壁にやすらぎを…



胃炎・潰瘍治療剤

マーズレン[®]-S 顆粒

MARZULENE-S GRANULES

健保適用

効能・効果 下記疾患における自覚症状及び他覚所見の改善
胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍

●成分：1g中 水溶性アズレン………3mg
L-グルタミン………990mg

●用法・用量：通常成人1.5～2.0gを3～4回に分
割経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増
減する。

※詳しくは製品添付文書をご参照ください。

●使用上の注意

副作用：1) 消化器系 ときに悪心、嘔吐、
便秘、下痢、腹痛、膨満感、ま
れに嘔気、胃部不快感等があら
われることがある。
2) その他 ときに顔面紅潮があら
われることがある。

資料請求先

発売元



ゼリア新薬工業株式会社

東京都中央区日本橋小舟町10-11

製造元



寿製薬株式会社

長野県埴科郡坂城町6351

- 北 営 業 所 ● ☎ (075) 463・4444
- 南 営 業 所 ● ☎ (075) 661・1194
- 向 日 営 業 所 ● ☎ (075) 921・4444
- 宇 治 営 業 所 ● ☎ (0774) 32・4242
- 龜 岡 営 業 所 ● ☎ (07712) 2・0042
- 綾 部 営 業 所 ● ☎ (0773) 42・0044
- 舞 鶴 シティーホル ● ☎ (0773) 77・0042
- 大 津 営 業 所 ● ☎ (0775) 24・4444
- 栗 東 営 業 所 ● ☎ (0775) 53・5544
- 長 浜 営 業 所 ● ☎ (07496) 4・1104
- 高 槻 営 業 所 ● ☎ (0726) 76・5042

寝台自動車

永年の信用と実績により、24時間営業にて御奉仕する



玉泉院寝台自動車サービスへ

近畿運輸局第1種・近畿圏第2種754号

のご用は

京都府病院協同組合指定

社団法人京都府看護協会指定



株式
会社

セラマ 玉泉院

(旧互助センター)

◆ 住友製薬



高血圧・狭心症・不整脈治療剤

Ⓜ 薬指

アルマール[®]錠5/錠10

Almarl[®] / 塩酸アロチノロール

薬価基準収載

■ 効能・効果、用法・用量、使用上の注意等は添付文書をご覧ください

製造発売元 (資料請求先)

住友製薬株式会社

〒541 大阪市中央区道修町2丁目2番8号 Ⓜ登録商標

UP



株 式 会 社

ダイゴ

医 薬 品、医 療 器 械

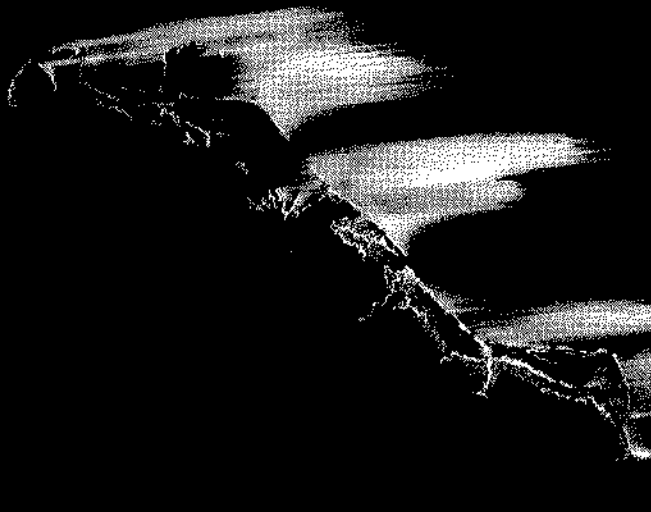
臨 床 検 査 試 薬、ワ ク チ ン 類

京都営業所 京都市南区西九条仏現寺町2番3

〒601 電話 661-3322

ニュー・ピリドンカルボン酸系 経口抗菌剤

グラム陽性菌・陰性菌による
呼吸器・泌尿器・皮膚・胆道・腸管感染症、
耳鼻科領域感染症に……



■効能・効果

ブドウ球菌属、化膿レンサ球菌、溶血レンサ球菌、腸球菌、
淋菌、大腸菌、シロバクテラ属、シゲラ属、クレブシエラ属、
エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、肺炎ビブリオ、
緑膿菌、シュードモナス・マルチフィリア、シュードモナス・セ
パシア、インフルエンザ菌、アシネトバクテラ属、カンピロバク
ター属のうち本剤感受性菌による下記感染症

●咽頭肺炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍) ●急性
気管支炎、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、びまん
性汎細気管支炎、肺炎、肺化膿症、慢性呼吸器疾患の二
次感染 ●腎盂腎炎、膀胱炎、淋菌性尿道炎、前立腺炎 ●
毛のう(包)炎(膿瘍性瘻管を含む)、疔、癰腫症、よう、伝染性
膿瘍疹(膿瘍性湿疹を含む)、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)
炎、癬瘻、皮下膿瘍、感染性粉瘤 ●外傷・熱傷・手術創など
の表在性二次感染 ●胆のう炎、胆管炎 ●細菌性赤痢、腸
(大腸)炎 ●外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎

■薬価基準収載

※用法・用量、使用上の注意等は添付文書をご参照ください。



広範囲抗菌性化学療法剤
フルマーク®

FLUMARK®

錠 100mg

錠 200mg

ENX

(エノキサシン錠)



大日本製薬

大阪市東区道徳町3-25
札幌・仙台・東京・甲府・名古屋・大阪・広島・福岡

F-1

効能・効果追加

頭頸部癌、膀胱癌、前立腺癌、子宮頸癌

腺癌からさらに扁平上皮癌、移行上皮癌へ



UFTは、新しい配合理論により
癌 Selective Toxicity を高めた抗癌剤です。

■効能・効果

頭頸部癌、胃癌、結腸・直腸癌、肝臓癌、
胆のう・胆管癌、膵臓癌、肺癌、乳癌、
膀胱癌、前立腺癌、子宮頸癌
の自覚的・他覚的症状の寛解

抗悪性腫瘍剤 剤形 錠剤

健保適用

UFT **UFT**
カプセル



大鵬薬品工業株式会社

〒101 東京都千代田区神田錦町1-27

Nice to meet you.

あなたのパーソナルスタッフ〈ダイワ〉…。

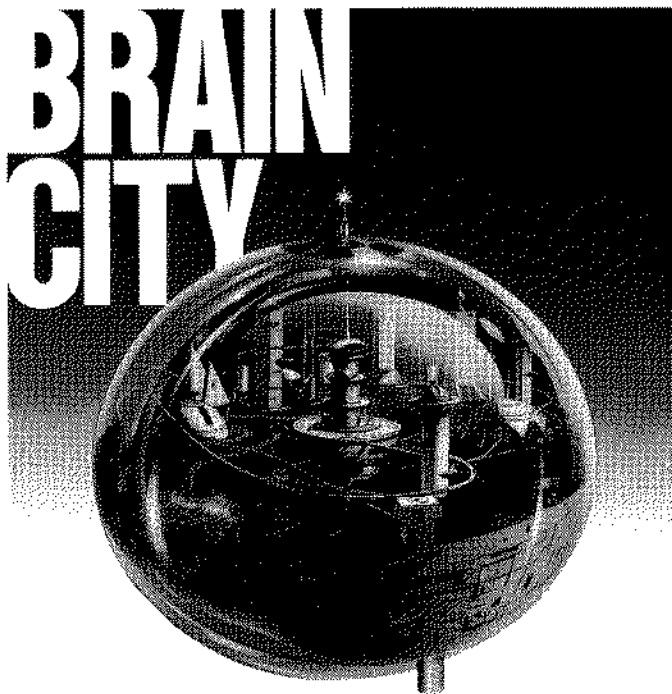
プランの実現をはかるとき、専門的なスタッフが いればどれだけ心強いことでしょう。ライフプランは暮らしの中でも大きなテーマですが、このテーマにトータルにお応えできるのが〈ダイワ〉です。

信託のメリットを生かして、財産の管理と運用、不動産の売買仲介や有効利用、年金や相続・贈与の設計、ローンのお世話から自動サービス、さらに国際業務サービスと、幅広くバックアップさせていただきます。お客さまとともに明日を創造する Daiwa Bank をぜひご活用ください。



Daiwa Bank

大和銀行



脳梗塞・脳出血後遺症、
脳動脈硬化症による
意欲低下、情緒障害の改善に

薬効能・効果

下記疾患に伴う意欲低下、情緒障害の改善
脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、脳動脈硬化症

薬用法・用量

ニセルコリンとして、通常成人1日量15mg(3錠)を3回に分けて経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

●使用上の注意については、製品添付文書をご覧ください。

脳循環・代謝改善剤 薬価基準収載
サミアオン錠
Sermion® (一般名: ニセルコリン)

資料請求先



田辺製薬株式会社

大阪市中央区湯修町5丁目1番10号

Start with Adecut 毎日が輝いてくる!!



ACE-I 降圧剤

Angiotensin Converting Enzyme Inhibitor

指
要指 **アデカット**® 7.5mg
15mg
30mg 錠
(塩酸テラプリル錠) 「タケダ」

効能・効果

本態性高血圧症、腎性高血圧症、
腎血管性高血圧症

用法・用量

成人には、塩酸テラプリルとして通常 1 日 30～60mg を朝夕の 2 回に分割経口投与する。ただし、1 日 15mg (分 2) から投与を開始し、最大投与量 1 日 120mg (分 2) とする。なお、安定した降圧効果が得られた場合には、1 日量またはその半量の朝 1 回のみでの投与とすることができる。

使用上の注意

1. 一般の注意

(1) 本剤の投与により、まれに急激な血圧低下を起こすおそれがあるので、特に次の患者に投与する場合は、少量より開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら徐々に行うこと。

ア) 重症の高血圧症患者。イ) 血液透析中の患者。ウ) 嚴重な減塩療法中の患者。(2) 降圧剤に基づくめまい、ふらつきがあらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。(3) 手術前 24 時間は投与しないことが望ましい。

2. 次の患者には投与しないこと

本剤に対し過敏症の既往歴のある患者。

3. 次の患者には慎重に投与すること

(1) 重篤な腎機能障害のある患者 (血清クレアチニン値が 3mg/dl 以上の場合には、投与量を減らすか又は投与間隔をのばすなど慎重に投与すること)。(2) 両側性腎動脈狭窄のある患者。

4. 次の副作用があらわれることがある

(1) 過敏症：ときに発疹、掻痒等の過敏症状。このような場合には投与を中止。(2) 精神神経系：ときにめまい・ふらつき、立ちくらみ、頭痛、頭重、不眠、眠気、腐こり等の症状。(3) 消化器：ときに悪心、嘔吐、食欲不振等の症状。(4) 循環器：ときにほてり、のぼせ感、動悸等の症状。(5) 血液：ときに白血球減少、赤血球減少、ヘモグロビン減少、ヘマトクリット値減少等。(6) 肝臓：ときに S-GOT、S-GPT、γ-GTP、LDH、AL-P、総ビリルビンの上昇。(7)

腎臓：ときに BUN、血清クレアチニンの上昇、蛋白尿。(8) その他：ときに咳、咽頭痛、倦怠感、脱力感、発汗及び血清カリウム、総コレステロール、尿酸の上昇。また、ときに尿糖、抗核抗体の陽性例。

5. 妊婦・授乳婦への投与

(1) 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。(2) 妊娠中に他のアンギオテンシン変換酵素阻害剤 (カプトプリル、マレイン酸エナラプリル) を投与された重症高血圧症の患者で、羊水過少症、また、その新生児に低血圧・腎不全等があらわれたとの報告がある。(3) 動物実験 (ラット) で母乳中への活性代謝物の移行が認められているので、授乳中の婦人には慎重に投与すること。

6. 小児への投与

小児に対する安全性は確立していない (使用経験がない)。

7. 相互作用

(1) カリウム保持性利尿剤 (スピロノラクトン、トリウムテレン等) を併用する場合、血清カリウムが上昇することがあるので注意すること (特に腎機能障害のある患者)。(2) 利尿降圧剤で治療を受けている患者に初めて投与する場合、降圧作用が増強するおそれがあるので、少量より投与するなど慎重に投与すること。

●ご使用に際しては添付文書をご参照ください。



ADECUT® • 薬価基準: 収載



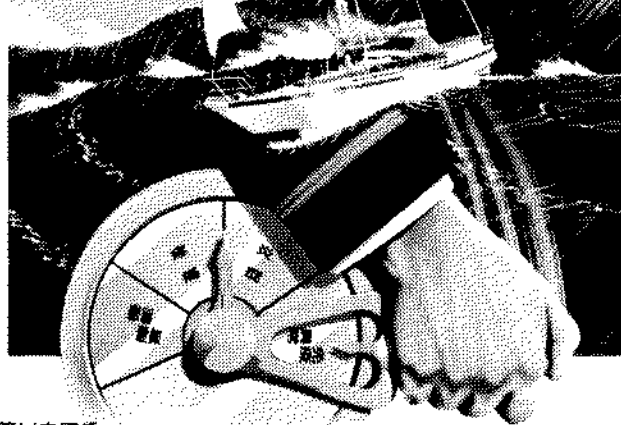
(資料請求先)

武田薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町 2-3-6

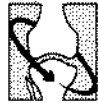
[1989年9月作成: ADE 851-3]

慢性関節リウマチ治療の新しい流れ

カルフェニールは、慢性関節リウマチの自然経過を変える新しい寛解導入剤です。



- 効能・効果 慢性関節リウマチ
- 用法・用量
通常の消炎鎮痛剤等とともにロベンザリット二ナトリウムとして成人1日量240mgを3回に分けて経口投与する。
なお、症状により適宜増減する。
- 包装
カルフェニール錠 40mg:500錠、1000錠
80mg:500錠、1000錠



慢性関節リウマチ治療剤

カルフェニール 40mg 錠 80mg
CARFENIL Tablets

薬価基準収載

使用上の注意等は添付文書をご覧ください。



中外製薬

〒104 東京都中央区京橋2-1-9
TEL.(03)281-6611

CCA-657



新世代のH₂ブロッカー

〈特性〉

- 世界初の化学構造を有する国産のH₂-受容体拮抗剤である。
- 初めての徐放製剤で、適度な血漿中濃度を維持し、持続的な強い胃酸分泌抑制作用を有する。
- 粘膜保護作用を有する。
- 胃・十二指腸潰瘍の疼痛をすみやかに消失させ、高い内視鏡的治癒率が得られる。
- アンチアンドロゲン作用を示さず、血清プロラクチン、血清ガストリン及び肝薬物代謝酵素にも影響を与えない。
- 副作用の発現は1623例中28例(1.7%)と少なく、主なものは発疹、便秘等である。
- 経口剤として初めて麻酔前投薬の適応が認められている。



H₂-受容体拮抗剤 **【薬保通用】**

アルタット[®]カプセル75
ALTAT[®] CAPSULES 75



効能・効果
胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、Zollinger-Ellison症候群、逆流性食道炎、麻酔前投薬
成分
1カプセル中、塩酸ロキサチジンアセテート75mgを含有する。
包装
100カプセル、500カプセル、1000カプセル
【使用上の注意】

1. 一般的な注意

治療に当っては経過を十分に観察し、病状に応じ治療上必要最少限の使用にとどめ、本剤で効果がみられない場合には他の療法に切りかえること。

なお、肝機能、血液像等に注意すること。

2. 次の患者には慎重に投与すること
 - (1) 薬物過敏症の既往歴のある患者
 - (2) 肝障害のある患者
 - (3) 腎不全のある患者
3. 妊娠、授乳能への投与
妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊娠又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上まると判断される場合にのみ投与すること。
動物実験で乳汁中への移行がみられるので、投薬中は授乳させないよう注意すること。
4. 小児への投与
小児に対する安全性は確立していない。

- 効能・用法・その他の使用上の注意等については、添付文書をよくご覧下さい。
- 資料請求先 〒107 東京都港区赤坂2-5-1
帝国薬製薬株式会社・学術部

帝国薬器
東京・赤坂



気管支喘息の基礎治療に

気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、時に動悸、めまい、嘔気などを伴う場合



96

サイボクトウ
ツムラ柴朴湯
エキス顆粒(医療用) 健保適用

■組成

本品7.5g中に下記の割合の混合生薬の乾燥エキス5.0gを含有する。
 日局 サイコ(柴胡)……………7.0g
 日局 ハンゲ(半夏)……………5.0g
 日局 ブクリョウ(茯苓)……………5.0g
 日局 オウゴン(黄芩)……………3.0g
 日局 コウボク(厚朴)……………3.0g
 日局 タイソウ(大棗)……………3.0g
 日局 ニンジン(人参)……………2.0g
 日局 カンゾウ(甘草)……………2.0g
 日局 ソヨウ(蘇葉)……………2.0g
 日局 ショウキョウ(生姜)……………1.0g

■効能・効果

気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、時に動悸、めまい、嘔気などを伴う次の諸症：
 小児ぜんそく、気管支ぜんそく、気管支炎、せき、不安神経症

■用法・用量

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。
 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

[1]喘息の各病型(アトピー型、感染型、混合型)の発作頻度の減少、強度の軽減が期待できます。¹⁾

[2]ステロイド依存性喘息においてはステロイド使用量の節減が期待できます。²⁾

[3]①ヒスタミンの遊離抑制・拮抗作用³⁾(in vitro)

②ロイコトリエンの遊離抑制作用³⁾(in vitro)

③PAF(血小板活性化因子)の産生・遊離抑制作用⁴⁾(in vitro)

④リンフォカインの遊離抑制・炎症抑制作用⁵⁾(モルモット)

などの抗アレルギー作用を有します。

(文献) 1) 江頭洋祐、他：呼吸、7、1、76～87(1988)

2) 江田昭英：日薬理誌 85、7～16(1985)

3) 葉山基朗、他：第37回日本アレルギー学会、1987

4) 江田昭英：Japanese Journal of Allergy 32、317～323(1983)

■使用上の注意

(1) 一般的注意

- 1) 本剤を服用後、症状の改善が認められない場合は、他の医療用漢方製剤を考慮すること。
- 2) 甘草を含有する漢方製剤を長期間投与する場合は、血清カリウム値や血圧の測定などを十分に行い、異常が認められたときは投与を中止すること。
- 3) 複数の漢方製剤を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
(特に甘草を含有する漢方製剤の併用には、より注意を必要とする。)

(2) 副作用

電解質代謝：長期連用により低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重の増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止すること。また、低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれるおそれがある。

* 取扱い上の注意等については添付文書をご覧ください。

▼ 気管支喘息に

19 ツムラ小青竜湯
エキス顆粒(医療用)

29 ツムラ麦門冬湯
エキス顆粒(医療用)

[27] ツムラ麻黄湯 [85] ツムラ神蘇湯
[55] ツムラ麻杏甘石湯 [95] ツムラ五虎湯



Elcitonin® Inj. 10 U.

骨粗鬆症における 疼痛の改善に!!



合成カルシトニン誘導体製剤

劇指

エルシトニン®注10単位

(一般名：エルカトニン)

■ 効能・効果

骨粗鬆症における疼痛

■ 用法・用量

エルカトニンとして、通常成人には1回量10エルカトニン単位を週2回筋肉内注射する。なお、症状により適宜増減する。

健保適用

■ 使用上の注意は、添付文書を御参照下さい。



東洋醸造株式会社

医薬品
総合商社

お得意さまの繁栄と
健康への願いをこめて……
優れた製品を提供する
医薬品総合商社!



中川安株式会社 関西圏支社

京都市南区吉祥院観音堂町8 ☎ (075) 681-1131 (大代表)

JMC

株式会社

ジエムシー

総代理店

ホスピタルミールはいかにあるべきか 日清医療食品は常に考えつづけています。

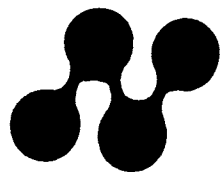
★300アイテムの医療食品が
病院給食に新しい風をもたらします。

昭和53年に、厚生省告示により、社会保険診療報酬の上で医療用食品加算制度がスタートしました。(入院患者1人につき16点)
現在アイテム数が300種にも及ぶ医療用食品は、主として入院患者の給食として用いられるために厳しい基準が設けられ、材料や調理などすべての面で“食”の最先端をいっていると私たちは自負しています。

★N・F・Tシステム導入により
クオリティの高い病院給食の受託を実現します。

*NFTシステムのメリット

- ・保温トレイ、適温食器、適温配膳車、などを活用し、適温給食を実現。
- ・一度に100食を10～15分で盛つけられます。
- ・50食から300食以上と病院のロケーションに合わせた導入が可能です。
- ・増設せずに、従来の盛りつけ台のスペースで設置できます。
- ・作業行程をシステム化具体化することによって、効率化と合理化をはかれます。



ホスピタル フードの明日を考える

日清医療食品株式会社

近畿支店

〒604 京都市中京区烏丸御池下ル虎屋町566-1
リクルート明治生命ビル7F ☎075-231-5100
FAX ☎075-231-0886



人々のために。 地域のために。 未来のために。



そして、かけがえない生命の明日に、臨床検査をとおして貢献いたします。

健康はすべての礎であり、予防・治療医学の核である臨床検査への責任は高まる一方です。日本臨床グループは、時代のニーズに先んじてお応えすべく、高精度な検査情報・付加情報のご提供はもとより、高度情報化社会を迎え、独自のネットワークサービス網のソフト開発を進めています。

21世紀へ、増大する人々の健康への願いと地域社会に伝えるべく、日本臨床グループは確固たる信念を持って歩みます。

株式会社 日本医学臨床検査研究所

本社/京都府久世郡久御山町大橋辺16-10 TEL.075-631-6181HIV

■ 本社ラボ ■ 堺ラボ ■ 北大阪ラボ ■ CS事業部 ■ バイオアッセイ事業部

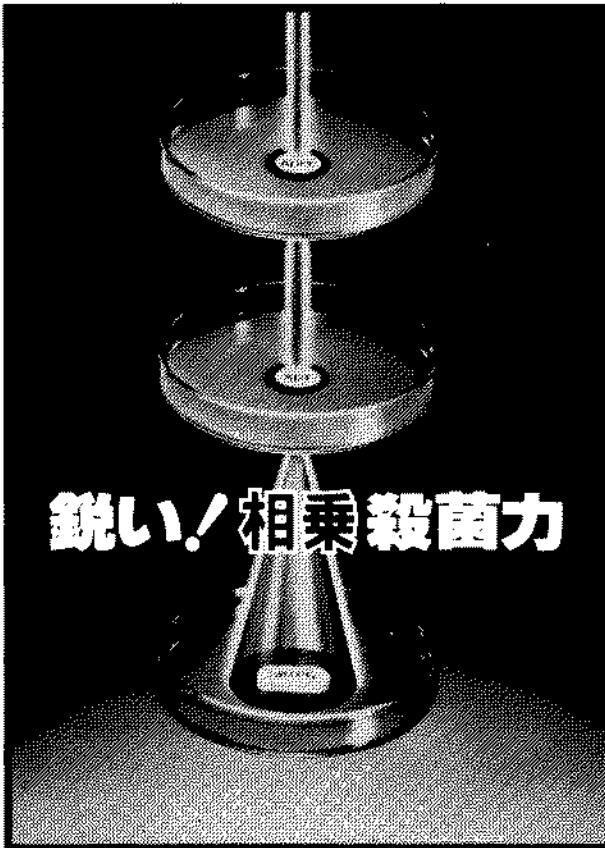
(グループ企業)

■ 日本医学臨床検査研究所 福井
■ 日本医学臨床検査研究所 中国

■ 血液研究所
■ 守口臨床化学研究所

■ JCR
■ 日研生物医学研究所

■ 日研メディカル



鋭い! 相乗殺菌力

世界初のミューチュアルプロドラッグ ユナシン錠 UNASYN Tab. (特許SBTPC) SBTPC トシル酸スルタミシリン錠

使用上の注意

1. 一般的注意
ショックなどの反応を予測するため、十分な問診をすること。
2. 次の患者には投与しないこと
(1) トシル酸スルタミシリンによるショックの既往歴のある患者
(2) 伝染性単核症のある患者
3. 次の患者には慎重に投与すること
(1) ペニシリン系又はセフェム系(セファロスポリン系及びセファマイシン系)薬剤に対し過敏症の既往歴のある患者
(2) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギー反応を起こしやすい体質を有する患者
(3) 高度の腎障害のある患者
(4) 経口摂取の不良な患者又は非経口栄養の患者、高齢者、全身状態の悪い患者(ビタミンK欠乏症があらわれることがあるので観察を十分に行うこと。)

効能・効果、用法・用量、その他の使用上の注意等は製品添付文書をご覧ください。

(薬価基準収載)



科学を世界の向上のために
ファイザー製薬株式会社
東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル 〒163
資料請求先: マーケティングサービス室

いし New
Oral
Cephem



国産初の経口セフェム
広い抗菌スペクトルと強い抗菌力
1日2回投与で服薬コンプライアンスも向上



経口用セフェム系製剤

セフスパン®

〔日抗薬：セフィキシム〕 〔特〕 〔要指〕 〔健保適用〕

Cefspan® (略号：CFIX)

カプセル 100mg/50mg

細粒 50mg

〈効能・効果〉

レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌のうち、セフィキシム感性菌による下記感染症。

- 気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎
- 腎盂腎炎、膀胱炎、淋菌性尿道炎
- 胆のう炎、胆管炎
- 猩紅熱
- 中耳炎、副鼻腔炎

〈資料請求先〉藤沢薬品工業株式会社(医薬事業本部)



大阪市東区道徳町4丁目3番541

Y.Y.851



〈薬価基準収載〉



時代は今、大きく変わる...

世界初のカルバペネム系抗生物質製剤

チエナム® 点滴用

TIENAM® 日抗薬 注射用イミペネム(略号：IPM/CS)

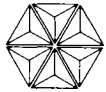
※【効能・効果】、【用法・用量】、【使用上の注意】等の詳細については製品添付の説明書などをご覧ください。



萬有製薬株式会社

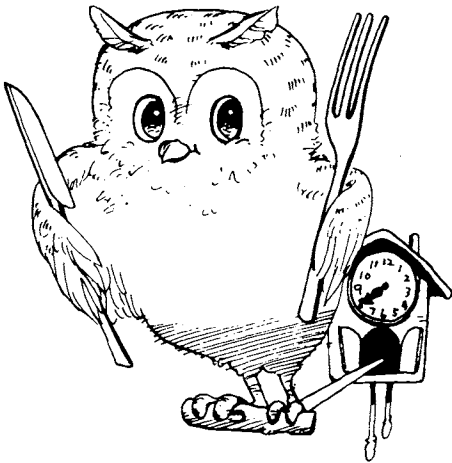
東京都中央区日本橋本町2-2-3 03(270)7551代表

12-88TEN87-J-8710J



健保適用

持続性の優れた… **SUMACEF**[®]



〈特長〉

1. 体内で高濃度、長時間持続する。
2. 食事の影響が少ない。
3. 組織移行性、特に皮膚への移行が優れる。

合成セフェム系製剤

要指

サマセフ[®] カプセル

日抗基：セフトロキシルカプセル

適応症、用法・用量、使用上の注意等
につきましては添付説明書をご覧ください。



プリストル・マイヤーズ株式会社
東京都港区赤坂7-1-15 電話03(403)3211H0

総 合 建 設 業



株式
会社

増 田 組

代表取締役会長 大藪政次郎
代表取締役社長 大藪久雄

本 社 〒612 京都市伏見区京町北七丁目 TEL(075)601-7321(代)

大阪支店 〒571 門真市小路町10-1 TEL(06)908-2574(代)



本 社 京都市中京区東洞院通二条上ル壺屋町520番地
 TEL (075) 221-3131 (代)
 福井営業所 福井県敦賀市舞崎2丁目19-19
 TEL (07702) 5-7690

喜 医療機器の総合商社

株式会社 増田 医科器械店

営業種目

外科および手術室用機器
 整形外科および理学療法機器
 産科婦人科機器
 耳鼻咽喉科機器
 眼科および皮膚・泌尿器科機器
 放射線機器
 (同附属品を含む)

検査および測定機器
 (研究・試験・臨床検査・診断・ME・顕微鏡他)
 病院設備装置および機器
 (診察室・病室・滅菌消毒機器を含む)
 事務・病歴用機器
 衛生材料およびディスプレイ製品
 薬科機器

本邦初のリホ化製剤

持続的な抗炎症作用と副作用の軽減化

慢性関節リウマチの治療に……

新発売



薬価収載

合成副腎皮質ホルモン剤

リマタゾン®

品名 甲バルミチン酢酸デキサメタゾン製剤

■ 効能・効果

慢性関節リウマチ

■ 用法・用量

通常成人1回1管(デキサメタゾンとして2.5mg)を2週に1回静脈内注射する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

■ 使用上の注意

(1) 一般的注意

本剤は脂肪球に副腎皮質ホルモン(バルミチン酢酸デキサメタゾン)を溶解した薬剤なので投与により、誘発感染症、壊発性副腎皮質機能不全、消化性潰瘍、糖尿病、精神障害等の重篤な副作用があらわれることがあるので、本剤の投与に当たっては、次の注意が必要である。

- 1) 投与に際しては特に適応、症状を考慮し、消炎鎮痛剤、金剤等で制御できない難治例に使用すること。
- 2) 投与中は副作用の出現に対し、常に十分な配慮と観察を行い、また、患者をストレスから避けるようにすること。
- 3) 適用後、投与を急に中止すると、ときに発熱、頭痛、食欲不振、脱力感、筋肉痛、関節痛、ショック症状等の離脱症状があらわれることがあるので、投与を中止する場合には、徐々に減量するなど慎重に行うこと。離脱症状があらわれた場合には、直ちに再投与又は増量すること。

* その他の使用上の注意は製品添付文量をご参照ください。

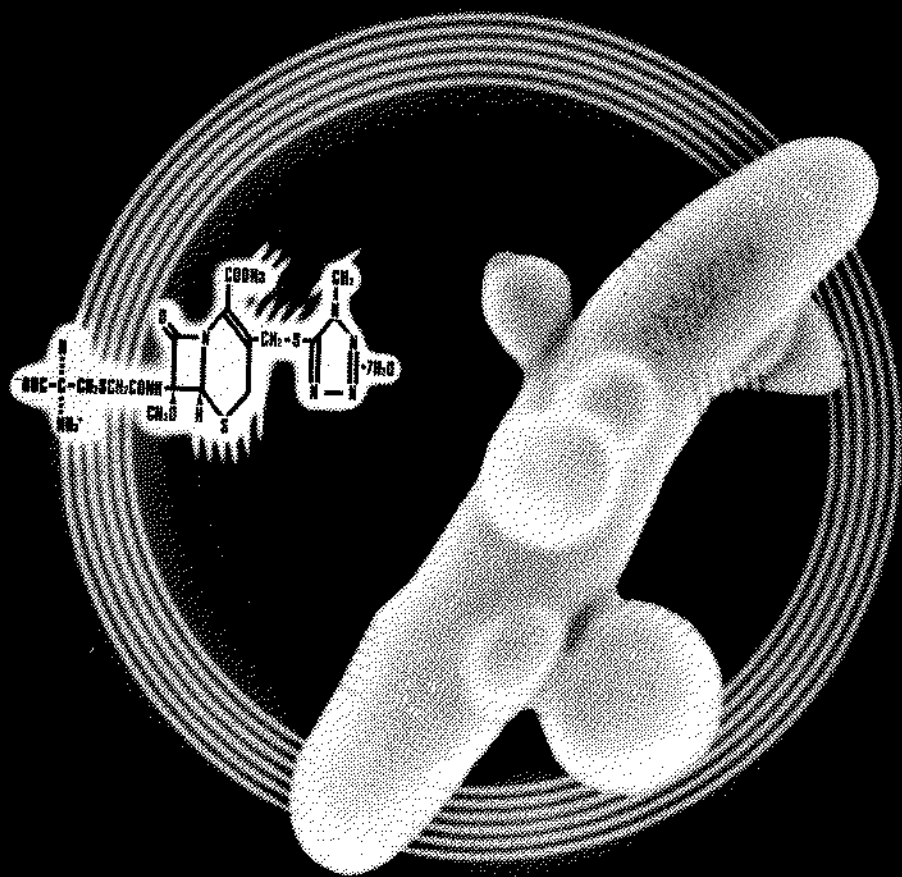
APAM 三ドリ十字

株式会社三ドリ十字 〒541 大阪市東区今橋1-15-1

登録商標

Dual actionが差をつけた新Cephem

Multi bulge ▶ 短時間殺菌 ▶ 優れた生体内効果



特

1. Dual actionがMulti bulgeを形成することによる強い殺菌作用

2. 細菌の増殖期のみならず、定常期初期にも発揮される殺菌力

性

3. 嫌気性菌をもカバーする抗菌スペクトラム

その結果、各科領域で優れた臨床効果と高い安全性が確認されました。是非、先生のご試用をお願いいたします。
使用上の注意(抜粋)

(1) 一般的注意

- 1) ショック等の反応を予測するため、十分な問診をすること。なお、事前に皮膚反応を実施することが望ましい。
- 2) 飲酒により、顔面紅潮、心悸亢進、めまい、頭痛、嘔気等があらわれることがあるので投与期間中及び投与後少なくとも1週間は飲酒を避けること。

(2) 次の患者には投与しないこと

既往に本剤に対する過敏症を起こした患者

(3) 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 既往にペニシリン系又はセフェム系(セファロスポリン系及びセファマイシン系)薬剤に対する過敏症を起こした患者
- 2) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギー症状を起こしやすい体質を有する患者
- 3) 高度の腎障害のある患者
- 4) 経口摂取の不良な患者又は非経口栄養の患者、高齢者、全身状態の悪い患者(ビタミンK欠乏症状が誘われることがあるので観察を十分に行うこと。)

セファマイシン系抗生物質製剤

注射用メイセリン®

MEICELIN® FOR INJECTION

日抗基：注射用セフェミクスナトリウム

* 効能・効果、用法・用量、その他の使用上の注意等の詳細は、添付文書をご覧ください。



明治製薬株式会社
104 東京都中央区京橋2-4-16

TEL: (03) 272-6511

健保適用

健保適用

アレルギー性疾患 慢性肝疾患に……

■グリチルリチン製剤

強力ネオミノファーゲンシー

健保略称 強ミノC

●作用

抗アレルギー作用、抗炎症作用、解毒作用、インターフェロン誘起作用、および肝細胞障害抑制・修復促進作用を有します。

●用法・用量

1日1回、1管(2ml、5ml、または20ml)を皮下または静脈内に注射。
症状により適宜増減。

慢性肝疾患には、1日1回、40mlを静脈内に注射。年齢、症状により適宜増減。

●適応症

アレルギー性疾患(喘息、蕁麻疹、湿疹、ストロフルス、アレルギー性鼻炎など)。食中毒。薬物中毒、薬物過敏症、口内炎。

慢性肝疾患における肝機能異常の改善。

包装 20ml 5管・30管、5ml 5管・50管、2ml 10管・100管
※使用上の注意は、製品の添付文書をご参照下さい。

●内服療法には

グリチロン錠 錠二号

包装 1000錠、5000錠

持田製薬本舗 営業本部 〒107 東京都港区赤坂8-10-22 TEL(402)6201

心機能を改善し、運動耐容能増加。

——虚血性心疾患に伴う動悸・息切れの改善に——

循環機能改善剤

ロコルナル錠 (指 薬指)

ROCORNAL Tab. 50mg/100mg (一般名:トラビシル)

【効能・効果】

- 狭心症
- 下記疾患にもとづく諸症状の改善
脳梗塞後遺症、脳出血後遺症

【用法・用量】

トラビシルとして通常、成人1回100mgを1日3回経口投与する。なお、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 次の患者には投与しないこと。
頭蓋内出血発作後、止血が完成していないと考えられる患者
2. 次の患者には慎重に投与すること。肝障害のある患者
3. 副作用

の過敏症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

12. 肝臓 ときにGOT、GPT等の上昇があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止すること。
13. 消化器系 ときに胃重感、胃部膨満感、胃部不快感、嘔気、嘔吐、食欲不振、腹痛が、またまれに下痢、便秘等の症状があらわれることがある。
14. 精神神経系 ときに頭痛、めまいが、またまれに顔部不快感、ねむけ、倦怠感等の症状があらわれることがある。
15. 循環器系 まれに心悸亢進、血圧低下、胸部圧迫感、胸部不快感等の症状があらわれることがある。

健保適用

(1)過敏症 ときに発疹、痒痒感が、またまれに発熱等

※その他の「使用上の注意」等は添付文書を参照



〈資料請求先〉
持田製薬株式会社

MOCHIDA 東京都新宿区四谷1-13-1 7番地 〒160

総合医薬品卸商社



山尾薬品株式会社

本社 〒600 京都市下京区堀川通松原東北角

電話 075-361-2111 (大代表) 075-361-0121 (代表)

練部営業所 ☎(0773)42-1101

高槻営業所 ☎(0726)71-2425~30

舞鶴営業所 ☎(0773)62-9451~4

豊中営業所 ☎(06)333-3773

滋賀営業所 ☎(0748)33-4101~6

東大阪営業所 ☎(0729)62-1411~4

東滋賀営業所 ☎(0749)24-1591~5

奈良営業所 ☎(0742)33-6131~3

西滋賀営業所 ☎(0775)92-1300~3

●心身症(高血圧症、胃・十二指腸潰瘍)の不安・緊張・抑うつ・睡眠障害に

●腰痛症、頸椎症、筋収縮性頭痛の不安・緊張・抑うつおよび筋緊張に

強力な抗不安作用と

優れた鎮静・催眠作用、筋緊張緩解作用、抗うつ作用

精神安定剤

デパス[®] 錠0.5mg・1mg
細粒

エチゾラム 塩(要指)

DEPAS

●(効能・効果)〈用法・用量〉〈使用上の注意〉等については
添付文書をご参照願います。(健保適用)



〈資料請求先〉

吉富製薬株式会社

〒541 大阪市中央区平野町二丁目5番9号

DP-8 (E5-2) 1989年2月作成